



平成27年度 学社融合実践集録



平成28年 3月

田辺市教育委員会

はじめに

平成28年1月22日、紀南文化会館において、子どもたちが語り継ぐ『田辺市熊野古道語り部ジュニア発表会』を行いました。堂々とふるさとを語る子どもたちの姿に、観客からはたくさんの拍手をいただきました。

今年度田辺市が取り組もうとしている学社融合は、校区に熊野古道を抱える小・中学校では熊野古道のことを、その他の小・中学校では地域の歴史や文化・産業のことを、地域の方々から学びます。そして、学んだことをまとめ、小学生は日本語で、中学生は英語で語っていこうとするものです。

子どもたちが、生活している地域を知り、そのことについてより詳しく調べ、調べたことを地域の方にはもちろんのこと、地域を訪れた方々に知らせることにより、自分たちの住んでいるふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思う子どもたちに育てていこうと考えてのことです。

学校開放月間である11月の文化発表会では、各校において、趣向を凝らした地域学習の発表がなされ、参観された方々から「ふうん。そうだったのか。」「知らなかったよう。」等々の声が聞かれました。また、生涯学習フェスティバルに展示された学社融合の取組内容も、それぞれの校区のよさが表現され、目を見張る出来栄でした。

地域学習を進めることで、児童や教師が地域の歴史や文化への理解を深め、今まで以上に地域を大切に作る心や、地域に住む人を誇りに思う心が育ってきています。さらに、地域全体で子どもたちを育てていこうとする気運が高まってきています。

このように、学社融合を推進することで地域がひとつにまとまり、「次はどんなことをしようか。」「来年まで元気でいなければ。」と地域に活気を呼び起こしていることが窺えます。

また、今年度からは学社融合のダブル指定として、東陽中学校及び東部・南部公民館を、そして、共育コミュニティ本部事業として稲成地域（稲成小学校・稲成公民館）を新たに指定し、取り組んでいるところであります。

今後も、全ての園・学校での学社融合の推進を公民館と連携して進め、教育活動の充実と地域の活性化に努めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、お忙しい中ご講評頂きました越田幸洋先生に心よりお礼申し上げますとともに、本冊子（実践集録）が有効に活用され、田辺市の学社融合の実践がさらに前進することを期待しています。

平成28年3月

田辺市教育委員会 教育長 中村 久仁生

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
伏菟野小学校	23
上秋津小学校	25
秋津川小学校	27
上芳養小学校	29
中芳養小学校	31
田辺東部小学校	33
龍神小学校	35
上山路小学校	37
中山路小学校	39
咲楽小学校	41
中辺路小学校	43
近野小学校	45
鮎川小学校	47
富里小学校	49
三里小学校	51
本宮小学校	53

[中学校]

東陽中学校	55
明洋中学校	57
高雄中学校	59
新庄中学校	61
衣笠中学校	63
上秋津中学校	65
秋津川中学校	67
上芳養中学校	69
中芳養中学校	71
龍神中学校	73
中辺路中学校	75
近野中学校	77
大塔中学校	79
本宮中学校	81

[幼稚園]

新庄幼稚園	83
三栖幼稚園	85
上秋津幼稚園	87
中芳養幼稚園	89

[講評]	91
------	----

(学社融合研究所 越田 幸洋 先生)

[学社融合実践集録]



※田辺市合併 10 周年記念事業

平成 28 年 1 月 22 日(金)

『田辺市熊野古道語り部ジュニア発表会風景』

学社融合活動実施報告

学校・園名		田辺第一小学校		公民館名		中部公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校の校区は、城下町の名残が豊かで、その地名や産業などがそれを示している歴史と伝統にあふれる地域である。田辺市の中心として商店街が栄え、現在も商店の再生・活性化をはかる人々が様々な取組を進めている。また、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、大変熱心に学校教育活動を支援してくれる人材に恵まれている。これらの地域の人材や資源を生かし本校では、従来から、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などに地域の方をゲストティーチャーとして招いた活動を取り入れている。また、平成21年度から3年間、「地域の教育力を生かした学社融合事業の推進」をテーマに教育委員会指定研究に取り組んできた実績を継続しながら、さらに発展できるよう取組を進めている。							
活動名				学年・教科・領域等			
地域とふれあい、校区を学ぶ				2年、3年、5年、6年 生活科、社会科、総合的な学習の時間			
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・町たんけんやフィールドワークを通して地域の方とふれあい、校区の様子を知る。 ・地域の偉人「南方熊楠」の探究する姿に学び、自ら考え行動し、判断する力を育てることができる。 ・地域学習を通して、歴史や文化、自然を学び、学校や地域に対する誇りと愛情を育てる。 ・調べたことを発信することで伝え合う力の育成を図り、地域の方と共に学びを共有することができる。 					
	地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が熱心に学ぶ姿から、地域住民も生涯学習の重要性に改めて気付くことができる。 ・児童の調べ学習の成果を冊子にして公民館に設置することで、いつでも誰でも手に取れるようにする。 ・学校を核とした学び(知識)を地域に還元する。 ・授業を通じて、地域と学校(児童)共に感動の伝わるふれあいを提供する。 					
支援者及び支援組織							
田辺観光ボランティアガイド 地域の方々 熊楠学(地域学習コーディネーター) 公民館 保護者							
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)							
今年度は、地域に向いて学びを広げることができ、さらに学んだことを地域に発信することができた。							
これまで		①		今年度		④	
学校や地域で学んだことを発信する		学校		地域に出向いた先で学びを広げて学校へ持ち帰り、発信する		フィールドワーク先での新しい出会い	
②		③		①		②	
フィールドワーク		フィールドワーク		フィールドワーク先での新しい出会い		地域の方々	
学校		地域		学校		地域の方々	
①		②		③		④	
双方向の学び		双方向の学び		学習の深まり		学習の深まり	
日時	活動名・活動内容			ねらい、活動の様子など			
5月1日	6年フィールドワーク 郷土の歴史再発見。			観光ガイドさんと校区を歩き、田辺の歴史を再発見する。			
5月8日	6年総合 修学旅行の見学場所を調べる。			愛知、岐阜、奈良、京都、大阪での学習を前に見どころを学ぶ。			
5月19日	5年総合 校区にゆかりのある先人を調べる。			熊楠学の方々から先人について学び、学んだことを発信する。			
5月22日	南方熊楠ゆかりの地を探る。			観光ガイドさんとゆかりの地を訪れ、歴史について学ぶ。			
6月2日	5年フィールドワーク 熊野古道と校区とのつながり			熊野古道を知る。校区と先人との関係を調べる。			
6月16日	2年町たんけん 自分たちの町を調べる。			地域を歩き、町のようすを学ぶ。			
12月2日～計5回	6年総合 江戸の町へタイムスリップ～郷土の歴史を伝えよう～			江戸時代の田辺について、犬山市と比較して調べる。熊楠学の方々のご協力の下、調べたことをポスターにまとめる。			
2月3日	6年総合 ポスターセッション			調べたことをパネルディスカッションし、地域の方々に学習の成果を発信する。また、茨城県高萩市の小学校と交流する。			
2年生		3年生		5年生		6年生	
							

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習では、学校から地域へ行く、あるいは地域の方に学校へ来て頂いて学ぶといった学習形態であった。今年度は、地域へ学びに出かけた先で住人の方との出会いがあり、自宅に呼んで頂いて、保管されている文献や写真を見せて頂き、また当時の話を聞かせてもらうことができた。 ・学習の成果を記録し、次の学習資料として活用する冊子「わたしたちの田一」を改訂し発行することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との繋がりが大きな学習の深まりとなったので、今後も地域と児童がかかわる場を大切に、地域の力を貸して頂けるよう公民館と協力して情報を発信していく。 ・地域学習をきっかけとして、児童の自主的な学びに繋がるよう、学習内容を工夫していく必要がある。 ・地域の歴史についてまだまだ知らないこともあり、教員側の知識も浅いため、職員内での研修を深める必要がある。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク先で地域住民の方と繋がりをもちことができ、地域の生きた歴史を学べたことで、郷土を誇りに思う気持ちが芽生えた。 ・学習に参加した地域の方からご指導・アドバイスを頂ける事で、より深まりのある学習となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な経験ができた喜びと、教えて頂いた方への感謝の気持ちをより高めさせ、学習の成果を地域へ発信していく主体的な取組ができるようになっていきたい。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の成果を冊子という形に残すことによって、児童の学びの達成感を刺激することができた。 ・フィールドワーク先での予期せぬ地域住民との出会いから、歴史を肌で感じる事ができ、より深い学習内容になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で地域の方の話を聞き、その内容が今しか聞けない貴重なものであることを理解したうえで、得た知識を伝えていくことの重要性を理解する必要がある。
地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の取組が地域に定着しているため、児童を受け入れることに抵抗がなく、地域から積極的に情報を提供しようという動きがみえるようになった。 ・児童に教えることが自らの学びであり、それが個人の充実に繋がっている。 ・学習の成果を冊子にしたことで、地域の歴史や情報を次世代に引き継ぐことが可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このような取組を継続するためには、地域に古くから住み続け、語り継いでくれる人材が必要である。将来、その一翼を田一小の児童が担ってくれることを地域は願っている。 ・素晴らしい学習成果を、より多くの方に見ていただけるよう、学校と協力して情報を発信していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々のご協力があり、学校だけでは得ることができない知識を身につけることができた。 ・観光ボランティアガイドさんや熊楠学の方々が児童の活動と一緒に参加して頂けることで、より学びが深まり、どのグループも満足のいく活動となった。また、観光ボランティアガイドさんや熊楠学の方々も回数を重ねていく中で、新たな知識を提供できるよう勉強していただき、互いにより効果的な学習になっていると思う。 ・年々、より深い学びができており、学習冊子「わたしたちの田辺第一小学校」に新たに学習した事を追記して発行することができた。 <p><次年度に向けての取組の方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、学校だよりや公民館だよりなどを通して活動の様子や学習の成果を発信し、地域の方々のご協力が得られるようにしていく。 ・フィールドワークを実施する前には、地域に協力をお願いを呼びかけし、双方の学びをより深められるようにしていく。 ・学校と地域の繋がりがより深まるよう、児童の地域貢献について考え、学社融合の取組を一層高めていくようにする。 		

学社融合活動実施報告

学校・園名		田辺第二小学校	公民館名	東部・南部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は「地域の活動に参加し、ふるさとを愛する子」を教育目標のひとつに掲げ、地域にある2つの公民館と連携を図りながら学社融合の取組を進めているところである。具体的には第2土曜日に実施している「いけばな子ども教室」、公民館で行われる文化展への児童や職員の作品出品、幼保小中及び地域と合同で行われる地震津波避難合同訓練など、数多くの取組が挙げられる。 その中でも沿岸部に位置する本校や地域にとって、防災に対する取組は共通の重要課題である。そこで、これらを中心に学社融合の取組を推進し、学校・公民館・地域とのさらなる連携強化を図っていききたい。				
活動名		防災安全学習への取組より		
学年・教科・領域等		全学年 特別活動(学級活動)		
目 標	学校・園	南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらのことを通して、主体的な判断力・行動力を持った子供たちを育てていきたい。		
	地域・公民館(公民館)	地震津波防災に対する課題は、地域住民にとって切実なものであり、それゆえ地域全体としての関心も高い。地域住民・地域と学校とのつながりを強化し、自助・共助の重要性を理解し、さらにその意識を高める機会としたい。		
支援者及び支援組織 学校 東部・南部公民館 東陽中学校 紀南看護専門学校 立正幼稚園 みどり保育所 あゆみ保育所 紀南幼稚園 交通指導員				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
月日	活動名	活動内容		
5月28日	合同避難訓練打ち合わせ会	6月に行われる合同避難訓練への参加体制や避難ルート等についての計画を行う。		
6月12日 ～23日	学年別防災参観日	6月を防災安全学習強化月間と位置付け、低中高学年別に防災安全学習に関わった参観日を実施した。授業後の懇談会では、家庭でも防災に対する意識を高めることや、家族内での決めごとを持つことの大切さ等について交流した。		
6月12日	第1回合同避難訓練	当日は高学年が低学年を誘導する形で避難した。		
6月21日	合同避難訓練反省会	合同避難訓練実施後の課題を明確にし、次回の訓練実施に向けての確認を行う。		
6月30日	地区懇談会打ち合わせ会	「地域ぐるみで子供たちを育てる」をひとつのテーマとして懇談会を開催するための計画と、校内避難場所の研修を行った。		
7月28日	地区懇談会	地域の避難場所の確認と、地域の避難訓練に保護者や児童にも積極的に参加を呼びかけていくことを確認した。		
10月29日	合同避難訓練打ち合わせ会	11月に行われる合同避難訓練への参加体制や避難ルート等についての計画を行う。		
11月15日	校区内の避難場所の確認	日曜参観日(校内音楽会)の後、児童が保護者と共に、校区内の避難場所を確認した。		
11月20日	第2回合同避難訓練	今回は東陽中学校とも同時刻・同一場所への避難とし、実際の避難場所での状況把握を行った。		
1月24日	合同避難訓練打ち合わせ会	2月に行われる合同避難訓練への参加体制や避難ルート等についての計画を行う。		
2月17日	第3回合同避難訓練	近隣の幼稚園や保育所、地域の方々と合同で訓練を行う。		
2月21日	田辺市町内会南部ブロック合同防災訓練の呼びかけ	公民館が町内会に呼びかけを行って実施する。また、校舎屋上への避難確認も行う。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・合同避難訓練の実施月を、防災安全教育の強化月間と定めた。そのことで学校の取組み状況を保護者や地域へ明確に発信することができた。 ・「児童の健全育成」をテーマに地区懇談会を開催した。それにより学校・家庭・地域で子供たちを育てる為には等を中心に話し合いの場を持つことができ、情報や課題を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や保護者の方々と一緒に避難場所を確認することができたのはよかった。しかし、緊急時に実際にすぐ行動に移せるよう家庭でも十分共通理解することが重要である。 ・防災に関わった問題は、子供にとっても、保護者にとっても、地域にとっても、また学校にとっても身近で切実な問題である。そのためにも今後もさらに連携を強化していくことが重要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップ作りでは、子供たちが改めて地域を見直すきっかけとなり、災害が起こったときの避難について具体的にイメージすることができた。 ・11月の日曜参観後、グループに分かれて、校区内の避難場所の確認を行った。避難経路や避難場所を再確認することで、校区のどの場所にも、近くの避難場所はどこかを理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちに自分の命を守ることの難しさ・大切さを実感させることはできたものの、今後来るべき災害に対しての減災意識の向上や主体的な判断力の向上など、さらに継続的な取組みが必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して防災安全学習に対する取組を継続させたことで、子供たちは自分の住んでいる地域に目を向け、自分のまわりの「もの・人・こと」に少しずつ関心を持つようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での避難訓練にはしっかりと取り組めるが、地域での防災訓練へは子供たちの参加が少ない。これからも積極的な参加を促し、地域の方々とのつながりを深め、いざというときには自助だけでなく、地域の一員として共助の意識を育てるきっかけとさせたい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や公民館と合同で避難訓練を重ねることで、学校の取組を理解してもらえた。また、児童と一緒に避難することで、避難場所や避難経路を再確認する等、防災意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災には地域住民みんなの意識を高めることが重要であるが、地域での防災学習や訓練、または地区懇談会などの参加人数が年々少なくなっている。保護者世代の参加を促すように働きかけていきたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

田二っ子を育てる会
7月28日(火)に開催

各地区とも開催日があります
開催日:7月28日(火)
開催時間:午後7時30分

東部区・神田	神田町分館
新下宿	新下宿分館
東区・東本町	東区分館
通 南	通南分館
神子沢	神子沢分館
文 堂	文堂分館
東 山	東山分館

田辺第二小学校
田辺第二小学校女子部
田辺第二小学校の附属幼稚園
東部公民館 南部公民館

問い合わせ先: 田二小 22-8427

これらの取組を通してお互いの問題を共有化することができた点は大きい。例えば、学校としては子供たちを無事に避難させるために交通量の多い道路を横断しなければならない。そのためには地域の方々の協力を得る必要がある。また、学校以外の場所にいた時に、大地震、大津波警報が発令された場合に一番近い避難場所はどこかをすぐに判断し行動に移せるよう、普段から意識を持つことが大切であると共に、家庭での話し合いも必要である。次年度は、全保護者に校区内の各避難場所を周知してもらうよう取り組んでいきたい。



学社融合活動実施報告

学校・園名		田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、西部公民館、西部センターや天神児童館と共同・連携しながら、各種事業や行事を行っている。地域社会の中で児童をいかに育成していくかは本校にとっての大きな課題である。そのため、地域を知る取組として、地域に出かけたり、体験的な活動を通して積極的な地域との交流を図るようにしてきた。 本校は、これまで地域とともに同和教育、人権教育に取り組む中で、西部センターとは「天神町の教育を進める会」で、天神児童館とは「西部子供エンパワーメント支援事業」などで連携し進めてきた。西部公民館とは、公民館と学校を結ぶ事業や取組について協議し、西部公民館主催で本校に「西部公民館・明洋中学校作品展示コーナー」を実施してきた。				
活動名		西部地域学社融合推進協議会		
学年・教科・領域等		各学年・国語科、算数科、生活科、特別活動、総合的な学習の時間		
目	学校・園	①子供の教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合(生涯学習)を推進し、さらに充実する。		
	地域(公民館)	①「地域の子供は、地域の中で育てていく。」という意識をさらに高めていく。 ②学社融合事業をもっと地域に浸透させていく。		
支援者及び支援組織				
西部公民館および西部地域自主防災協議会・各地区の町内会				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
4月 3年 天神崎の生き物、4年 天神崎クリーン作戦(25日) 5月 3年 町探検(12日) 6月 2年 町探検(5日)、6年 タウンウォッチング(23日)、5年 西部花いっぱい運動・土作り(12日) 7月 4年 俳句を作ろう(8日)、5年 西部花いっぱい運動・花植え(4日) 9月 2年 月見団子作り(9日)、4年 天神崎クリーン作戦(西部老人クラブと合同)(20日) 10月 2年 児童館探検(22日)、6年 ミシン学習(25日、27日)、4年 グラウンドゴルフ(14日) 11月 1年 カタカナ学習(10日)、3年 昔のくらし(26日)、4年 俳句を作ろう(11日) 5年 天神崎学習・日和山観察(4日)、西部花いっぱい運動(19日)、6年 防災学習発表会(14日) 4・5・6年 クラブ活動(11日)、学校開放週間(9日～14日) 12月 1年 昔あそび(1日)、4・5・6年 クラブ活動(16日) 1月 2年 七草がゆ作り、5年 ミシンぞうきん作り 2月 4年 俳句をつくろう				
(2015年)西部地域学社融合推進協議会の事業との取組の様子				
				
1年 楽しくカタカナ学習		2年 おいしい月見だんご作り		3年 天神崎の学習
				
4年 俳句を作ろう		5年 花いっぱい運動の取組		6年 ミシン学習
メルヘンさん(読み聞かせ)				

	成 果	課 題
学校・園	各学年共、学習ボランティアの方との学習が定着し、学力向上を目標とした授業展開ができています。また、経験からアドバイスいただくことで、学習活動を広げ深めることができました。児童が意欲的に取り組めるような学習内容を組み立てることで、楽しく授業が進められています。「家庭学習の手引き」を配布し、自主的に家庭学習に取り組めるような手立てをしている。保護者にも、家庭学習の意義を伝えるようにしている。また、基本的な生活習慣の見直しに向けた「田三小 BOOK はなまるデー(ノーゲーム、ノーテレビの日:毎月13日実施)」の取組も定着し、基本的な生活習慣を見直す機会がもてている。	西部地域学社融合推進協議会との連携および、マンパワー(地域コーディネーター・学習ボランティア:OK先生)の拡大と連携を図り、各事業の充実と今後を見据えた事業展開を行うことが大切である。またさらに、西部地域学社融合推進協議会の事業を発展させていくことが望まれる。
*子供にとって	地域の方を交えて専門的な知識に触れることにより、学習が深まり、児童の学習意欲に繋げることができた。学力を付けるだけでなく、話す力や聞く力をつけることもできた。また、OK先生から優しい言葉かけをいただき、学習する喜びを味わい、地域の方と触れ合う良さを感じることができた。大人の方との接し方を学ぶこともでき、社会性も育っている。	学社融合の取組を通して、地域の中で生きる力を育むと共に、学力向上を目標に、全体の児童に主体性をもって学習に取り組む姿勢と、基礎・基本の力を定着させる必要がある。地域を大切に、その中の一員であることを自覚して生活を送る心を育てることが望まれる。
*子供にとって	当事業を実施することで、地域の良さや人の温かさを感じることができている。	これらの活動を通して、自分自身が感じたこと、体験したことを大きな糧として、様々な場面で生かすことができればと思う。
地域(公民館)	地域コーディネーター自らが、学校と調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており、地域主導型の学社融合事業が着実に浸透している。	学習支援ボランティアの固定化や高齢化が進み、何らかの手立てを講じていかなければならない時期である。新たに加わった地域コーディネーターのネットワークを当事業に取り込みながら、地域の幅広い年齢層の方々や人材発掘に力を注いでいかなければならない。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p>学年の授業内容に合わせて、学習ボランティア(OK先生)が協力して下さることにより、児童が生き生きと学習に取り組んでいる。児童は、学習したことで得られる達成感や成就感を味わい、次の学習を楽しみに待つようになってきた。また、この取組を進めることで、児童の学力定着を図る指導にも十分生かされてきている。公民館便りや学校便り等で取組の様子や事業の報告をすることで、町内会や老人会、各種団体等地域全体に伝わり、関係団体や学習ボランティアの方々に理解が得られ、協力をしていただけようになってきたと考えられる。</p> <p>また、年を重ねるごとに、昔の暮らしや遊び、俳句学習・ミシン学習など、普段馴染みのない学習にも親しみをもてるようになってきた。毎年、学習計画の中に組み入れることで、指導方法にもより効果が見られるようになってきている。授業を通しての会話や触れ合いの中から温かな人間関係が築けるようになり、年上の方に対する礼儀をわきまえる態度も育ってきている。学校便りや育成会広報紙などを活用し、学校や児童の様子を広く地域の方に知らせ、また、運動会には地域のお年寄りを招待し、交流種目を通して親睦を深めるような取組を進めてきた。</p> <p>今後は、教師や児童も地域の文化や資源などのことをさらに研究し、理解を深め、地域が一つになるための活動計画を考え、進めていくことが大切である。また、地域に住む人々に感謝し、誇りに思う心を育成していく必要がある。サークルの方との協働で定期的に行っている本の読み聞かせについても、長く取り組むことで定着してきているので、今後も続けていきたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校・園名		芳養小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 芳養小学校では、「芳養共育コミュニティ本部」を学社融合の基盤とし、「子供の安心、安全に関する取組」「地域の伝統文化の継承」「公民館との連携した取組」を中心に据え、学校・公民館・保護者・地域が一体となって話し合い、取組を進めている。加えて、地域の教育力を生かしたさまざまな授業の実践にも努め、地域の方々がSP(スクールパートナー)として参画し、担任とともに授業を作り上げている。また、平成19年から実行委員会を立ち上げスタートした「芳養ふれあい教室」は、芳養地域人材バンク登録者を中心に、多くの地域の方々が主体的に教室運営を行っている。講師も協力者も完全無償のボランティアであり、今年で9年目となる。どの教室についても、みんな「生きがい」や「やりがい」を感じながら積極的に取組を進めている。				
活動名			学年・教科・領域等	
芳養ふれあい教室・スクールパートナー			全学年 総合的な学習の時間・生活科	
目 標	学校・園	・学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。 ・児童が保護者や地域の方々と触れ合うことによって、コミュニケーション能力の育成を図る。		
	地域（公民館）	・子供たちと講師・協力者が交流し授業をすることで、子供たちのコミュニケーション能力を向上させ、講師・協力者に対しては生きがいづくりに繋げる。 ・学校と地域とが密に連携を取ることで、子供を自分たちの地域で育てていく環境を目指す。		
支援者及び支援組織 ・芳養ふれあい教室実行委員会(学校・公民館・児童センター・育友会・ボランティア代表) ・芳養ふれあい教室講師(地域・保護者のボランティア)				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ・学社融合を推進させるために公民館と学校が中心に結成した「芳養ふれあい教室実行委員会」を基盤に、学校側が放課後に多目的教室や体育館などを開放し、教室運営をする講師や協力者が茶道や囲碁などの教室を運営している。講師・協力者は全員がボランティアとして参加している。発足して今年で9年目、研究指定からは6年目である。教室は通常の教室が9教室(囲碁・キンボール・フェルト・茶道・かきかた・中国語・英語・生け花・読み聞かせ)で前期・後期に分け、実施している。継続の要因は、公民館の事務局がコーディネーターとして地域住民・学校・教育委員会と連絡を取って円滑に運営ができるようにしていることが挙げられる。				
芳養地域人材バンクには今年度39名の方が登録してくれている。芳養ふれあい教室の運営に関わってくれている方は30名である。また、人材バンク登録者はSP(スクールパートナー)として授業へも携わっていただいている。内容としては、初めて書道を学習する3年生の授業や、2年生が生活科で収穫したさつまいもを使ったむしパン作りなどである。学級担任とSPが事前に打ち合わせを行い、学習内容や実施する際のそれぞれの役割を確認する。今年度はこの他にも芳養浦音頭の振り付け指導や福祉体験等、地域の教育力を生かした授業の実践に取り組んだ。				
				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々が学校に出入りしやすくなり、学校と地域の垣根が少なくなった。 ・芳養ふれあい教室は、放課後の児童の居場所の一つとなっている。 ・講師・協力者の人数は、発足当初に比べて、2倍に増え、子供たちと関わりをもってくれる方が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい教室の講師や協力者は、発足当初に比べ増えている。反面、教室を担っている方々が固定化してきている。 ・講師や協力者に対して子供たち(児童会)から感謝の気持ちを伝える場や機会を設ける。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・時間さえ重複しなければいくつも教室を選ぶことができ、参加した児童は放課後になるのを楽しみにしている。活動や交流を通して心の安定感を育み、コミュニケーション能力の向上の一助となっている。 ・参加人数は、約492名(年間延べ人数)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室に継続して参加する児童が固定化してきており、学年が上がるにつれ参加人数が低くなる傾向にある。 ・貴重な体験ができる喜びや教えてくれる人に対する感謝の気持ちをよりいっそう高めたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・芳養ふれあい教室は、学校の放課後に実施しているため、子供たちの居場所作りにもなり、また、地域の講師・協力者と交流することで、コミュニケーション能力の向上と豊かな人間性を育むことが出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、教室は9教室(囲碁・キンボール・フェルト・茶道・かきかた・中国語・英語・生け花・読み聞かせ)ある。今後、子供たちがどういったことを学びたいか意見を取り入れ、新たに教室を設けるなどして様々な体験を深めさせたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・長年継続的に行われていることから、講師・協力者にとっては、芳養ふれあい教室が生活の一部となり、生きがいややりがいを持つことが出来ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、または保護者に対し、芳養ふれあい教室の取組をより深く知ってもらうために、効果的な周知方法を考えていく。 ・芳養ふれあい教室をこれからも継続させていくにあたって、講師・協力者の後継者を見つけることが必要。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が専門性や特技等を生かして教室を開いてくれているので、児童は生け花や茶道などの伝統文化やキンボールといったニュースポーツを体験することができている。 ・保護者の方も参観してくれる機会が増えた。地域住民と子供の関わりと共に、地域住民と保護者の世代の関わりも持つことができるようになってきた。 ・ボランティアを担っている方々が固定化してきている。地域の人々に声かけをしていく。 ・SP(スクールパートナー)を活用した授業の取組を充実させる。 		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		大坊小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 校区は大坊区と団栗区の二つの地域からなるが、児童数の減少で団栗地区の児童はしばらくの間在籍しない。それに反し、老人会の人数は増えているが、会長さんの話によれば、動ける人はそう多くないとの事である。しかし、毎年、白楽会の皆さんは、学校で注連縄作りを教えることを当然のこととして活動してくれており、運動会を始め多くの学校行事に参加してくれている。 11月からは、みかんの収穫が本格化し、地域の人たちにとっては、1年でもっとも忙しい時期に入る。そのため、主立った行事は10月に集中してくる。地域の方々や保護者は、学校に対して協力的であり、忙しい合間を縫って学校行事に参加して下さっている。おかげで児童と地域との関係も親密であり、地域に守られて生活できている。				
活動名		語ろう私たちの大坊・団栗 学年・教科・領域等 全校 生活科・総合的な学習の時間		
目 標	学校・園	地域の基幹産業である「みかん作り」を学習することにより、大坊・団栗のみかんの特徴と先人たちの知恵と工夫を知り、守り受け継いでいくことが出来るようにする。		
	地域（公民館）	・地域の基幹産業を児童たちに教えることで、生産者としての自負心を確認し、産業を絶やさずに引き継いでいく。 ・地域と学校のつながりを、より一層強くする。		
支援者及び支援組織 大坊・団栗のみかん生産者 大坊小学校教育友会 JA紀南				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 関係者会議等について 4月27日(月) 本年度の総合的な学習の時間のテーマと取組方法について確認する。 テーマは、「語ろう私たちの大坊・団栗」とし、基幹産業である「みかん作り」を中心に調べ学習を実施することに決定。				
6月 5日(金)		3年生以上の児童で合同会議を持ち、疑問を整理し、調べる内容を絞り込む。		
6月19日(金)		保護者への協力を依頼し、「みかん作りの歴史」について聞き取りを行う。		
7月 9日(木)		みかん作りの歴史に詳しい地元農家に、高学年が分担して聞き取り調査を実施する。		
7月13日(月)		JA紀南中芳養支所において講師を派遣してもらい、「みかんの品種」「大坊・団栗でのみかん作り」「みかんのおいしさの秘密」等についてお話を頂く。		
9月19日(土)		運動会を見に来てくれた地域の人にアンケート調査を実施する。		
10月 6日(火)		開校記念行事「学習発表会」で、調べた内容を全校児童で発表する。		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・大坊・団栗のみかんの特徴である「木成り完熟」について詳しく調べることが出来た。 ・運動会するとき地域の方々へのアンケートを実施でき、多くの方の意見を集められた。 ・低学年も発達段階に応じた課題で聞き取りをし、共に発表することが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「木成り完熟」については、他地域にはない独自のブランドであることを余りよく知らない児童が多かった。今後、機会を見つけて学習を進めたり、知識として広めていく必要を感じた。 ・来年度に向けての活動であったが、来年度の方向性を議論し、確立していく必要がある。 ・来年度、地域を語る活動にどのようなつながり、深めていくのが課題である。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の基幹産業である「みかん作り」の学習を通して、より一層地域愛を持つことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家がみかん農家である児童がほとんどであるが、将来実際に家業を継ぐ意志を持つ児童は少ないように感じられる。今後も「家庭での勤労体験学習」を通じて体験を深めさせたい。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の基幹産業である「みかん作り」の学習を通して、より一層地域愛を持つことが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校活動以外の地域活動や公民館活動にも参加してもらい、子供たちが自ら積極的に地域に関わっていける環境を作っていきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・今盛んに行われている貴重な基幹産業を、次世代につないでいく取組になった。 ・地域に対し アンケートを実施するなど、毎年継続的に児童が地域と密に関わる事で、地域に見守られる環境を作ることが出来てきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域と学校が密に連携を取り合い、児童の健全育成を図る新たな取組を展開していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・大坊・団栗地区の特色を語る時、みかん作りを抜きには語れない。しかし、全校児童が分担して取り組むのは大変難しく感じた。「木成り完熟」というキーワードで、全体が動きやすくなったように感じた。 ・ブランド作りに関わってきた農家の方に聞き取り調査をし、運動会で地域の農家に幅広くアンケート調査ができたことで、児童の調査能力とコミュニケーション能力の向上が図れ、学校の取組を理解してもらうことができ、より地域とのつながりが強くなったと感じた。 ・「木成り完熟」の始まりについては、2つの説があることが分かった。どちらが正しいのか最終的には分からなかったが、大坊・団栗のみかん農家にとって大切なブランドであることを全児童が実感できたように思う。 ・1、2学期に「家庭での勤労体験学習」を実施しているが、今回の学習でより実感を持って取り組んでいけると考える。 ・学習発表会には、例年以上に多くの方が参加して下さり、子供たちの発表を評価してくれた。 ・次年度は、従来の取組に戻るが、今回の成果を踏まえてより充実した内容にしていきたい。 		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		稲成小学校		公民館名		稲成公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校は今年度より3年間「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、テーマを『つなげよう 広げよう 稲成の「共育」！～新しい時代に向けて～』と設定し、さまざまな取組をスタートさせた。本地域は、大型スーパーや大型電気店の出店、また高速道路開通等で、学校周辺の田園風景は大きく変わってきた。それでも昔ながらの繋がり、教育熱心な土地柄から地域の学校に対する思いは依然熱いものがある。コミュニティ事業の取組として、①地域人材を生かした学習による「学校力」の向上、②保護者との信頼関係を基盤にした「家庭力」の向上、③ふるさと学習を通して培う「地域力」の向上を三つの柱に据え、地域ぐるみで子供を育てる体制を整えているところである。今年度は特に、授業に参画していただける学習支援ボランティアさんの発掘に力を入れ、また学習支援の他にも、3つの支援事業も立ち上げることができた。この取組を次年度に繋げ、さらに発展させていきたい。							
活動名				学年・教科・領域等			
地域人材を活用した「授業づくり」と「ふるさと学習」				全学年 全教科・総合的な時間			
目 標	学校・園	・地域の教育資源・地域人材を積極的に授業に活用することで、児童により高い関心、意欲を持たせる。 ・ねらいを明確にした授業の構築をめざし、地域人材のより効果的な導入方法を研究する。 ・「ふるさと学習」を積み上げ、地域を学び、地域への愛着を深める。					
	地域（公民館）	・地域の教育資源・地域人材を発掘する。 ・地域人材の知識や技能を生かし、学校と協力して授業づくりを研究する。 ・地域の子供を「学校・家庭・地域」で一体となって育てるという意識の向上を図る。					
支援者及び支援組織 稲成共育コミュニティ地域本部 稲小いわき会 稲成校区協議会 稲小公民館運営協力委員会							
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 今回は各教科や総合的な学習の時間で地域の方に学校に来ていただくなどして、一緒になって授業をつくっていく活動を中心に報告する。							
学年		内 容		学習支援ボランティア			
1		国語科 俳句作り(季節の言葉を集めて) 音楽科 日本の歌・わらべ歌		山本さん 津田さん・山田さん			
2		国語科 俳句作り(季節の言葉を集めて) 生活科 野菜を育てよう		辻本さん 山本さん			
3		国語科 書写く毛筆 総合 稲成のお地蔵様調べ		平さん 杉野さん・西山さん他8人			
4		社会科 消防団の仕事 総合 環境学習 (みかん農園での学習)		阪口さん・米田さん他3人 中本さん			
5		社会科 稲成の米作り 総合 伝統文化を受け継ごう (稲荷神社・獅子舞)		榎本さん 辻本さん 山田公民館長さん			
6		総合 「共に生きる」 障がい者理解(手話) 総合 「名所・旧跡」パンフレット 岩屋観音、ひき岩群、高山寺		近藤さん・北さん 池田住職・曾我部住職			



6年 高山寺について学ぶ



3年 地域の方に入ってもらったの毛筆の授業



4年 稲成消防団の人に入ってもらったの授業

		成 果		課 題		
学 校 ・ 園	・平成27年度から3年間の「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、これまでの本校の学社融合の取組を見直し、本校の課題を教職員で共有して、めざす方向を定めることができた。 ・教科に学習支援ボランティアさんが入ることにより、より高い関心と意欲を持たせることができた。「ふるさと学習」では地域人材の活用により、充実した内容となり、また新たな「ふるさと」の良さを発見することができた。		○「共育コミュニティ本部事業」の取組をさらに発展させていく。具体的には、 ・さらなる地域教育資源・地域人材を発掘する。 ・学習支援ボランティアさんを導入した授業作りのあり方の研究を深める。 ・本地域ならではの「ふるさと学習」を確立し、市内全体に発信する。 ○クラブ活動への地域人材の導入を進めていく。			
	*子供にとって	・地域人材を活用した授業により、興味・関心・意欲を持つことができた。また学習内容を深めることができた。 ・「ふるさと学習」では、地域の方々がたくさんふれ合うことで、支援ボランティアさんにはなくてはならない存在となった。		○教えてもらう、という受身の態勢になりがちであるため、児童が意欲的に取り込める活動を組み込むことが必要である。		
	*子供にとって	・地域の方が授業やふるさと学習に参画することによって、興味・関心・意欲が高まった。また、地域の方々顔見知りになり、小さな結びつきも生まれている。		○地域の一員であることの自覚を持ち、進んで地域のことを知り、地域の催しに積極的に参加することで地域の活性化につなげてもらいたい。		
地 域 (公民館)		・学校の授業に参画することにより、地域の方々を持っている知識を振り返る機会となった。 ・子供たちと触れ合うことで、小さな結びつきが生まれ、楽しみが生まれた。		○地域人材・地域にある教育資源をさらに発掘し、学習支援ボランティアとして学校に関わってほしい。 ○「共育コミュニティ本部事業」の取組を通し、地域・公民館・学校との連携をさらに深め、より充実した活動に発展させていきたい。		
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> ・今年度は、「共育コミュニティ本部事業」のスタートの年であり、学校と地域がともにめざす方向を定められたことは大きな成果であると考え。大きな3つの柱①学校力の向上②家庭力の向上③地域力の向上をめざし、新たな取組、新たな活動が始まっている。支援ボランティアにおいては、学習支援ボランティア、図書ボランティア、交通安全ボランティア、環境ボランティアを募り、すでに「学習支援」「図書」「交通安全」のそれぞれのボランティアは活動を始めている。 ・子供たちにとっては、より学習内容が充実しており、また保護者、地域に発信していくことで、地域にとってもふるさと稲成の良さ・伝統文化の継承の大切さを再認識することができた。						
<次年度にむけての取組の方向> ・今後も地域資源を活用した地域教材の開発・体系的なカリキュラム作り・授業構築をめざし取組を進めていきたい。また、これらの取組を進めながら、より学校と地域との結びつきを強くしていきたい。						



交通安全ボランティア



図書ボランティア

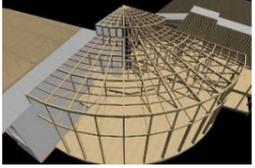
学社融合活動実施報告

学校・園名		会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、「会津さわやかコンサート」や「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、地域の各種団体との連携・協力を得ながら、様々な学習活動に取り組んでいる。 現在499名の児童が通学しており、校区協議会シニアパトロールの登下校の見守り活動や、公民館での「子供向け教室」、町内会の「防災訓練」「運動会」など、地域で積極的に子供たちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、子供たちのスポーツに対する関心を高めると共に、スポーツに親しむ多くの機会を提供している。				
活動名		会津さわやかコンサート・公民館教室		学年・教科・領域等 全校 特別活動(学校行事)
目 標	学校・園	様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して ・伝統や文化を含めた地域とその地域に住まう人々を大切に、感謝する心を養う。 ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。		
	地域（公民館）	・公民館事業を通じて、学校とは違う経験を子供たちにしてもらおう。 ・事業を通じて子供たちが地域とのつながりを築く。 ・将来を担う子供たちに、地域に興味を持ってもらう。		
支援者及び支援組織 会津小学校 秋津公民館 万呂公民館 会津校区協議会				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ○会津さわやかコンサート【平成27年11月8日】 ・会津校区協議会が主催し、学校・家庭・地域が一つになって、お互いの心が触れ合う時間を持ちたいという願いのもとで開催され、今回で第8回を迎えた。 ・内容…会津小学校1年生から6年生による学年別合唱、6年生による合奏、会津小学校合唱部による合唱・重唱、公民館サークルによる合唱、民謡・三味線教室による演奏、高雄中学校吹奏楽部による演奏、高雄中学校吹奏楽部による伴奏で全員合唱(ふるさと) ○七夕笹飾り作り【7月5日～8日】 ・子供たちの純真な心を込めた、願いごとや夢を書いた短冊を笹に飾り、地域の方々にご覧いただくことで、心のやすらぎ時間を与えられることができればと考案開催した。 ・内容…願いや夢を書いた短冊や飾りを笹につけ、地域内に展示。 ○おばけかぼちゃランタン作り・展示【8月30日～9月2日】 ・家庭や学校ではできない体験をしてもらおうとともに、大人になっても記憶に残るような地域の特徴を活かした取組ができればと考案して実施している。 ・内容…万呂緑の会委員会の方々が育て、おばけかぼちゃコンテストに出品したおばけかぼちゃ(アトラティック・ジャイアント)を使わせていただき、ランタンを作成。今年も子供たちは自由に顔を描いてくり抜き、表情豊かなランタンを作り上げた。それらを上記期間中、午後6時～午後8時頃、ろうそくを灯して万呂コミュニティセンターの玄関にて展示した。				
				
会津小学校各学年合唱		七夕笹飾り作り		おばけかぼちゃランタン作り

	成 果	課 題
学校・園	<p>様々な行事や教室では、発表や作品作りなどを通して、子供たちの取組が、より主体的で、より意欲的に行われた。学社融合の取組で、子供たちも、それに関わる地域住民たちも、楽しみながら、達成感や充足感を得ることができた。</p>	<p>「さわやかコンサート」では取組に関わる中心的な保護者は育友会本部役員、学級委員、地区委員である。コンサート当日は大変忙しいが、終了後は皆さん充実した表情で、成功を喜んでいただいている。役員は年度ごとに構成員が代わるので、回を重ねるごとに、取組の良さを実感された方が増えていき、より協力的で充実した取組になることを期待している。</p>
*子供にとつて	<p>学校や地域の行事、公民館の行事や教室を通して、地域の方と交流し、触れ合う機会を得た。時間・場所・目的が共有できたことで、子供と地域住民の絆が今後、さらに深まるきっかけとなることを期待している。</p>	<p>保護者・地域の方など身の回りの人に対して感謝の気持ちを持ち、その感謝の気持ちを、自分の言葉や行動で素直に表現できるようにしていきたい。また、交流を通してマナーや作法も身につけさせていきたい。</p>
*子供にとつて	<p>学校や公民館、地域での活動を通じて、地域の方々と触れ合う機会を持つことができた。地域の伝統文化や特色のある取組に触れることで、地域への愛着心が醸成されていくことを期待している。</p>	<p>子供たちの地域に対する愛着心や誇りをより高められるよう、子供たちが地域の方々と触れ合い、地域の伝統文化や特色に触れて考えることのできる機会をさらに増やしていきたい。また、将来的には地域の方々や地域活動の現場で取り組むことができるよう意識づけていきたい。</p>
地域（公民館）	<p>子供たちとの触れ合いの中で、取組の内容や子供たちの様子を知ることができた。取組を継続する中で、地域活動に参加してくれる児童や、関心を示してくれる児童もいて、そうした際に地域の方々には非常に喜び、やりがいを感じている。</p>	<p>全体として協力者・支援者の固定化がみられる。継続して取り組んでいくためにも、協力者・支援者の幅を広げ、地域全体として取組をすすめることができるよう考えていきたい。</p>
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・今年度の取組でも、子供たちや参加者に充実した笑顔が多く見られた。この充実した笑顔は、学社融合の取組の過程で、またその結果として、学校と公民館のそれぞれの目標が達成されてきているからであると考えている。今後も、目標の達成のために工夫・改善に努めていきたい。 ・学社融合が持続的に発展するためには、学校・公民館・地域のそれぞれにメリットがあることが必要である。そのためには、次年度に向けて改善すべきところは常に検討していくことが必要である。また、人材の確保も学社融合の継続的な取組には欠かせない。他の多くの行事との兼ね合いを考慮し、実施時期等については計画的に行う必要がある。		
		
さわやかコンサート 全員合唱「ふるさと」		七夕笹飾り
		
おばけかぼちゃランタン		

学社融合活動実施報告

学校・園名		新庄小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 新庄小学校では、地域と連携し、地域を知り、地域で学び、地域を愛する児童を育成することを目標に、農業、伝統的な祭りや行事、福祉、地震や津波等について学習する機会を設け取り組んでいる。 新庄地域は、古くから熊野の林業やそれに関連した製材業などが盛んであり、現在建築中の木造新校舎では紀州の木材がふんだんに使われたものとなっている。 県指定無形民族文化財祇園祭の夜見世「ぎおんさん」を始めとする伝統的な行事も多く、地域や各種団体の方々も学校教育活動にたいへん協力的である。 また、新庄公民館・新庄幼・新庄小・新庄二小・新庄中の担当者が定期的に集まり情報交換をしながら、年に一度合同研修会を開催し、当番校が公開授業等を行い全職員が共に研修をしている。				
活動名		「森の恵み紀州の木材」 ～地域語り部活動～		
学年・教科・領域等		5年 社会科、総合的な学習の時間		
目 標	学校・園	・地域の産業である木材加工業について調べ、紀州材の良さや現状、地域の人々の努力を知ることができる。 ・調べた内容から、地域のすばらしさを発信することができる。		
	地域（公民館）	地域の特色である木材加工を通して、地域の方々との交流を促し、併せて地域の特色を学習し、地元の文化について学んでもらう。		
支援者及び支援組織 地域の方々 新庄小学校校舎建築委員会 田辺木材協同組合 校舎建築工事事務所 新庄愛郷会 和歌山県林業研究グループ連絡協議会女性林研部会				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
6月	1. 木材が使われているところを知ろう			
7月	(1)校舎建築現場を見学する (2)木の種類を調べる			
9月	2. 木材加工場を取材しよう			
10月	(1)職人さんの作業を調べる (2)加工工場を調べる			
11月	3. 木材のことを調べよう			
12月	(1)和歌山県の林業を調べる (2)国内の木材の現状を調べる	 		
1月	4. 調べたことをまとめよう			
2月	(1)調べたことを整理する (2)調べたことを記事にする (3)発表資料をつくる			
2月	5. 調べたことを発表しよう			
	(1)発表の練習をする (2)発表会を行う	 		

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・教室だけでは教えられない地域の様子や、地域の想いなどを学ばせることができた。 ・地域の方に依頼したり共に活動したりする中で、地域の人々との距離が近くなってきた。 ・学校や子供のことを知ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が直接地域の役に立つようなものや学校の教育力を地域に生かすことのできるような活動を増やしていく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・建築現場や木材加工場を見学して、校舎建築について詳しく知ることができた。 ・地域へ出向き、地域の人に教えてもらうことにより、地域のことを知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は意欲的に活動しているが、積極性には個人差がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域の特色を知ることができ、地域の方と交流の場がもてたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の方々とより多く触れ合う機会を検討していきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流の場になった。 ・地域の産業を子供たちに伝えるとともに、地域と子供たちとの結びつきを深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域と積極的に関わり、つながりを一層深めたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<評価> ・建築現場や木材加工場を見学して、丸太から材木を切り出したり、加工して柱や梁にする作業を見て、校舎建築について詳しく知ることができた。 ・森林や林業について学習して、木を育てることや、森が環境に作用することなどを学ぶことができた。 ・地域で建築に関わる働く大人の姿を知ることにより、勤労に対する認識を深めることができた。 ・長期にわたる建築工程であるが、興味をもって学習することができた。 ・協力してくれた地域の人、関係者の人は積極的に関わってくれた。		
<次年度に向けて> ・来年度冬までの建築作業に沿って学習を進め、地域の学校、自分たちの学校として学校が完成するまでを調べるようにする。 ・調べたことを発表して、地域のすばらしさを発信する。		
  		

学社融合活動実施報告

学校・園名		新庄第二小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校校区は、他地域から移住してきた世帯が多く、昔からこの地域に住んでいる世帯は比較的少ない。そして、移住してきた世帯の多くが若い世代であり、昔からの世帯は年齢層が高い傾向が見られる。しかし、どの世帯も学校に対する関心はたいへん高く、協力的であるように感じる。保護者の構成は、ほとんどが他地域からの世帯であるが、新二まつり(文化祭)やサークル活動など、学校行事や学習活動などに、保護者だけでなく、昔からこの地域に住んでいる方々の協力も多面にわたっていて、若い世代と地域の方が協力した活動も多く見られる。したがって、地域・家庭・学校が共に子供を育てるという基本的な考えのもと、活動を広げていきやすい学校であり、地域であるといえる。				
活動名		新二まつり		
学年・教科・領域等		全学年 総合的な学習・生活科		
目	学校・園	児童会を中心に、新二校区の恵まれた環境の中で学んだことを、保護者・地域の方々に向けて発信するとともに世代を超えた「ふれあい」を通し、地域に生きる一員として、さらに新二校区を知り、校区、故郷を愛する、心情を育てる。		
	地域(公民館)	地域の方々に参加することで、子供たちや保護者と地域の方々との交流の場ができ、連帯意識を高める。		
支援者及び支援組織 育友会 小学校 公民館 婦人会 地域の方々				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 9月3日 新二まつり実行委員会・役員部長会 30日 職員会議「新二まつりについて」 ・要項提示 ・昨年度の新二まつりについて ・午後の体験活動の講師の見直し ・午後の体験活動交渉担当分担・依頼開始 10月7日 役員・部長会「新二まつりについて」 ・要項説明 ・講師への仮打診・新規体験活動についての検討 ・案内配布(「新二まつりご協力をお願い」プリントを保護者むけに配付) ・新二まつり協力委員会案内状配付 10月14日 職員会議「新二まつりについて」 ・進行状況確認 ・午後体験活動講師内容決定報告 ・実施詳細提案 10月15日 協力委員会 要項説明、各担当で打ち合わせ ・児童への体験活動アンケート 10月28日 職員会議「新二まつりについて」 ・体験活動人数最終確認 11月1日 「新二まつりのお知らせ」プリント配付 (11月の学校だより、館報等と地域に配付) ・体験活動・持ち物を保護者向けに配付 11月5日 ・1限6年いす並べ 午後 準備・図画作品展示など 11月6日 ・全体練習(朝の会・1限) 作品搬入・展示(放課後) 11月7日 ・準備(育友会各部会) 11月8日 ・新二まつり 11月9日 ・振替休業 11月10日 ・体験活動でお世話になった方へ児童がお礼状を書き、担当者が集約して持って行く。				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> 多くの保護者、地域の方々にお越しいただき、子供たちの発表を見てもらうことができた。 学習したことの発表を通して、地域の「よさ」を再確認してもらうことができた。 保護者、地域の方々に催し物の運営や体験活動の講師をお願いすることにより、開かれた学校として地域ぐるみで子供を育てていく取組を実践できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 準備を綿密に行い、運営をよりスムーズに行う。 一般の地域の方を巻き込むための手だてを考える。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 多くの大人との関わり、体験活動を通して、マナーを学んだり、つながりを強めることができた。 体験活動では、地域の方々に教えてもらいながら楽しく活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表をするときの態度、発表を聞くときのマナーを守る。 「当たり前」のことと思わず、保護者や地域の方々の協力があっただけという感謝の気持ちを忘れないようにする。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々から学ぶことにより、地域の良さを感じれた 	<ul style="list-style-type: none"> 子供、保護者、地域を繋ぐ大切な行事であることを、子供たちに意識づけていきたい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域、保護者が協力して事業を行うことにより、地域間の交流が図れ、活性化に繋がった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域から講師などより多くの人材確保に努め、子供たちに興味をもってもらう。 講師、協力者が固定化されないよう努めたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<ul style="list-style-type: none"> まつり当日は、昨年同様雨であったが、前日の準備段階で、テントの数や配置などを計画的に行うことができていたので、運営にも支障なく全体的にスムーズに行うことができた。 まつりの事前・前日・当日の準備も、育友会員や地域の方々、婦人会の方々が大変協力的である。 今年度は、3・4年生の学習発表をなくし、音楽発表のみとなったが、職員のバイオリンコンサートを行い、子どもたちに生のバイオリンの音を聞かせることができた。体験活動では、昨年度のファイヤーレスキューに引き続き、今年度はさらに発展させた形で防災教室を行うことができた。 課題としては、一般の地域住民の方々を巻き込み、より大きな活動にするための手だてを考えることである。 		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		三栖小学校		公民館名		三栖公民館	
学社融合における学校・地域の様子 本校区は、従来は梅を中心とする農村地域であったが、専業農家の数は減少傾向にあり、宅地造成や集合住宅の建設が進み、人口、世帯数共に増加してきている。田辺市内小学校27校中4番目に児童数の多い学校となっている。本校PTA組織は「育宝会」という名が示すように、子供は地域の宝という意識が地域全体にある。地域・保護者の学校教育に対する関心が高く、協力的である。「運動会」や「クラブ活動」、「総合的な学習の時間」では、保護者や婦人会、公民館の文化委員など各種団体と連携を図りながら取り組んでいる。「クラブ活動」(茶道、絵手紙、手芸、タグラグビー)では、地域のゲストティーチャーをお招きして指導していただいている。 また、月一回公民館が中心となり、三栖幼稚園、衣笠中学校との学社融合会議をもち、各校の行事について共通理解を図り、協力体制等について話し合いをもっている。							
活動名				学年・教科・領域等			
敬老会への参画、公・幼・小・中の連携				全学年 特別活動・生活科等			
目	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。 ・体験や物づくりを通して、コミュニケーションを図ると共に自他に関心を持つ。 ・地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。 					
	地域・公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・子供とそれぞれの地域への愛着、地域貢献の心を育む。 ・子供が、様々な立場の人とのふれあいを楽しみ、その中で人との関わり方を学ぶ。また、地域の一員であるという意識を高める。 ・地域住民が子供たちとのふれあいから、子供たちの様子を知り、教育活動への関心を高める。 					
支援者及び支援組織							
公民館・各町内会・老人会・三栖幼稚園・衣笠中学校							
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)							
<敬老会への参画>							
<ul style="list-style-type: none"> ・全学年の児童が校区の三町内会老人会対象の高齢者のみなさんへお祝いメッセージカードを書いた。 ・児童会役員がメッセージカードを、三栖、上野、城山の三町内会の会長に届けた。 ・ビデオレター(全学年の集合写真、校歌、お祝いメッセージ)を紹介した。 							
<三栖幼稚園・衣笠中学校・三栖公民館との連携>							
<ul style="list-style-type: none"> ◎三栖公民館 <ul style="list-style-type: none"> ・学社融合担当者会議を毎月一回もち、各校の行事等の共通理解を図った。 ・各種行事への参加・支援(史跡巡り、クラブ活動、運動会、高齢者との交流等)を要請した。 ・公民館だより(毎月発行・全戸配布)に学校の活動を記事として提供した。 公民館だよりとともに学校だよりを町内で回覧 ◎三栖幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> 5月19日 園外保育『三栖王子跡にお出かけ』に同行(公民館も合同) 6月2日 2年生 生活科 『探険に出発だ』 8月20日 夏季保育参観に出席 10月29日 園外保育『衣笠山へ登ろう』に同行(公民館共催) 11月18日 園内研修に出席(中学校、公民館も出席) ◎衣笠中学校 <ul style="list-style-type: none"> 8月5日 幼小中合同アレルギー研修 8月20日 クラブ活動参観 10月26日・27日 西牟婁郡陸上競技大会に向けての練習指導の助言 11月11日 第22回文化発表会に出席 2月5日 6年生 中学校体験 							
							
						お祝いメッセージ	
							
						園外保育 『三栖王子跡へお出かけ』	
							
						合同アレルギー研修	
							
						町内会長さんへ お祝いメッセージを届ける	
							
						2年生 生活科 『探険に出発だ』	

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会のメッセージの取組では、地域の宝として大切にしていた子供と高齢者の方々とのつながりが深まった。 ・中学校主催の保健研修ではドクターを招聘し、アナフィラキシーショックが身近におこりうることとして危機感を持つと共に、知識や理解を深める事ができた。 ・幼稚園・中学校の活動を参観したことで子供の育ちを考えながら学習できた。 ・幼稚園の参観は、入学してからの指導の参考になった。また中学校の参観では、卒業生の様子を見ることができた。関係教員との交流ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会へのメッセージについては、更に学年ごとに工夫を凝らしたものとなるよう主任会議で話し合う。 ・幼稚園の園内研修に、低学年の担任が参加できるような手立てを講じる必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たち全員の声や表情が地域の高齢者の方々に届けられるいい機会となった。また、高齢者の方々への親しみや素直な喜びの気持ちを表すことができた。返事をもらったことで、つながりを感じる事ができた。 ・陸上競技の練習では、専門的な指導をしてもらえた。 ・中学校体験をする事で「中一ギャップ」を和らげる手立てとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、児童会役員が代表として、町内会長に敬老会のお祝いメッセージを届けたが、来年度は全校児童一人一人が地域の老人会の方々とふれあう機会がもてるよう考えていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・敬老メッセージに対する返事が学校に届いたことが励みとなり、意欲向上にもつながった。 ・様々な場面で地域住民とふれあうことにより、地域への愛着を持ち、地域の一員としての意識が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、取組を継続し、地域への愛着や地域貢献の心を育むとともに、取組の成果を感じる機会を与え、学習意欲の向上を図り、学力向上にもつなげていく。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学社融合会議を開催し、情報共有や意見交換をしているため、あらゆる場面で幼・小・中・地域の連携が生まれてきている。そのような中で、それぞれの考えや意識のすり合わせができていく。 ・学校から地域へのアプローチがあることで、地域内で、学校への関心、学校も地域の一員という意識が高まっている。敬老会メッセージも一人一人に手書きされており、高齢者も喜んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が増えているのはありがたいことであるが、主に転入による増加であるため、子供や保護者と地域住民(特に高齢者)との関わりが薄れつつある。様々な連携の中で、古からの地域住民と転入者との交流を図り、地域の一体感を強めていきたい。 ・学社融合の取組や成果を学校と地域それぞれにフィードバックし、子供たちの学習意欲の向上や地域住民が教育活動へ積極的に参加するなど、お互いの意欲向上につなげていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<学校から地域への関わり>		
敬老会		
<ul style="list-style-type: none"> ・敬老会では、校歌を懐かしむように口ずさんだり、メッセージを微笑みながら視聴したりしてもらえた。 ・来年度に向けて、企画段階から公民館主事とともに両者にとってよりよい方向性が見いだせる行事になるよう考えていく。 ・ビデオレターに校歌だけでなく高齢者の方々口ずさめるような文部省唱歌も学校全体で歌っている様子を入れていく。 ・メッセージカードを書くための時間や目的を指導する時間を教育課程に位置づける。 		
<三栖公民館・三栖幼稚園・三栖小学校・衣笠中学校との連携>		
三栖公民館		
<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合担当者会議をもつことで、公民館・幼稚園・中学校との垣根が低くなり、連絡・調整がしやすくなった。 		
三栖幼稚園		
<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育や夏季保育の参観、園内研修に出席することで園児の成長と学習段階を知り、入学後の指導の参考になった。 		
衣笠中学校		
<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー研修では、幼・小・中の教職員がグループとなりワークショップ形式で行ったことで、対処策だけでなく、教職員 同士の交流の機会となった。 ・陸上競技大会に向けての練習では、中学校の担当職員に専門的な指導をもらうことができた。 ・中学校体験は、行事が集中し多忙であると思われるが、2学期中にする方が望ましい。 		
		
		老・幼・小そろって 玉入れ

学社融合活動実施報告

学校・園名		長野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子 長野地区では、学校と公民館活動(地域の各種団体などの活動をはじめとした社会教育)との連携を密にし、様々な教育活動に対して、公民館活動のご協力(ゲストティーチャーとして等)をいただきながら、子供たちの教育に取り組んでいる。 また、地域の方々も、子供たちの活動に対して常に気をかけていただき、子供たちへの励ましのお声がけ等の日常的な御協力はもとより、様々な行事を通して物心両面から、学校の教育活動への多くのご協力をいただいている。				
活動名		学年・教科・領域等		
「“すてき”がいっぱい長野」「ふるさと発見！長野のみかんを知ろう」「伝えよう！わたしたちの熊野古道」		1・2年 生活科 3～6年 総合的な学習の時間		
目 標	学 校 ・ 園	・地域の各種団体との交流を重ねる事で、学校と地域の信頼関係を深め、教育力を育てる。 ・地域の方々との交流により、コミュニケーション能力を深め、地域を愛する心を育てる。 ・地域に貢献している人々の生き方を知ることで、今後の生き方や進路を考える力を育てる。		
	地 域 (公 民 館)	・学習活動や地域の人とのふれあいを通じ、地域への愛着や誇りを育む。また、子供と地域、お互いが学びあい、これからの地域を考えるきっかけとする。 ・学校と地域の連携を深め、教育について考える機会を作り、意識の共有を図る。		
支援者及び支援組織 長野公民館 田辺市役所長野連絡所 長野簡易郵便局 JA紀南長野店 石川商店 長野小学校育友会をはじめとした地域の方々				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度の学社融合の取組として、公民館の協力のもと、地域学習を中心とした活動内容を展開してきた。 また、地域から学ぶことは、地域の良さ、地域の人たちが大切にしてきたものを学ぶとともに、地域の課題に気づかせる機会でもある。将来、地域を支える力となる子供たちに、これからの自分たちができる事は何かを考えていく機会としたい。				
【1・2年生の取組】「“すてき”がいっぱい長野」 (内容) 地域の田辺市役所長野連絡所、長野簡易郵便局、JA紀南長野店、不動寺をはじめ地域の様々な方々にお話を聞き、それぞれの方が、お仕事をされる上での苦労などを聞きかせていただいた。長野の地域にあるすてきな一面を知ることができた。さらに、その内容をまとめ、学習発表会で発表をし、多くの地域の方々に見ていただいた。				
【3・4年の取組】「ふるさと発見！長野のみかんを知ろう」 (内容) 地域の産業学習で、本年度は『みかん』について学習した。最初にみかん農家の方にお越しいただき、みかんの歴史やみかんの種類等のお話をいただいた。地域の『みかん』農家を訪問した際には、『みかん』栽培の工夫や苦労話を聞かせていただいた。さらに、収穫作業も体験させていただいた。児童は、木になった大切なみかんをはさみで収穫する時の緊張感を味わいながら貴重な体験をさせていただいた。また、「選果」の作業もみせていただき、出荷までの大変さを体験した。これらの内容は、ペープサート風に整理し、学習発表会で多くの方々に見ていただいた。				
【5・6年の取組】「伝えよう！わたしたちの熊野古道」 (内容) 地元の歴史に詳しい奥芝平一郎さんと公民館長さんに、長野に古くから伝わる『捨木』の伝説をお話いただいた。そのいわれを知り、長野の歴史の一面を学習した。さらに、熊野古道 『長尾坂』の歴史についてもお話しいただき、一緒に古道を歩きながら、歴史のある『熊野古道』の一端を体験した。この内容は劇としてまとめ、学習発表会において地域の多くの方々に見ていただいた。				

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	・地域に根ざした産業や課題および地域の方々の御協力を得ながら体験活動を行うことで、ふるさと長野を愛する心を育てるよい機会となった。 ・熊野古道の語り部ジュニアの取組を通して、古道を体験し、お話をうかがった事は、児童にとって、地域の一員として、地域の宝「熊野古道」を知り、大切にしようとする機会となった。	・地域の生活や産業についての学習をより深め交流していきたい。 ・地域の歴史を知り、ふるさと長野を大切にしようという意識と共に、長野ひいては田辺市の一員として、自分たちができる事を考える機会を持ち、長野の歴史を守ろうという行動ができるようにしていきたい。 ・地域の課題を知り、子供なりに解決に向けて考えていけるようにしていきたい。
* 子 供 に と っ て	・自分たちの身近にいる地域の人たちの仕事や生き方を学ぶことにより、地域の人々の苦労や地域の課題を知ることができた。 ・地域の歴史を学ぶことにより地域への関心を高め、地域を大切にしようとする意欲が目覚めてきた。	地域の行事への積極的な参加を促し、地域のすばらしさや暮らす人の願いを学び、地域の一員としての課題を考える学習を展開していきたい。
* 子 供 に と っ て	・自分たちの地域への関心や愛着、誇りを覚え、熊野古道(5・6年生)の学習においては、自分たちができることを考え、行動するに至った。地域の魅力を地域外へも発信することができた。	学習の振り返り、深化を図る機会を持ち、改めて感じる事、新たに感じる事などから活動の発展・継続に繋げていく。
地 域 (公 民 館)	・地域の歴史や文化に関することはまとまった資料が少なく、地域でも特定の人物しか知らないこともある。子供たちの学習活動や発表会を通じ、大人も学び、関心を持つきっかけとなった。	・地域全体が、子供・学校への関心が高く、教育環境は充実したものとなっている。次の世代のことを考え、現在の体制・環境を引き継いでいく取組が必要である。 ・子供たちの活動を地域に広げるため、学習により育まれた子供たちの関心を、親、地域へと繋ぐ方法を考え、取り入れていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評 価> ○学校の活動(生活科・総合的な学習・行事など)で公民館を通じて、地域の方々にお越しいただき、ご指導いただいたことで、児童もより詳しい内容を理解することができ、より内容の濃い体験を行うことができた。 ○発表会では、地域学習のまとめを劇やペープサート風にし、ご参観いただいた多くの地域の方々に好評であった。		
<次年度に向けての取組の方向> ○公民館と連携して、幅広い内容について地域の方々のご協力を得ながら交流を深めていく。		
		
1・2年生		3・4年生
5・6年生		

学社融合活動実施報告

学校・園名		伏菟野小学校	公民館名	長野公民館
学社融合における学校・地域の様子 全校児童7名(家庭数5)、教職員数は支援員も含め4名という極小規模で、地域と密につながり地域に大切にされているだけでなく、地域の協力的には成り立たない学校である。プール掃除や校内整備作業には多くの卒業生や地域住民が力を貸してくれ、日頃から草刈りやグラウンド整備をしてくれる方もいる。講師として児童の指導をお願いすれば「子供たちから元気がもらえる」と快く受けてくれ、農業体験は区民の方から声がかかる。学校行事には保護者以外の方も参加し、避難訓練は地域とともに行う。伏菟野区・小学校合同運動会には200名近くの来場があり、「ふれあい交流会」では一緒に焼きもの教室やコンサートを楽しむ。学校便りとは別に「はぐくみ隊」の「はぐくみ通信」が発行され、子ども会の行事、祭り、「伏菟野ほたる鑑賞のタベ」等の様子をも、地域全体で子供を大事に育ててもらっていることが強く感じられる。4年前の大規模な土砂災害を住民一丸となって乗り越えてきた地域でもある。				
活動名		伏菟野に学ぶ		
		学年・教科・領域等 4・5・6年 総合的な学習の時間		
目	学校・園	伏菟野の豊かな自然や歴史、人々から学び、地域の良さを再発見させるとともに、人との関わりや自分の生き方について考えさせる。		
	地域(公民館)	・地域学習や地域の人とのふれあいにより、地域への愛着や誇りを育む。 ・日常的なふれあいから、子供たちが地域の人々の思いを感じることができるようになる。 ・地域住民も、子供たちの学習活動を通じて地域を見つめなおし、これからの地域を考えるきっかけとする。		
支援者及び支援組織 伏菟野小学校育友会 長野公民館 伏菟野区 伏菟野老人会 みやご会 はぐくみ隊 地域の方々				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 今年度の「総合的な学習の時間」は、学年共通のテーマ「伏菟野に学ぶ」「ともに生きる町に」を二本柱とし、「伏菟野に学ぶ」では、『史跡編』と『防災編』とを並行して行った。地域の自然や人材を生かした体験活動、歴史を紐解くフィールドワークや聞き取り調査等を通じて地域をより深く知ることと、地域のために力を尽くした先人や災害を乗り越え地域を盛り上げようと頑張っている人々の思いを知ること、伏菟野の良さを今まで以上に感じ取らせ、ふるさと「人」「もの」「こと」から自分の生き方について考え、学んだことや自分の思いを伝えたり、ふるさと伏菟野のためにできることを実践させたりして、伏菟野を背負う子供たちを育てたいと考えたからである。 『史跡編』の取組 ①米作り、ゴマ栽培・・・地域の方の指導により学校園でゴマ栽培を行う。また、地域の田で、布団農法田植えや稲刈りを体験させてもらう。収穫したゴマと米を使って全校児童で調理実習をして「ふれあい交流会」や「地区内ハイキング」で地域の方々にも食べていただく。 ②ホタル学習・・・「ほたる観賞のタベ」(ホタル祭り)のポスターづくりとホタル祭りへの参加、ホタルの飼育について地域の方からお話を聞く。 ③伏菟野の昔・・・伏菟野にある祠や神社について聞き取り、見学等を行い、レポート(壁新聞)にまとめ、「ふれあい交流会」等で地域の方々に見ていただく。11月には老人会長さんより「伏菟野の昔の暮らし」についてお話を聞く。また、公民館との共催で「地区内ハイキング」を実施し、地域の郷土歴史研究家を講師として地域の方とともに校区内を歩く。神社や地蔵、史跡を巡り、地名の由来や歴史的な出来事、言い伝え、昔の生活の様子、昔の遊び等を、講師や参加して下さった方々から教わる。				
ゴマを使って調理実習 地域の方が先生です				
				
布団農法田植え		ふれあい交流会での会食		

	成 果	課 題
学校・園	地区内ハイキングは、公民館と地域、学校がともに学び合い、交流し合っ、それぞれ得るところのある大変良い取組だった。特に、学校にとっては、種々の準備や調整を公民館や地域の方にさせていただいたうえ、講師の方だけでなく参加して下さった方々からもたくさんのお話が聞けて、学校だけではできなかったであろう中身の濃い地域学習ができた。	地域の方から協力してもらっただけでなく、地域の方にとってもプラスになるような活動にしていきたい。まずは、学んだことをいかにして発信し、地域全体の学びとなるように返していくかを考える必要がある。
*子供にとって	地域の歴史や地名の由来等を知ること、より地域に関心を持つようになった。	地域の一員としての自覚と地域を守っていこうという思いを持って行動できるようにさせたい。
*子供にとって	・地域住民から学ぶことにより、地域への関心や誇り、愛着、年長者への敬意が育まれた。 ・普段何気なく見ている史跡等の意味や歴史を知ることができ、地域への関心が高まった。	地域と学校が一体となっている反面で、地域住民の参加・協力が子供たちにとっては当たり前のことになっている。成長とともにそのありがたみを感じることができるよう、地域住民の苦労や努力を知る機会を与えていきたい。
地域(公民館)	・講師となる人は教育に携わる際に知識を再確認し、一緒に参加した人は児童とともに地域について学ぶことができた。それぞれにとって、地域を見つめなおす良いきっかけとなった。 ・地域住民の自主性が高く、地区内ハイキングの際には、自ら関係者との連絡や調整等をして下さった。そのおかげで充実した学習内容となった。また、小学校と共催にしたことで参加者が増えた。	・学校へ行くことが地域住民の楽しみの一つとなっているほど、協力体制ができていいる。一方的な提供・奉仕で終わらぬよう、互いに学び合えるようなかたちでの連携を考え、地域の活性化に繋げていきたい。 ・全校生徒7名という極小規模の学校であり、その利点を十分に生かしてはいるが、小規模であるが故の課題や心配もある。子供たちを今後どのように地域で育てていくかを考えていく必要がある。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・学校の学習活動に協力して下さる方は、児童との関わりの中で「地域の子供は地域で育てていこう」という気持ちがさらに強まるとともに、その活動が自身の学びの機会ともなっており、児童にとっても、地域にとってもプラスになると感じた。今後も地域の方から学ぶ機会、地域の方とともに学ぶ機会を設けていく。 ・「伏菟野に学ぶ」は広範囲にわたる学習になっており、今後テーマや内容を精選し整理していく必要がある。 ・「伏菟野に学ぶ」の史跡編は、今年度からの取組であるが、児童は自分の住む伏菟野についての学習なので興味を持って意欲的に学習している。今後、どのようにしてさらに関心を持たせ維持していくか考えていきたい。 ・公民館との共催で実施した地区内ハイキングは大変有意義であった。今年度は概略を知る形であったので、来年度以降、地域を限定してより詳しく学ぶ現地学習会か、できれば児童が保護者や地域の方を案内する形での地区内ハイキングを行いたい。		
		地区内ハイキング
区長さんによる防災のお話		
		
		老人会長さん「昔の伏菟野の暮らし」

学社融合活動実施報告

学校・園名		上秋津小学校		公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 当地域は農村地域で、専業、兼業で農業に従事している家庭も多い。そこで本校では、長年にわたり地場産業である農業、とりわけ、野菜・花(1~4年)、みかん(5年)、梅(6年)について、体験学習に取り組んで来ている。地域の方々は、学校活動に大変協力的で学校への関心も高い。野菜・花作りではお年寄りの方が地域の大先輩として指導に訪れ、梅やミカンの収穫体験では、農家の方々が農繁期の忙しい中、収穫の仕方を指導したり、話を聞かせてくれたりする。子供たちは年間を通して体験学習に取り組むことにより、収穫の喜びを味わったり、栽培の難しさにも気づいたりしている。 将来想定される南海・東南海地震や台風・水害等の災害に対して、公民館、地域の方々と連携しながら、自分の命は自分で守ることを目標に、地域の危険箇所を学習したり避難経路を確認したりしている。					
活動名				学年・教科・領域等	
文化活動・農業体験学習				全学年 国語・音楽・総合	
目 標	学校・園	・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、自然や生命の大切さに触れさせながら、地域を知り、地域を愛する心を育てることを目標とする。 ・幼・小・中・公民館の連携をより深め、文化活動や防災教育の取組を進めていく。			
	地域・公民館(公)	・上秋津の地場産業である農業を学ぶことで、子供たちに上秋津の農業について知ってもらおう。 ・農業体験学習やふれあい音楽会を通じて、地域住民と児童が交流する機会を増やしお互いに学び合える環境作りを目指していく。			
支援者及び支援組織 農業体験学習支援委員会(JA紀南青年部上秋津支部・JA紀南・上秋津公民館、老人会・西牟婁振興局農業振興課)上秋津学社融合委員会(幼稚園・小学校・中学校・公民館)					
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 事例① 文化活動の取組 上秋津ふれあい音楽会を紹介します。この音楽会は地域の交流をより深いものにし、文化の香りを地域に広げようという趣旨で毎年11月に開催されています。普段は地域の方々にお世話になることが多い小学校ですが、この音楽会では小学校が中心となって地域の方々に音楽を通して元気や喜びを持ってもらおうとがんばっています。年々参加団体も増え、本年度も成功裡に会が開催されました。					
 秋津野合唱団		 幼稚園		 中学校	
		 職員・PTAコーラス			
事例② 5年みかん学習の取組 語り部ジュニア発表に向けた5年生の「みかん学習」を紹介します。5年生は年間を通して上秋津の農業の中心であるみかん栽培を体験しました。春のみかん座学に始まり、秋の収穫まで地元の方にお借りした農園で体験活動をしたり、振興局や農家の方々に話を伺ったりしました。また、学校園でもみかんの木を自分たちで育てながら観察しました。参加団体(JA紀南青年部上秋津支部、JA紀南、上秋津公民館、西牟婁振興局農業振興課)					
 みかん座学		 みかんの種類当て		 みかんの観察	
		 みかんの収穫			
留意事項 ・年度初めに支援委員会を開催し、学校と公民館やその他協力機関と共通理解を図る。 ・子供が自ら調べたり、考えたりして答えを見つけていけるような場面を設定するように努める。 ・学習や音楽の成果を地域に向けて発信したり、地域の方々の喜ばれる活動になるように努める。					

	成 果	課 題
学校・園	・小学校がホスト役となり、音楽会を通して地域の方々と交流を図ると共に、地域の方々に元気や喜びを与える文化的行事が行えた。 ・梅やみかんの学習を通して、従事している方々の努力や工夫を子供たちに気づかせることができた。語り部ジュニアに向けた取組が完成しつつある。	・多くの団体が参加しているために、日程・時間の調整が課題である。(音楽会は平日開催となっている。) ・野菜作りは、指導をお願いする人が高齢化の傾向にあり、これから広く人材を発掘する必要がある。 ・校外学習するみかん農園を継続してお借りできる方をみつけることが課題である。 ・学校園においてみかん栽培は難しい面もあるが、今後も継続して行っていきたい。
*子供にとって	・学習したことや練習したことを多くの人たちの前で発表し、地域の方々にも楽しんだり感動してもらおう喜びを持つことが出来た。 ・地域の方々から学ぶことによって自分の住む地域をより詳しく知り、地域やそこに住む人々に誇りを持つことが出来るようになってきた。	・年間計画をきめ細かく立てるとともに、どのような力を身につけているのか、教科学習とどう関わりを持たせていくのか、再度検証する必要がある。
*子供にとって	・農業体験を通して、農産物を作る喜びや、農業に対する関心が持てた。 ・地域の方々との接する機会が増えて交流促進に繋がった。	・農業体験を通して出会った方々と定期的に接する機会を持つことで、地域の方々との交流をより深めさせたい。
地域(公民館)	・地域の青年が指導者として参加することで、地域の産業の中心的な担い手としての自覚につながっている。 ・子供たちの学習を通じて、間接的に保護者の方々の地域理解にもつながっている。 ・ふれあい音楽会を通じて、上秋津の学校と地域住民が交流できる良い活動となっている。	・農業体験学習の支援者の不足や固定化が問題となっている。 ・農業体験をする時期(みかん、梅)は、農家にとっても忙しい時期と重なるため、農家の支援者の負担にならないように配慮し、今後も継続していけるような体験活動にしていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・平成25年度から始まった上秋津ふれあい音楽会も今年で3年を経過し、地域を挙げての文化的行事として定着している。また、保護者アンケートにおいても地域の合唱団、幼稚園児、小学校児童、中学校生徒の歌や演奏等どれも高い評価をいただいている。今後もさらに充実させて、地域の文化活動の発展に貢献したい。 ・畑の所有者やJA紀南(青年部を中心に)の方々の指導を受け、梅の観察・収穫・梅ジュース作りなどができている。このような体験によって、児童のコミュニケーション能力、優しさや豊かな心などが育まれ、「人格形成」に大きな成果をもたらしている。 ・地域で梅作り、みかん作りに携わっている方々との自然な形での交流によって、地域の方々に対する敬愛の念や感謝の気持ちをもつとともに働くことの大切さを感じ取るなど、子供たちが「生き方」を考える良い機会となっている。 ・花つくり名人の指導を受け、子供たちは花作りの技術を身につけると共に、心を豊かにする機会を持つ事ができた。また、公共施設に飾ることにより自分の育てた花に関心が高まった。今後は、より多くの地域の施設に花を届けられるように活動を広げていきたい。 ・今後も、現在の取組を継続するとともに、旧校舎を利用し地域で取り組んでいる「秋津野ガルテン」(滞在型の農業体験学習・農家レストランなどの「地産地消」、みかん資料室の活用)と連携をより進めていきたい。 ・農業体験の指導者が高齢化してきているため、世代交代を図りたい。 ・幼・小・中・公民館が連携して避難訓練等に取り組みたい。 ・4年後には、各学年1クラスの6学級となる。今後児童数の急激な減少と共に職員数も減少していく中で、今までの取組を見直し、継続し発展させていくものと終了させるものを取捨選択していく時期にさしかかっている。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		秋津川小学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子 学校、地域、社会教育関係者が一体となり、子供の健全育成のため協力し合い連携を深めている。地域の方々の協力を得ながら、地域の産業や伝統を学ぶことで地域の良さを知り、また、さまざまな行事を通じて地域の方々との交流を深めることで、子供たちのコミュニケーション能力が高められている。地域の方々は、子供たちと関わることを楽しみにしており、行事へも協力的に参加して下さっている。				
活動名		農業体験学習		
学年・教科・領域等		全学年 総合的な学習の時間・図工・特別活動		
目 標	学校・園	・地域の主要産業である農業の体験活動を通して、地域の様子を知ると共に、心豊かな子供を育てる。		
	地域（公民館）	・農業体験学習を通じて、地域住民と児童が交流する機会を作り、地域活性化につなげる。		
支援者及び支援組織 秋津川振興会 JA紀南上秋津支所秋津川店 地域の方々 秋津川公民館				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 1～6年 梅 ・地域の方に畑を提供してもらい、梅の収穫を体験する。 ・梅ジュース作りをして、家庭に持ち帰る。 ・梅について調べたことをまとめ、田辺第三小学校との交流等で発信する。				
				
1～4年 いもほり体験 ・さつまいもを収穫し、調理して食べたり家庭に持ち帰ったりする。 ・さつまいもほりの様子を、絵にかいて表現する。				
				
3・4年 備長炭の窯出し体験 ・備長炭の製法や利用の仕方について調べ、学習したことを発表する。 ・備長炭公園で窯出し体験をさせてもらい、炭作りについての話を聞く。				
				
5・6年 米作り ・JA指導員から教えてもらい、田の代掻きや田植えを体験する。 ・稲刈りを行い、脱穀や精米の作業を地域の方に手伝ってもらう。 ・地域の方々にお手伝いいただき、収穫した米でもちをつき、お世話になった方々にプレゼントする。 ・学習したことをまとめ、ふり返る。				
				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちにとって、農業の体験活動を通して、多くの地域の方々とふれあえるたいへんよい機会となった。 ・学校にとっても、子供たちのようすを知ってもらうとともに、教育活動を理解してもらえるよい機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業の振興を進めている「秋津川振興会」との連携をとりながら、日程や内容を検討しながら取組を進めること。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな農業体験を通して経験が広がり、自然や農業のことを学習することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・田の管理、鳥獣被害。 ・収穫体験が中心であり、収穫するまでの苦労や努力についても考えたり、経験したりすることが必要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域のことを知ることができ、地域の方とふれあいの場をもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域の方々と積極的に関わり、農業の体験活動を通して、地域の様子を知ることので、故郷秋津川を愛する心をさらに育ててくれたらと思う。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民も、子供たちと交流する機会が増えて、良い活動となった。 ・備長炭の窯出し体験は、他の地域ではできない体験であるので、秋津川の良さを知る良いきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも継続して農業体験や窯出し体験が行えるよう、公民館として地域を担う方々との交流を大切にしていきたい。 ・秋津川にしかない良さを子供も大人も自覚し合える行事をこれからも続けていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが農業体験活動を通して、多くの地域の方々とふれあえることができた。このような活動を通して、地域の方々に子供たちの様子や、学校での取組を知っていただくことで、学校と地域社会とのまとまりが生まれてくるのだと考える。 ・今後、児童数の減少が見込まれ、学校としては行事の見直しが検討課題である。しかし、地域との交流行事を通して学校や子供たちが得るものはたいへん大きい。交流行事の内容等を検討して、これからも続けていきたいと考えている。 		

学社融合活動実施報告

学校・園名		上芳養小学校	公民館名	上芳養公民館																				
学社融合における学校・地域の様子 本校区では、年齢層の高い世代はもちろん、保護者層の若い世代においても昔からこの地域に住んでいる世帯が多く、子供たちは落ち着いて学習に取り組める環境が整っている。そのような中で、3年生以上の学年において総合的な学習の時間に梅学習を位置付けている。梅は地域の主要産業のひとつになっており、JAや公民館を始め多くの地域の方々が積極的に関わってくれている。また、運動会や作品展などでは地域全体の盛り上がりも大きく、学社融合の大きな力となっている。そこで、このような地域性を生かし、本校では様々な取組の中で時には先輩として、時には講師として地域の方をお招きし、学社融合の取組のさらなる充実を図っているところである。																								
活動名		地域の先輩に学ぶ 学年・教科・領域等 全学年 国語・特別活動																						
目 標	学校・園	・地域の方が持つ専門性によって、子供たちにより確かな知識や実践力を身につけさせる。 ・地域の方との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、ふるさとを愛する気持ちを育むきっかけとする。 ・「開かれた学校づくり」を目指し、学社融合の取組のさらなる充実を図る。																						
	地域（公民館）	・地域と児童の繋がりを深め、日常的な交流を円滑にする。 ・地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へとつなげる。 ・地域の方々が学校や子供たちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。																						
支援者及び支援組織 公民館 町内会 地域の方々（山添幸一さん・行森洋子さん・榎本博子さん）																								
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等） <table border="1"> <thead> <tr> <th>活動名</th> <th>月 日</th> <th>活 動 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生け花教室</td> <td>毎週水曜日</td> <td>6年生児童は毎週水曜日の昼休憩に生け花の指導を受けている。出来た作品は玄関ホールに飾られ、季節感を感じさせるものとなっている。一方、他学年の子供たちもその様子を見ながら講師先生（地域の方）との交流を図っている。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ようこそ先輩</td> <td>6月中旬</td> <td>開校記念日講演「ようこそ先輩」の打ち合わせ</td> </tr> <tr> <td>7月15日</td> <td>毎年開校記念日の集会には、本校の卒業生であり、現在も地域にお住まいの方（先輩）から話を聞くようにしている。今年は、昔の上芳養小学校の様子や子供の頃の生活について教えていただいた。</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">習字教室</td> <td>5月18日・22日</td> <td>地域の方を講師として招き、3年～6年までの各学年において習字教室を開いた。特に3年生は入門期にあたるため筆使いだけでなく、用具の扱い方も含め丁寧に指導をしていただいた。</td> </tr> <tr> <td>6月3日～4日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12月16日～18日・25日</td> <td>書初会に向けて各担任が指導のポイントについて教えていただいたり、毛筆選択児童の指導をTTで行っていただいたりした。</td> </tr> <tr> <td>1月15日～21日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					活動名	月 日	活 動 内 容	生け花教室	毎週水曜日	6年生児童は毎週水曜日の昼休憩に生け花の指導を受けている。出来た作品は玄関ホールに飾られ、季節感を感じさせるものとなっている。一方、他学年の子供たちもその様子を見ながら講師先生（地域の方）との交流を図っている。	ようこそ先輩	6月中旬	開校記念日講演「ようこそ先輩」の打ち合わせ	7月15日	毎年開校記念日の集会には、本校の卒業生であり、現在も地域にお住まいの方（先輩）から話を聞くようにしている。今年は、昔の上芳養小学校の様子や子供の頃の生活について教えていただいた。	習字教室	5月18日・22日	地域の方を講師として招き、3年～6年までの各学年において習字教室を開いた。特に3年生は入門期にあたるため筆使いだけでなく、用具の扱い方も含め丁寧に指導をしていただいた。	6月3日～4日		12月16日～18日・25日	書初会に向けて各担任が指導のポイントについて教えていただいたり、毛筆選択児童の指導をTTで行っていただいたりした。	1月15日～21日	
活動名	月 日	活 動 内 容																						
生け花教室	毎週水曜日	6年生児童は毎週水曜日の昼休憩に生け花の指導を受けている。出来た作品は玄関ホールに飾られ、季節感を感じさせるものとなっている。一方、他学年の子供たちもその様子を見ながら講師先生（地域の方）との交流を図っている。																						
ようこそ先輩	6月中旬	開校記念日講演「ようこそ先輩」の打ち合わせ																						
	7月15日	毎年開校記念日の集会には、本校の卒業生であり、現在も地域にお住まいの方（先輩）から話を聞くようにしている。今年は、昔の上芳養小学校の様子や子供の頃の生活について教えていただいた。																						
習字教室	5月18日・22日	地域の方を講師として招き、3年～6年までの各学年において習字教室を開いた。特に3年生は入門期にあたるため筆使いだけでなく、用具の扱い方も含め丁寧に指導をしていただいた。																						
	6月3日～4日																							
	12月16日～18日・25日	書初会に向けて各担任が指導のポイントについて教えていただいたり、毛筆選択児童の指導をTTで行っていただいたりした。																						
	1月15日～21日																							
 <p style="text-align: center;">【習字教室】</p>																								

	成 果	課 題
学校・園	・卒業生でもある地域の方の話は、子供たちにとって身近な話題であることが多く、興味を持って話を聞くことができる。 ・地域の方が持つ専門性に学ぶことで、子供たちは確かな知識と実践力を身につけることができた。特に、習字教室では普段以上に真剣に取り組む子供たちの姿が見られ、初めての子ども目を見張るほど上手に書けるようになった。また、子供たちだけでなく担任も指導のポイントを具体的に学ぶことができた。	・全校で取り組む活動もあるが、活動の多くはどうしても高学年に偏っている。今後は昔遊びや野菜作りなどを含め、低学年児童と地域の方との交流の機会を充実させていきたい。そのことにより、地域の方はより張り合いを持って活動できるようになるのではないかと考える。 ・学社融合の取組は大変重要であるが、準備や打ち合わせを含めた時間の確保や他の行事等の調整もあり、難しいところもある。
*子供にとって	・それぞれの活動は長く継続されてきたものが多く、中には約15年も続いている取組もある。そのため、3年生からは習字を、6年生になったら生け花を地域の方から学ぶという楽しさを感じている子供が多い。	・地域の方との交流を通して地域の先輩を知り、そのことを誇りに思う気持ちは育まれてきているが、初めて出会う方や初めての体験に対しては、消極的な行動が目立つときもあり、身近な地域の方に対しては常に子供らしい反応を期待したいところである。
*子供にとって	・これらの活動以外にも毎月行われている地域の方による読み聞かせ教室や、運動会への招待状と合わせた敬老の日の手紙など、様々な活動を通して地域の方と交流を図っている。このように子供たちにとっては、人を通して地域の良さを知るきっかけとなっている。	・活動に関わる地域の方とのつながりは深まるが、他の方とのつながりは充分とは言えない。 ・もちろん子供だけに限ったことではないが、地域での活動に対して興味関心の高い子とそうでない子の差が大きいように思われる。
地域（公民館）	・全校児童を対象に話をするときは、低学年の子にも分かるような話題や話し方、資料の提示のしかた等、随分構想を練られたようである。時間はかかったが、勉強になったという地域の方の話を聞き、これらの活動が双方の学びの場になっていると実感している。 ・地域の方からは、自分の子供が卒業してからも学校と関わりを持つことで、今の小学生や今の地域の子供たちの名前や様子を知ることができるという声を聞いている。	・地域の方と子供たちとの交流はかなり充実してきたが、地域の方と若い保護者世代の方との交流を図ったり、専門性を持った地域人材の広がりを求めたりすることが今後の課題と言える。 ・長年続く活動であると言えるだけに、それぞれの活動の見直しを図ることが難しいときもある。また、毎年のことになると打ち合わせが充分でなくても活動できるため、公民館、学校、地域との連携を意識的に確認していく必要もある。

評価及び次年度に向けての取組の方向



【ようこそ先輩】

＜評価＞

校内には書や絵画など、地域の方の作品も多く飾られ、学校が地域によって支えられているという環境が感じられる。加えて、学社融合における多くの活動を通して、地域の方が学校を大切に思う気持ちを子供たち自身が感じることができる点は大きい。また、それぞれの活動の中でふとした時に聞く地域の方の話は、子供たちだけでなく学校にとっても、公民館にとってもほのぼのと温かい気持ちにさせるものが多い。このような素朴なつながりから生まれるものが本地域には重要であり、次の取組に大いに生かされている。

＜次年度に向けて＞

地域にいる多くのすばらしい先輩（人材）が様々な世代に広がるよう、「学校開放週間」や参観日等の機会に活動を組み入れる。また、それぞれの人材のつながりを図り、今後の地域づくりに生かしていく。



【生け花教室】

学社融合活動実施報告

学校・園名		中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、田辺市街地周辺の農村地帯に立地している。児童は、明るく元気で、上級生が下級生の世話をするなど温かい雰囲気がある。地域住民は教育に対する関心が高く、学校教育活動にも協力的である。 小学校における学社融合の取組は、昨年度より3年間、「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、中芳養地域に根付いたものになるよう工夫しながら進めているところである。 教育活動において、住民間の交流を進めたり、融和を図ったりする重要な役割を念頭において授業や学校行事に取り組んでいる。学校としても、こうした取組の中で、児童が地域社会で認められ、地域の子供としてつながりを深められるような関係を築いていきたいと考えている。また、地域がもつ教育資源(人的・物的)を学校教育に生かし、特色ある教育を展開していきたい。				
活動名		学年・教科・領域等		
「あきまつり」 「ミシン・書写ボランティア」		1・2年・生活科 3～6年・国語科・家庭科		
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりを深めることで、児童と地域の住民の交流がさらに進むようにする。 ・地域とつながることで、自分の住むふるさとを愛する心を育む。 ・地域の住民に子供たちを知ってもらうことで安心して暮らせる町づくりに取り組む。 ・学習に参加していただくことで専門的知識や技能を得、学習の効率化を図る。 		
	地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が学校の学習に参加することで、地域内の異世代の交流を深める。 ・地域全体で子供たちの成長を見守り、育てようとする意識を高める。 ・一つ一つの事業を地域全体で作り上げるという地域の連帯意識を育成する。 		
支援者及び支援組織				
中芳養公民館 校区町内会 芳寿会 中芳養幼稚園 中芳養中学校 中芳養幼稚園・学校PTA 中芳養共育コミュニティ本部				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
<p>「あきまつり」平成27年10月15日(日) ねらい:「各教科・領域を通して育む」 地域の方の協力を得ながら「あきまつり」を実施した。教えていただく内容については事前に協議を持ち、学習効果が上がるように気をつけた。 日曜参観日(学校開放月間)として、保護者だけではなく、これまでの学習に協力していただいた方々を招待して開催した。2年生が全体で説明するときの態度や言葉の使い方、1年生の聞く態度等、単にイベント的な会というだけでなく、学習の成果発表の機会となっていた。 「学校が進めようとしている方向が見え、これからの子供に必要とする力が育ってきているように思われる。」との評価をいただいた。また、「保護者だけでなく地域の人に関わっていくことが共育コミュニティ事業の趣旨にも合い、中芳養全体で子供を育てるという意識につながっていく。」とのご意見もいただいた。</p>				
				
		<p>「ミシン・書写ボランティア」12月4日(金)～21日(月) 家庭科の学習における「ミシン」での縫製作業では、個別指導を必要とすることが多く、人手が欠かせない。そこで、保護者・地域の方に「協力依頼」をし、学習へのボランティア参加が実現した。 また、個別に指導することが効果的な学習に「書写」の活動があげられる。複数学年にわたり、書き方や書道に堪能な方にお越しいただき、数回の指導を行っていただいた。 こうした地域・保護者の方に授業の中に入っていただくことは、より学習効果を挙げるためには大変有意義な活動といえる。 時間的な打合せ、日程等の調整は必要なものの、今後も継続して取り組んでいきたい。</p>		

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から3年間の「共育コミュニティ本部事業」の指定を受け、地域のつながりを深める取組が今年は内容も充実し、より活性化してきた。 ・町内会や公民館などより多くの住民が参加することで、つながりを深め、地域の教育力・文化力を高めることができた。 ・学習の成果を発信する場として、本年度新しく「あきまつり」を展開できたことはよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらに人とのつながりを深めていくために、地域の人同士が関わりを持てる場の設定をしていく必要がある。 ・活動するにあたり目的意識を子供たちにも持たせ、何のために活動しているのかを考えさせることで心の成長も図ってきたい。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながりを深めていくことは、子供たちにとって郷土を愛する心を育てることにつながり、より安心して暮らせる町づくりにつながるものと思われる。そして、コミュニケーション能力や生きる力を高めることにもつながるものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一年間を見通した学習の中で、いかに学習効果を高めていくかを考えていく必要がある。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々に対して、自分たちの活動や成果を見てもらうことによって、自信が持て、大きな成長につながる。 ・活動の中で、地域の人々と接する機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが様々な体験をした中で、感じたことや考えたことを生かしながら、地域の人々との関わりを深めてほしい。
地 域 (公 民 館)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を通じて、子供たちと大人との交流が深まり、つながることができた。 ・事業の中で、地域の人々が子供たちの作品や取組を見ることで、子供たちの成長を知ることができた。 ・地域の人々が学校の学習や取組に関心を持ち、地域で子供たちを成長させていこうという意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業に参加し、協力してくれる地域の人々を発掘していきたい。 ・一つ一つの事業や地域活動に対して、連帯意識を持ち、今後も継続して取り組んでいくことができるように協力していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p>本年度の取組としては、中芳養コミュニティ運動会・合同作品展等、共育コミュニティ事業に合わせて活動してきた。普段は地域の方が学校に来られる機会が少ないものの、昨年度の取組もあって本年度は合同作品展への出品や来場者数も増えた。 昨年度の反省を受け、授業などの教育活動に地域の方が入っていただけるような内容を設定してきた。 新たなところでは、左記事業の「あきまつり」(低学年:生活科)や「校区探検」(第4学年:社会科)などで地域や保護者の方に協力をいただき、中芳養地域の特性などを教えていただいたりした。さらに地域の方々に学習の確認や確かめなどの活動に参加していただくことで学習効果を高めていきたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校・園名	田辺東部小学校	公民館名	ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子 平成7年に「ひがしコミュニティーセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組も充実してきました。今年で8回目を迎えた「ひがしふれあい秋祭り」がその代表的なものである。4町内会・地域の各種団体・学校・公民館が合同で、幅広い世代の方々が知り合いふれあえるきっかけを作り、地域住民の交流を図るとともに、地域の連帯感を深めている。今回はその場で6年生が「東部っ子今昔 宝 物語」の学習発表をした。児童は地域学習を進めていく中で、地域の方々から、地域の歴史や文化、町作りをどのような願いで進めてきたのか、またその時の苦労や喜び等を学ぶことができた。参観していただいた地域の方々からは、賞賛の声をたくさんいただいた。児童にとってはもちろん、地域の方々にとっても有意義なこの取組を今後も継続し発展させていきたい。			
活動名		学年・教科・領域等	
東部っ子今昔 宝 物語		6年 総合的な学習の時間	
目 標	学校・園	・田辺東部小学校校区の今と昔を調べ、語り部活動として5年生や保護者・地域の方々に発表することを通して、自分たちの町の良さを再認識し、地域に誇りと愛着を持つ。	
	地域（公民館）	・子供たちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。 ・地域の良さを伝えることによって、自分たちも地域について再認識する機会とする。	
支援者及び支援組織 ひがしコミュニティーセンター NPO法人花つぼみ 西牟婁総合庁舎 田辺工業高校 ひがし公民館 地域にお住まいの方々			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
①オリエンテーション 本校がある地域は、もともと山だったところを住宅地にした、田辺市の中でも新しくできた町であるという特色がある。そこで、地域の今と昔を調べて、新しい町を創られた人々の思いや、今現在の地域の様子などを発表するという計画を立てた。			
②地域のステキ発見 本校が開校した当時の写真から、家一軒建っていない学校の周りの様子を知らせ、どのように地域が発展してきたのか調べる動機づけをした。家庭や近所の方々より自分の住んでいる地域の情報を収集した。さらにプレインストリングにより、各町内のステキについて集			
③インタビュー計画 公民館主事に紹介していただいた各地区の方々に質問したい事を考え、インタビューの計画を立てた。			
④地域の方々にインタビュー 各地区のゲストティーチャーを招いて、昔の町の様子や、新しい町作りへの願いや苦労などについて教えていただいた。			
⑤フィールドサーチに出発 「花つぼみ」「ひがしコミュニティーセンター」「田辺工業高校」「西牟婁振興局」にフィールドサーチに出かけ、それぞれの場所で説明を受けたり、質問に答えたいいただいたりした。			
⑥調べた事をまとめる インタビューやフィールドサーチで分かった事を、各地区別のグループでまとめた。地域の方々の熱い思いや願いをたくさん知り、地域のステキ・魅力を「ひがしふれあい秋祭り」で多くの方々に伝えたいとの思いで、発表原稿作りにも取り組んだ。			
⑦ひがしふれあい秋祭り発表 これまで学習してきた地域のステキについて発表した。児童の感想には、改めて自分の住んでいる地域が好きになったという感想が多かった。また約100名の参観者からは、「住んで20年になるが、初めて知る事がたくさんあった」「各地区の今と昔や地区名等について、自慢できる事など、よくまとめられていて、大変勉強になった」などの感			

	成 果	課 題
学校・園	・「東部っ子今昔宝物語」は6年生による新たな取組であったが、地域の歴史や施設、住民の願い等を調べるによりふるさとに誇りと愛着を持たせるよい機会となった。 ・地域の方々から学んだことを、地域に発信することで、地域と学校が共に学び、連携して、さらによりよい地域にしたいとの思いを共有することができた。	・限られた時間の中で、より効果的に「ねらい」を達成できるように今年度の学習を軸として綿密に計画を立てることが必要である。また、地域に学び、地域に発信し共有するところまでできているので、今後地域のために・・・という視点での活動を取り入れたい。
*子供にとって	・自分の住んでいる地域についての調べ学習であったため、子供たちの興味関心が高く、意欲的に学習する様子が見られた。	・児童一人一人の「調べたいこと」を大切にできるように、時間を確保する必要がある。
*子供にとって	・地域の方、施設に勤務している方にインタビューやフィールドサーチを行うことで、コミュニケーション能力を高めることができた。また、発表会では、学習内容や発表態度に多くの賞賛をいただき、児童も満足感や達成感を味わうことができた。	・地域に対して持った誇りや愛着を忘れず、地域の催し等に積極的に参加し、ふるさと愛を深められるようにさせたい。
地域（公民館）	・地域の方は子供たちに地域の歴史や施設、住民の願い等を伝えることに喜びを感じている。児童の質問で答えられなかったことは、再度調べ直して自分たちにとっても、地域を再認識できる活動となった。	・公民館と学校が連携を密にして計画的に活動を進めていくことが大切である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 今年度から新たにスタートした「語り部活動」であったが、公民館主事・学校・地域が連携して取り組み、単元をデザインした結果、中心となる骨の部分は出来上がった。それは、下記の児童や地域の方々の感想からも感じられる。		
【児童】中田さんの話を聞いて、盆踊りや火の用心運動など、昔も今も地域の皆さんが協力して、自分たちでできることは何かを考えて、みんなで支えあっていることがわかりました。		
【児童】自分たちが地域にできることは、廃品回収や清掃活動などの行事に積極的に参加することだと思います。地域の歴史や伝統、住民の方々の思いを受け継ぎ、自分の子供にも話ができるようになりたいと思います。		
【児童】今ほどに新万地区が成長した理由には町内会の方々の活躍がありました。公園の清掃をしたり花を育てたりと積極的に町の美化に力を入れてきたそうです。今でも子ども会の行事で地域清掃活動に取り組んでいるので、私も頑張りたいと改めて思いました。		
【地域の方】私自身10年程前にこの地域に引っ越してきたので、昔のことは知りませんでした。今回の発表を聞かせてもらい、4町の歴史や文化を知ることができ、とても有意義でした。地域の担い手である子供たちにとっても、自分の育った地域のことを深く知ることが大切だと思うので非常に良かったです。		
このように、地域の方々の願いや思い、これまでの歴史を知ることにより、児童に故郷を愛する心の芽を育むことができたと思う。		
次年度に向けての取組の方向としては、この郷土愛の芽をさらに大きく育てよう、自分たちが地域にできることは何かを考えて、活動していくことではないだろうか。また、地域の方々との関わりを増やし、地域のことをさらに深く探究するとともに、学んだことをより多くの方々に伝えられるように計画したい。そうすることによって、児童の学びはもとより、地域の方々の学びも広く深くなり、共に育む教育(共育)となると考える。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		龍神小学校	公民館名	龍神公民館・龍神分館
学社融合における学校・地域の様子 本年度も龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することにより、龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組みました。「ダイヤモンドを磨くのはダイヤモンドである。人を磨くのもまた人である」という共通認識の下、児童を地域で生活する様々な方々と触れ合わせることで、児童も地域の方も元気になっています。 保護者や地域の方は、学校の教育活動にたいへん協力的です。運動会はもとより、様々な学校行事、授業に地域の方が学校を訪れます。				
活動名		龍人学を通して元気な人を育てる 学年・教科・領域等 3・4・5・6年 総合的な学習の時間・社会・学校行事		
目 標	学校・園	・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことにより、子供の様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。 ・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。 ・学校と区民の交流・連携を深め、児童の健全な育成を図る。		
	地域（公民館）	・子供たちと触れ合うことにより、元気になる。 ・学校との連携を図る活動を通して、地域で子供たちを育てようとする態度を育てる。		
支援者及び支援組織 濱口孝夫・濱口イツ子夫妻 龍神公民館龍神分館				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 昨年度の2月の節分集会上、「龍神 は一と」(地域の企業)さんの協力により、小学生と校区・地域の方と一緒に、里芋煮、茶がゆを炊き、釜を使用し屋外での炊き出しを行う郷土料理体験を行った。地域の高齢者に里芋煮と茶がゆの歴史も教えていただき、農業体験活動から食育につなげ、自然を学び、人と触れあう取組を行った。それが、学社融合の目標の実現に大変効果的であるという反省から、本年度も、農業体験活動を媒体として、子供たちと地域をつなげていった。また、新しく「防災」をテーマにして、学校と地域をつなげていく活動に取り組み始めた。 1 米作り 対象 5年生 昨年度に引き続き、地域の方に指導・支援していただきながら、米作りについて調べ、米作りを体験した。米作りを通じて、龍神の季候をはじめとする自然を学び、地域の方と触れあうことができた。 4月27日 もみまき 5月18日 田植え 6月12日 草取り 7月15日 中ぼし 9月11日 稲刈り 9月30日 脱穀 10月19日 もみすり 12月 3日 学習発表会で米作りの取組をまとめ掲示する。 2 防災キャンプ 対象 3・4・5・6年生 本校では毎年、学校・PTA・龍神公民館龍神分館の共催で、防災学習会を開いているが、児童が主体的に活動する取組ではないという反省と本校が避難所に指定されていることから、防災キャンプを実施した。学校に避難してきたとき、児童が地域の方と協力しながら避難生活を送ることができることを目的として行った。 行政局の協力で、寝るときに避難生活に必要なシートを利用したり、避難所に備え付けてある発電機の体験も行った。食事は、アルファ米や缶詰を食べた。今回、地域の方の参加はなかったが、地域の方と協力するという意識を常にもち、児童はこの防災キャンプの活動を行った。				



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・農業体験活動を通して、農業に関わっている地域の方々の工夫や思いを知ることができた。 ・防災を媒体として、学校と地域の連携のあり方を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生以外の学年でも農業体験学習を行っているが、地域の方と触れあう機会が少ないので、検討する必要がある。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・龍神の季候と農業の関係を学ぶことができた。 ・農作業の苦勞と収穫の喜びを体験できた。 ・防災を意識しながら主体的に活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプの意義・地域との繋がることや防災に繋がることなどを考える授業を計画的に実施することができなかった。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が自分たちのために、さまざまなことをしてくれていることを知り、感謝の気持ちを持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に自分たちが何をすることができるかを考えていく必要がある。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が、学校教育に興味・関心を持ち、地域で子供たちを育てようという気持ちを持つことができた。 ・子供たちと交流することで、元気をもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に足を運び、自分たちができることを見つけていく。 ・学校教育に協力していこうとするグループを作り、核となる人を探していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> 米作りの取組では、子供たちが半年あまりの米作りに主体的に取り組むことができた。特別支援学級の児童が意欲的に活動することができたのは、濱口さんのきめ細かな配慮と担任との打合わせによるものである。今年度は、龍神の季候と自然との関係にも重点を置いて、米作りを行うことができた。自然に視点を当てて、農業や食育を考えることが、子供たちにとって重要であることを再認識できた。 防災キャンプでは、今回、地域の方は参加してはいないが、地域の方との協力を意識して活動することができた。発電機の操作を体験することは、避難所となったとき、子供たちが発電することができるようになる。寝るときのシートの活用も、避難所となったときには確実に役に立つはずである。1年目の防災キャンプは大変有意義なものとなった。		
<次年度に向けて> <ul style="list-style-type: none"> ・米作りについては、次年度も濱口さんにお願ひし、打合わせ等を計画的に行い、子供たちが主体的に取り組めるようにする。 ・米作りだけでなく、5年生以外の学年で行っている農業体験学習に、地域の方を巻き込んでいく計画をし、実施していく。 ・防災キャンプは、活動の主体は子供であることを踏まえつつ、子供たちが地域のためにできることは何かを考え、地域の方とともに協力できる活動を組み込んでいく。 		

学社融合活動実施報告

学校・園名		上山路小学校	公民館名	龍神公民館・殿原分館・東西分館・宮代分館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、平成24年度から3年間、田辺市教育委員会より学社融合推進研究指定をいただき、持続していける学社融合について研究を続けてきた。今年度は、その成果を検証していくための重要な年度と位置づけている。 学校で考えた取組を学社融合推進委員会で検討し、それを原案にして学校地域連絡協議会で協議することで地域全体と結びつくという本校の学社融合の展開を大切に取組を進めているところである。				
活動名		高齢者交流		
学年・教科・領域等		全学年 生活科・総合的な学習の時間・特別活動		
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を中心に地域との交流を深める。 ・昔から伝わる遊びや伝統的な物作りについて学習し、地域に住む人の思いに迫る。 ・挨拶や言葉づかい等、適切な対応ができる態度を養う。 		
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や活動を通して子供とふれあい、学校教育への理解を深める。 ・地域の方々が交流する機会を設け、地域の活性化を図る。 		
支援者及び支援組織 龍神公民館 宮代地区 東西地区 丹生ノ川殿原地区 上宮代ふれあいクラブ 殿原老人クラブ 丹生ノ川はてなしクラブ あけぼの学級 せいじゅ学級 宮代和の会				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 4月21日(火) 学社融合推進委員会(高齢者交流の原案作成) 4月30日(木) 学校地域連絡協議会(高齢者交流について提案し、了承を得る) ○高齢者交流の活動内容 1 校庭の花植え(4・5年生) 9月下旬 地域のゲストティーチャーの指導で花の種まき・ポット植替え 10月16日(金) あけぼの学級・せいじゅ学級と花植え 1月初旬 プランターに植えた苗を地域の郵便局へ寄贈 2 干し柿作り体験(3・4年生) 9月下旬 地域の代表者との打ち合わせ 11月中旬 地域の柿を収穫 11月12日(木) 殿原老人クラブ・丹生ノ川はてなしクラブと干し柿作り体験 3 昔の遊び体験(1・2年生) 9月下旬 地域の代表者との打ち合わせ 11月19日(木) 上宮代ふれあいクラブ・あけぼの学級・せいじゅ学級と昔の遊び体験 (おはじき、お手玉、コマ回し、ウラジロ飛ばしを班ごとに交代して体験) 4 しめなわ作り体験(5・6年生) 4月～10月 地域のゲストティーチャーの指導による米作り 10月初旬 地域の代表者との打ち合わせ 11月 地域の方の指導法についての練習会 12月17日(木) 宮代和の会・あけぼの学級としめなわ作り体験 3月 学社融合推進委員会(今年度の学社融合事業の反省) ※予定				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に子供たちや学校の様子について知ってもらう機会となった。 ・体験を通して、机上だけでは身に付けさせることのできない経験を子供たちにさせることができた。 ・工夫改善を加えることで持続可能な取組をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の交流層の高齢化により、今までしていた活動を継続することが今後も難しくなることが考えられる。これまでの取組を継続していくためにも、新たな学社融合の形態を工夫していく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して地域の方々との交流を深めることができた。 ・地域の伝統や文化を知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員として、ふるさとの将来を考えることができる児童を育てる。 ・取組をいかに学力や生きる力と結び付けるか。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々顔見知りになることで、校外でも交流できるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔見知り以外の方とも交流できる本当の力を身に付ける。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域、地域と地域の結びつきを深めることができた。 ・子供たちと地域の方々が触れ合うことで、地域の活性化につながった。 ・取組を行うために高齢者クラブや学級内での話し合いを持ち、公民館活動が充実できた。 ・異なった地域や異なった学級・クラブ等、協同して取り組むことで、より活性につなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流が地域交流の主体となっているため、他の世代との交流も考えていく。 ・高齢化によるクラブ、学級の活動が困難となってきた。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p><評価> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは、高齢者交流を通して地域の伝統や文化を知ったり、地域の方々との交流を深めたりすることができた。また、高齢者からは、「子供たちと交流したり、自分の経験や知識を伝えることが生きがいとなっている。」という声も寄せられている。高齢者交流は、子供にとっても高齢者にとっても有意義な活動となっている。 ・干し柿作りで使用する柿は、昨年度まで購入したものを使っていたが、今年度は地域の方からのご厚意で地元の柿を使用することができ、地産地消を実現。本当の意味での地域に根づいた活動とすることができた。 ・昨年度まで行っていたわらぼうし作り体験は、活動団体の高齢化により今年度は実施できなかったが、他の活動で子供たちと関わりたいという提案を受け、新たな取組として、しめ縄作りを行うことができた。 </p> <p><次年度に向けての取組の方向> 今後も高齢化は避けられないため、高齢者と子供が交流する機会を大切にしながら、地域の文化や自然と関わって、子供世代、親世代、高齢者世代など様々な世代が交流できる取組を考えていきたい。 また、体験を通して学力や生きて働く力が身につくよう、学社融合の形を探る必要がある。</p>		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		中山路小学校	公民館名	龍神公民館 中山路分館
学社融合における学校・地域の様子 本校は、平成11年度より龍人学を中心に地域教材・地域人材・地域の施設・地域の活動への参加を通して、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かしてキャリア教育・食育等の実践とともに「地域の学校」としての活動を展開してきた。これらの取組により、学校への協力や支援体制も確立してきた。今後もお互いの専門性を生かしつつ、学校・家庭・地域が協力して児童の健全育成を図るよう連携を深めたいと考える。				
活動名		親子人権教育学習会		
		学年・教科・領域等 全校 道徳、生活科、総合的な学習の時間		
目 標	学校・園	・児童と保護者が、数年来命の誕生に関わってきた助産師さんの体験談や講話から「命の誕生の感動」「命の大切さ」について学ぶ機会とする。		
	地域（公民館）	・学校と地域をつなぐ役割として、広く地域人材の発掘や地域行事・諸団体の情報提供、連絡調整の協力を仰ぎ、地域の教育力を学校の教育活動に生かす。 ・学校と地域、保護者と地域住民のつながりを深める三世代交流等の活動や地域住民の生き甲斐づくりを支援する。		
支援者及び支援組織 龍神公民館・龍神公民館中山路分館				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 本年度の学社融合の取組としては、学校での事前・事後指導に加え、一つの体験が学習のスタートとなって、児童と保護者が体験や学習したことをベースに各家庭で話し合える機会となり、学校では各学級での性教育の授業に生かせることができる学社融合を目標に親子人権教育学習会に取り組んだ。 9月30日(水) 事前の取組として、学習内容・資料・事前指導等について養護教諭と講師先生との打ち合わせを行った。 9月30日(水)～10月6日(火) 低学年は、お母さんのおなかの中に入った頃のことを想像した絵を描くなど、各学級での事前指導を行った。 10月7日(水)親子人権教育学習会 各学級で学習のめあて等についての事前指導と打合わせを行い、講師の助産師としての長年の経験から得た専門性を生かして、児童・保護者・職員が「出産」の疑似体験や「命の誕生」「命の大切さ」について学ぶ機会とした。また、学級での事後指導や児童の感想を保護者に知らせるとともに、この共通の体験から出産時の様子や親の願いなど、各家庭で親子の話し合いを持ち、親子で学びを共有する学習会を行った。				
		 		

	成 果	課 題
学校・園	・親子人権教育学習会が、その時だけの学習で終わるのではなく、この学習が契機となって、各家庭で「へその緒」を見て、出産時の様子や保護者の思いなど、親子で「命の大切さ」を語り合える機会となるなど、広がり継続のある学習会を開催できた。	・助産師さんによる学習を今後も継続し、学校での性教育の授業ともリンクさせて、児童を中心に担任と保護者が連携して、学校と家庭で行う性教育の取組を構築する。
*子供にとつて	・出産体験や生命の神秘、お母さんの願いなど「命の大切さ」について講師の先生から学び、自己の出産の様子についても母親から話してもらうことで、自分がかげがえのない存在であることや大切にされていることに気づくことができた。	・自己の誕生について知ること命の大切さに気づき、自尊感情を育み、自他を尊重する態度を育成する取組を継続する。
*子供にとつて	・今年で17年目の「花の移植作業・花の宅配」、29年目の「餅つき交流会と昔学習」「地域行事」など、地域の方から学ぶ体験をとおして、地域の一員としての自覚を持つ機会となった。 ・命の大切さを学ぶことで自他を尊敬する気持ちと地域の方からも守られていることに気づくことができた。	・学校行事や普段から行っている「挨拶の励行」や「登下校の見守り」をとおしての交流は行えているが、以前のように地域で活動する機会が少なくなっている昨今、家庭と地域の交流の場や活動の機会を設ける取組が必要である。
地域（公民館）	・「昔学習」「地域学習」「お神楽の指導」が、地域の方の活動の場となり、児童からは「いっぱい教えてもらってうれしかった。」地域の方からは「子供たちから元気をもらった。」等の感想をいただくなど、子供たちと地域との結びつきがより強くなった。また、日頃はあまり交流の機会のない保護者と学校を舞台に共通の話題が生まれ、登校指導など地域内でのつながりが深まった。 ・校報による事後のお知らせから、学校で取り組んでいる命の教育についての理解と子供たちを見守ることの大切さについて共感を得ることができた。	・地域住民の高齢化が進む中、地域の教育力を生かした取組を継続・発展するための施策が必要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> ・講師に任せっぱなしの体験や学習から、学校でできる事前・事後の指導を取り入れたりする、学校・地域がそれぞれできることを意識した学社融合の形を模索してきたが、今年度は、学習会を契機として、家庭で親子が話し合い、学習を広げ継続できたことは、本校の学社融合教育の新しいかたちを見つけれられたのではないかと考える。 <次年度へ向けての取組の方向> ・今年度は、事前の案内が出せず、事後の校報での紹介にとどまり、地域住民の方に参加していただくことができなかった。今後も児童・職員・保護者・地域住民が一堂に会し、共通の学びをとおして継続・発展できる学社融合に取り組むたい。そのためには、地域人材の発掘や講師の選任の面でも公民館との連携が必要であり、より協力できるつながりを構築するよう心がけたい。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		咲楽小学校	公民館名	龍神公民館福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子 地域の学校や教育に対する関心は高い。ほとんどの家庭がPTA準会員として物心ともに協力してくれ、運動会や学習発表会等にも大勢の参加がある。各地区の区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしている。地域の祭礼では児童も事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い祭りに積極的に参加するとともに、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなど、学校と地域との結びつきは強く、地域ぐるみで子どもを育てていこうという土壌がある。みふくし学習(ふるさと学習)を学社融合の柱として、生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心に地域の自然や文化、歴史について地域の人・もの・ことから学び地域にかえしていくことを目指している。				
活動名			学年・教科・領域等	
学校開放の日			全学年 生活科・社会科・総合的な学習の時間等	
目 標	学校・園	・授業を見てもらい一緒に活動することで、地域の方々と知り地域とのつながりを深める。 ・地域の方の協力を得て、学校だけではできない学びや活動を行う。		
	地域（公民館）	・授業を見てもらったり、ともに活動したりすることで、学校や児童の様子を知る。 ・地域の方々の交流や活躍の場をつくることで、地域の活性化を図る。		
支援者及び支援組織 公民館 老人会 学校地域連携推進会議 保護者 西牟婁振興局林務課 柳瀬保育園				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
11月10日～12日「学校開放の日」 学校の様子を知ってもらい、地域の方から学んだり地域の方とともに学んだりする活動を通して地域住民との交流を深めるため、「学校開放の日」を設定した。校区全戸に案内を配布するとともに、保護者と学校地域連携推進会議、老人会には重ねて出席を呼びかけた。当日は保護者、地域住民あわせて約40名の参加があった。				
①授業公開 10日 各学級、国語・算数・理科・社会の授業を公開し、保護者や地域の方々に参観していただいた。				
②親子木工教室 11日 地元の林業家、真砂典明さんを講師に木工教室を開催した。地元の産業である林業や身近にある森林、木材等について学び、木を材料にのこぎりや金槌を使って3～6年の児童各自ひとつずつシロフォンを完成させた。保護者だけでなく地域の方も児童の作業を手伝ったり教えたりしてくれた。				
③むかしのあそび 11日 1・2年は生活科の学習として、高齢者学級や老人会を中心とした地域の方々に昔の遊びを教えていただいた。ななこ(お手玉)の作り方を教えてもらい、完成したお手玉で遊び方を体験させてもらった。				
④花の苗植え 12日 3・4年生が地域の方の指導により育てた苗を、地域の方々と全校児童一緒に学校の花壇やプランターに植えた。				

	成 果	課 題
学校・園	・保育園児から高齢者まで大勢の方に学校に来てもらい、学校や児童の様子を知っていただくことができた。地域との一体感が得られた。 ・木工、むかしのあそび、苗植え等、地域の方の技術があつてこそその学習や、大勢の大人の助けなしにはできない学習・活動を行うことができた。	・本年度は活動を3日に分けて実施した。しかし、準備や活動はスムーズに行うことができたが、昨年よりは参加者が少なかった。どのようにして無理なく多くの方々に学校へ足を運んでもらうか、地域の方にとってもプラスとなるような活動をしていくか、日程や時間設定も含め、考えていく必要がある。
*子供にとって	・地域の方から木工を教わり質の高い学習ができた。また、保護者や地域の方々の助けやアドバイスを得て難易度の高い作品を完成させ満足感が得られた。 ・昔の遊びを教わり一緒に楽しむことができた。	・子供から地域に発信したり、働きかけたりするような、子供が主体となる活動も考えていきたい。
*子供にとって	・ともに活動してくれる大人がいることで、地域に見守られ支えられているという安心感が得られた。	・ゆったりと大人と子供が触れ合うゆとりがあつたが、内容の工夫改善が必要である。
地域（公民館）	・学校や児童の様子を知ることができた。また、木工技術や遊びなど、微々たるものではあるが「文化の継承」につながる活動ができた。 ・教えたり、ともに活動したりすることが、大人の側にとっても楽しみであり、学校と地域がつながるきっかけにもなっている。	・参加者が固定化してきている。いかにして参加者の幅を広げ地域全体の活動にしていけるか内容等考えていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
「学校開放の日」は学校や地域の年間行事として定着しつつある。本年度は咲楽小学校統合10周年を迎え、より充実したものとなるように「みふくし学習」を意識し児童が主体的に取り組めるような内容を工夫した。日程等も熟考し、より多くの方に学校の様子を知ってもらうための機会にしていける必要がある。今後も学校と地域双方にとって無理のない形で、互いのプラスになるような「学校開放の日」の取組を続け、さらに学校と地域を結びつきを強めていきたい。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		中辺路小学校	公民館名	中辺路拠点公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、ふるさと学習を核として、学校・保護者・地域が一体となった活動を続けることにより、児童が地域の人たちとの親交を深めることができた。 開かれた学校を心がけ、様々な行事に地域の方々に関わっていただいたり、子供たちが現地に行って指導していただいたりしたことにより、日頃の児童の様子を理解していただくことができた。				
活動名		学びの町「中辺路」 地域の方々とともに学びともに育つ		
		学年・教科・領域等 1・2学年 生活科 3・4学年 総合的な学習の時間・社会科・学活		
目 標	学校・園	・地域の方と共に学び、地域に親しみ・愛着をもつ児童を育てる。 ・ふるさと中辺路のよさを知り、他教科と関連付け、地域の方々との交流や学習の成果等を発表する学習活動を設定し、自らの思いを他者に伝えることができる児童を育てる。		
	地域（公民館）	・学びの支援者として、地域の教育人材の発掘と学校支援の拡大を進める。 ・地域の子を学校と共に見守り育てる教育の基盤を深めていく。 ・地域の方々、学校と公民館が協力し合って教育活動を進めている取組を紹介していく。		
支援者及び支援組織 中辺路拠点公民館 学習支援者（エリア・ティーチャー：地元在住の旧小学校卒業生） 田辺市社会福祉協議会 中辺路地区事務所 女性会 老人会 子ども三番叟保存会等				
取組の経過（日時・ねらい・活動内容等）				
【ねらい】 ・地域の方と共に学び、地域に親しみや愛着をもつことができる。 ・ふるさと中辺路を調べ、地域の良さや魅力を発信することができる。				
学年	活動名	活動内容		
1・2	学校をとび出そう！ ふるさとたんけん！	○学校及び学校周辺を学習支援者とともに探検し、季節を感じ取り、学習支援者から、草木の名前やそれらを使った遊びについて学習した。（1年） ○友達の家を訪ね、学習支援者とともに地域を探検する学習を通して、広くなった校区の様子を知り、発見したことや疑問に思ったこと、昔の地域の様子について学習支援者から教わった。（2年） ○校区にある廃校を訪ね、地域の方と遊びや音楽を通して交流した。（1・2年）		
3・4	ふるさを知ろう！	○校区探検をし、学習支援者から、ふるさとの昔の暮らしについて教わった。また、梅農家の仕事について学び、仕事体験を実施した。学習や体験を校区マップにまとめ、学習成果を発表した。また、地域にある老人ホームを訪問し、遊びや音楽発表や朗読発表を通して交流した。（3年） ○廃校になった小学校の沿革や校歌について、学習支援者とともに調査し、その校区の昔の生活の様子や地域の人々、地域の公共施設等で働く人々の思いを知ることができた。地域の方には、校歌を聴かせていただき、交流を図ることができた。（4年）		
5・6	ふるさとの魅力、発信！	○地域の産業を調べ、米作りの1年間の仕事体験や林業の仕事（間伐等）体験を通して、地元の産業について学習することができた。（5年） ○世界遺産である熊野古道の現地学習を実施し、地域の自然や民話等の素晴らしさについて、学習支援者や地域の方の助言を受けながら、ふるさとガイドブックを制作した。また、語り部としての原稿を制作し、語り部ジュニアとしての活動に取り組むことができた。（6年） ○学習成果を学習発表会等で地域に発信することができた。（5・6年）		
全校での取組	○公民館、社会福祉協議会との連携により、老人会の方とともに芋を育て、収穫祭を行った。また、チューリップの球根や花の苗植え、縄作りやしめ縄づくり等を地域の方や親子で行った。 ○毎月1回三味線練習を行い、9月には、地域の方に祭りの子ども三番叟の指導をしていただいた。			

	成 果	課 題
学校・園	・支援者とともに、郷土の学習を計画的に発展的に進め、中辺路の歴史・文化・自然について学び、ふるさとのよさを認識することができた。 ・地域の方々とともに活動する中で、教室だけでは教えられないことを学ばせることができ、地域の方々との信頼関係を築くことができた。また、地域、保護者の方々が入りやすい学校環境づくりを進めることができた。このことにより、地域、子供、教職員のつながりが強くなった。	・今回、支援していただいた方々に、さらに呼びかけを広めていただき、地域全体に広がる支援者の参加体制を構築したい。 ・校区の多くの地域について、各学年、各年度の学習計画と地域人材をさらに明確にすること。
*子供にとって	・様々な体験を通して、知識や経験が豊かになった。 ・地域の方々から直接教わる活動の中で、ふるさとのよさを知り、地域の方々との交流や学習の成果等を自信を持って発表することができた。	・児童の自主的な活動や地域と結びついた学習活動を工夫していく必要がある。積極的に活動することが苦手な児童もいるが、この活動こそが、児童の学習・生活に係る意欲を高め、主体的に活動する児童の育成に繋がると信じている。
*子供にとって	・地域の方々との交流の場を持つことができ、地域の方々の教えにより、自分たちの住んでいる地域のことを知る事ができた。	・校区に多くの集落があるが、年間授業時数の関係で学習の対象となる地域に限られるため、6年間を見通した計画が必要である。
地域（公民館）	・地域の伝統や文化など様々な資源を学校の教育の場において、効果的に活用することができた。 ・子供たちと地域の方々、遊びや体験、学習等の時間をともにする交流を重ねることにより、廃校となった学校が多い地域の活性化に繋がったと考える。	・公民館は、学校と地域人材の橋渡し役として地域人材の情報をつかみ、人材確保に努めること。また、高齢化が進む中、地域の支援者の引き継ぎが課題である。 ・学校と公民館がより連携を深めていくこと。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
・年間を通じた農作業体験、地域での現地学習の中で、農作物づくりの苦労や喜びを体験させることができた。また、地域への理解を深めることができた。 ・地域の人々のふるさとによせる思いや学びの深さを実感でき、郷土についてのよさや歴史などを理解することができた。 ・積極的に活動することが苦手な児童もいるが、この活動こそが、主体的に活動する児童の育成に繋がると信じて、児童の学習・生活に係る意欲が高まり、さらに満足感を持って取り組めるような教材開発に努めたい。 ・今後の取組の方向として、中辺路共有コミュニティのメインテーマ「学びの町 中辺路 ともに育み ともに育つ」の方向性のもと、ふるさと学習を継続していくとともに、新たな取組を模索していく必要がある。		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		近野小学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
学社融合における学校・地域の様子 年間を通しての諸行事の中で、保育園、小学校、中学校、公民館、校区の諸団体との連携を図るため、代表者による実行委員会を設置し、諸行事(区民体育祭・近野まるかじり体験・近野フェスティバル・文化祭・近野山間マラソン等)を運営していくことで学社融合の取組を進めている。特に、JA女性会、近野獅子舞団、近野振興会、中辺路森林組合との交流が盛んである。 地域の方々は大変協力的で子供たちとも積極的にふれあってくれる。また、そのふれあいを楽しみにして喜んでくれている。今後もさらに、地域や公民館との連携を充実させ、学社融合を深める取組を進めていきたい。				
活動名		「近野フェスティバル」「文化祭」		
学年・教科・領域等		全学年 生活科・音楽・総合的な学習の時間		
目 標	学校・園	・小中連携をより深め、保護者や地域の各種団体とも可能な限り融合を深め、「真の学校開放」を念頭に地域ぐるみの教育創造をめざす。 ・生活科・総合的な学習・音楽での学びを地域に発信し、学校教育や児童への理解・協力並びに支援を頂く。 ・地域の方との交流を通じ、地域に支えられていることを理解し、地域の一員であるという自覚を持たせる。		
	地域(公民館)	・地域の伝統や文化・自然環境などを大切にし、学校と地域の各種団体や協力者と連携しながら子供たちと地域住民の交流を深め地域の活性化を図る。		
支援者及び支援組織 保育園 中学校 近野小PTA 近野中育友会 公民館近野分館 JA女性会 地域住民				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ◆10月7日(水) 「第18回近野フェスティバル・文化祭」について小中合同職員会議 ◆10月30日(金) 第18回近野フェスティバル・文化祭実行委員会 ①ねらい・趣旨について②要項について③プログラムについて(内容・配付先・新聞折り込みについて)④広報・出品依頼について(ジャムネット・防災無線・プリント配付)等の内容について検討する。 ◆11月頃～ 学級で学習発表、全校で音楽発表、縦割り班で遊びコーナーの準備等を行う。 ◆11月4日(水) パパママランチ実行委員会 「近野フェスティバル・文化祭」当日の昼食準備やバザーの運営について、小中保護者合同で話し合い、役割分担等も決める。 ◆11月11日(水) 「近野フェスティバル・文化祭」開催のお知らせ・作品出展のお願い 全戸配付 ◆11月13日(金) 新聞折り込み案内・ジャムネット依頼・防災無線原稿依頼 ◆11月18日(水) 日頃お世話になっている方、ゲストティーチャー等に児童が招待状を届ける。 ◆11月19日(木) 小中合同清掃、会場設営 11月20日(金) 前日準備 展示物(地域の方々の作品)、掲示物(小中学生の総合学習のまとめ等)、保育園児、小中学生の絵画の展示 ◆11月22日(日) 第18回近野フェスティバル・文化祭 開催 ○9:00～開会挨拶 9:10～小学校学習発表 0:10～小学校・中学校音楽発表 10:50～中学校学習発表 11:00～サークル発表(地域のコーラスサークル・ダンスサークルの発表) ○12:00～昼食(小中保護者が作って下さったカレーを参加者全員で頂く) ○13:00～お楽しみタイム(小中学生が遊びコーナーを提供する)				
		並行して、保小中と地域の方々の作品展示・提供して頂いた野菜とリサイクルバザー・昼食用にカレー作りが保護者や女性会方で行われている。		
		 		

	成 果	課 題
学校・園	・「近野フェスティバル・文化祭」に向けて、児童生徒も教職員も保護者も小学校と中学校が協力して取り組むことができたことが大変良かった。 ・生活科・総合的な学習の時間や音楽科などの時間に学習したことをたくさんの方に見て頂くことで、学校教育や児童の理解を深めて頂けた。	・「近野フェスティバル・文化祭」に向けて、子供たちが活動を進めていくための、準備や練習時間の確保が難しく、工夫が必要である。 ・児童数が減少する中、児童に大きな負担がかからないよう計画して取組を進めていくことが必要である。 ・地域の方々の高齢化が進み、「野菜の提供・バザー」や「作品展」の出品や作品集めなど特定の方に負担がかかっている面があるので、今後工夫していくことが必要である。
*子供にとつて	・学習発表・歌・合奏・道中など多くの地域の方々に見て頂き、達成感を味わうことができた。 地域の方々にも「遊びコーナー」に参加して頂き、子供たちと直接交流できた。 ・地域の方々の様々な作品に触れる良い機会となった。	・来年度から全児童に対する4～6年生の児童の割合が減少するが、今年度同様「高学年が低学年の児童に気配りをしながら」活動を進めることができるように支援していく必要がある。
*子供にとつて	近野区民体育祭や近野フェスティバルなどの地域を挙げての行事に参加し、地域の多くの皆さんと交流することができた。	今後も地域の伝統や文化を地域住民の方々から学び、子供たちの学習に役立てていきたい。
地域(公民館)	近野区民体育祭や近野フェスティバルなど、地域を挙げての活動を学校と公民館と地域が一体となって実施していくことにより、地域との融合と活性化が図れた。	学校の様々な行事を通じて校区である近露・野中地域の住民との交流やコミュニティ形成が図れるよう、継続的な取組を行ってきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・地域の方々が大勢見に来てくれたことで、自分たちを温かく見守ってくれていることがわかり、地域の一員としての自覚を持つことができた。 ・「高齢化」が進む中、全戸配付、折り込み案内、ジャムネットに加えて、児童が招待状を書いて届けたり、防災無線を活用して案内をしたりすることで、さらに多くの地域の方々に参加して頂くことができた。 ・今年度は、保護者から「野菜のバザー」に加え「リサイクルバザー」もしてみたいのではないかと提案を頂き、保護者が中心となって、品物集め、値段付け、当日の販売等を行って来て、大変有り難かった。 ・この行事は、日頃の学校の取組、子供たちの学習の足跡を多くの地域の方々に見て頂き、地域の方々のサークル活動の様子や様々な作品にも触れる大変貴重な場である。地域は高齢化が進み、Iターンの家庭も多い。そんな中で学校の担う役割は大変大きい。地域の情報を収集しつつ、保護者や地域の各種団体とも可能な限り融合を深め、「真の学校開放」を念頭に地域ぐるみの教育創造をめざしたい。		
  		

学社融合活動実施報告

学校・園名		鮎川小学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 本年度は、市指定研究の大塔地域共育コミュニティ事業(3年間)の2年目に当たる。また、三川小学校と統合し校区も大変広くなり、地域との関わり方について模索している状況である。学社融合の取組として、公民館を中心に多くの地域の方々にご協力を頂いている。5月には共育ミニ集会を開き、学校に協力して頂いている地域の方々に学校にお呼びして、年間の学校行事について説明したり、昨年度の反省等について協議したりする機会を設けた。新たな取組として、放課後に公民館で活動しているふれあいスクールに、出前授業としてご協力を頂いた。また、三川小学校で交流のあった「あすなる木守の郷」と小運動会という形で交流を行った。各学年のふるさと学習においても、それぞれの学習を深めるために、新たに多くの方々にご協力を頂いた。年度末には、再度共育ミニ集会を行い、本年度のまとめや反省などの交流を持ち、来年度へと繋げていきたい。				
活動名		ふれあいスクール出前授業		
		学年・教科・領域等 1・2年 特別活動(学級活動)		
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とのふれあいを通して、地域に親しみを持ち、ふるさとを愛する心をはぐくむ。 ・地域の方と丁寧な言葉遣いで会話することができる。 ・子供とのふれあいを通して、学校に関心を持ってもらい、地域の方とのよりよい関係を築く。 		
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の事前準備や当日の運営を通して、子供たちの教育活動に携わる。 ・子供たちとの活動を通してコミュニケーションを楽しみ、子供たちの成長に積極的に関わる。 ・自分たちの経験・知識を子どもたちへの教育活動に生かすとともに、今の子供たちや学校・教員の皆さんの取組を理解する。 		
支援者及び支援組織 ふれあいスクール実行委員会 公民館				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【1年生】 ○6月 1日 打合せ(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○6月19日 出前授業「むかしからのあそびをたのしもう！」・・・ちい先生(※)11名参加 <ul style="list-style-type: none"> ・指あそび等(アイスブレイク) ・グループに分かれて、昔の遊びをする。(かごめかごめ、花いちもんめ) ・まりつき遊びを覚えてもらう。(あんたがたどこさ) ○7月27日 打合せ(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○9月14日 打合せ(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○10月6日 出前授業リハーサル(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○10月9日 出前授業「命を守ろう！」(防災学習)・・・ちい先生11名参加 <ul style="list-style-type: none"> ・地震と火事についての「防災クイズ」で、二者択一問題に取り組む。 ・新聞紙でスリッパを作り方を教わる。そのスリッパを履き、ガラスに見立てた卵の殻の上を歩く。 ・災害時にとるべき姿勢や行動を動物に例える「防災ダック」の動きの意味をちい先生に伝える。 【2年生】 ○6月 1日 打合せ(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○6月25日 打合せ(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○6月26日 出前授業「むかしからのあそびをたのしもう！」・・・ちい先生10名参加 <ul style="list-style-type: none"> ・指あそび等(アイスブレイク) ・長縄を使った遊びをする。(おじょうさん、おおなみこなみ、ゆうびんやさん) ・ゴム跳び遊びを体験する。 ○ 7月27日 打合せ(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○10月15日 出前授業リハーサル(担任、ふれあいスクールコーディネーター、公民館職員) ○10月19日 出前授業「たのしくまなぼう【ぼうさいカルタ】」(防災学習)・・・ちい先生10名参加 <ul style="list-style-type: none"> ・防災カルタをする。順番に読み札を読み、防災で大切なことを確認する。 ・道具を使わずにごみ袋とレジ袋でレインコートを作る方法を教わる。 ※ 本校では、地域の方を迎えて授業をするとき、その方たちのことを親しみを込めて「ちい先生」と呼んでいる。				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいスクールには、希望者のみが参加し一部の児童しか関わりを持つことができなかったが、今回、出前授業という形で、低学年全員に関わってもらうことができた。 ・地域の方々に、学校や子供たちの様子を知ってもらうことができた。 ・任せきりではなく、学校とふれあいスクールが協力しながら授業を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や役割分担などの打合せは重要であるが、結構な手間や時間が必要である。 ・授業に関わって頂ける方全員が打合せに参加して頂くことは、非常に難しい。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の遊びを覚えてもらい、地域の方々と楽しく過ごすことができた。 ・楽しみながら、防災について学ぶことができた。 ・地域の方々と交流することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に対して、感謝の気持ちを持って接することができるようになる。 ・道で出会ったときなど、元気にあいさつをする。 ・様々な活動を通して防災意識を高め、災害に応じた行動ができるようになる。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との交流が深まった。 ・知らない昔の遊びや防災知識、災害緊急時に役立つ知恵などを学ぶことができた。 ・授業に協力してくれた地域の方々への愛着と感謝の気持ちが高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、教わった日本の古き良き遊びが普段の子供たちの遊びの中に浸透し、受け継がれていけばいいと思われる。 ・日頃から防災に関心を持って、意識を高めるなど防災意識の定着が望まれる。 ・地域行事にも積極的に参加し、地域の方々との交流を通して人間性、社会性を高めてほしい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・重心に返り、子供たちと楽しく交流することができた。 ・今回、初めて学校の授業に参画する方も多く、緊張される方もあったが、良い経験になった。 ・活動に参加することで、学校や子供たちの様子を見ることができた。 ・ふれあいスクール(放課後子ども教室)の活動について、より多くの子供たちに知ってもらうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段行っている「ふれあいスクール」とは異なり、学校の授業という位置づけなので、事前の打合せを早めに行い、参加者全員が教員の方々の意図する授業の目的・進め方を理解しておく必要がある。 ・「ふれあいスクール」のスタッフの高齢化が進んでいるので、少しずつ若い後継者を発掘し、育てていきたい。そのため、ふれあいスクールの取組を広報し続けていくことが必要である。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <今年度の評価> 新しい試みとして、公民館にご協力頂き、出前授業としてふれあいスクールをお願いしたが、子供たちの反応もよく、概ねうまくいった。継続的に取り組める活動として位置づけていきたい。		
学社融合の取組を進めていく中で本校の大きな課題として挙げられるのが、地域の指導者の固定化である。しかし、今年度は各学年のふるさと学習を中心にゲストティーチャーとして新しい方々にもご協力頂くことができたのは前進といえる。また、2年生が旧三川小学校校区のお年寄りと交流を持つことができたのもよかった。		
<次年度に向けての取組の方向> 地域の指導者等協力頂いている方には高齢者が多い。来年度は田辺市指定研究の最終年度になるが、学社融合はそれで終わりではない。発表後も学社融合の取組を継続させるために、数年先を見越して人材の確保を進めていかなければならない。また、担任が替わっても継続できる活動となるようにしていきたい。		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		富里小学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校校区は、全人口の約半数が60歳以上という高齢化が進んだ地域である。地域唯一の学校として、地域住民は本校の教育に対してとても協力的で、常に物心両面で協力・支援してくれている。6地区278世帯であるが、全校児童18名中、61%は過疎対策で建てられた住宅に住んでいて、校区内の3地区には小学生がいない。そうした中で、ふるさとを愛しふるさとの良さに気づく子供を育てるため、地域の方々や、諸施設・関係機関に積極的に協力を求めたり、地域の方を講師として招聘したりすることで、ふるさと富里の自然や文化についての学習や地域の人々との交流を深めている。また、地域の行事などに積極的に参加していきなど、社会教育との連携を深めるように努力している。				
活動名		とみさと再発見		
		学年・教科・領域等 全校児童 生活科・国語科・総合・図工科・特別活動		
目 標	学校・園	地域の方々へ授業に参画していただくことで、ふるさとの文化や自然、生活についての学習を深めるとともに、伝統を受け継いできた人々の苦勞に気づく。また、いっしょに活動することで、地域の人々との交流を深め、ふるさとを愛する子供を育てていく。		
	地域（公民館）	地域に伝わる伝統文化を子供たちに伝えることで、ふるさとを愛する心を育む。地域全体で子供たちのふるさと学習・健全育成に関わり、知識や経験などを伝え、数少ない地域の子供たちとの交流を深める。		
支援者及び支援組織 大塔公民館 大塔公民館富里分館 富里連絡所 平瀬郵便局 合川駐在所 JA紀南富里支所 上野獅子舞保存会 とみさと句会 JA紀南女性会富里支部				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【ふる里料理教室】 講師:JA紀南女性会富里支部のみなさん <みそ・こんにやく作り>⇒<豚汁作り> 9月～2月 中学年は、国語科「すがたをかえる大豆」の学習も兼ねて、みそ作りを体験させてもらった。茹でた大豆に食塩・米・麦・糲菌を加えることで、「みそ」にすがたをかえることを実感することができ、国語科の学習が深まった。出来上がったみそと、高学年が作ったこんにやくを使って、豚汁の作り方を教えてもらい、全校で味わった。				
【俳句教室】 「とみさと句会」の皆さんとの交流 句会(6月・10月・2月に実施) 例年通り、低、中、高学年の3つのグループに分かれ、俳句の作り方について教えてもらったり、句会を開いたりして、俳句作りを楽しんだ。また、作った俳句を『ふるさと富里祭り』や『おおう生涯学習フェスタ』に出品・展示し、地域の方々にも見ていただいた。				
【富里ではたらく人】 富里連絡所・平瀬郵便局・合川駐在所・JA紀南富里支所 6月～11月 2年生が、地域ではたらく人について調べ、それぞれの職場を訪問してインタビューをし、国語科と関連させてのまとめをした。出来上がったものを、一人一人『ふれあい学習発表会』で発表し、地域の方々にも聞いていただいた。				
【上野の獅子舞】 上野獅子舞保存会の皆さん 6月～11月 県の指定無形文化財である『上野の獅子舞』についての学習を全校で取り組んだ。 高学年は、歴史について、舞やお囃子の特徴などを保存会の皆さんに教えてもらった。調べたことをまとめ、『ふれあい学習発表会』では、語り部とともに自作の獅子頭をつかった舞も披露し、来場していただいた地域の方々から大きな拍手をもらった。 また、低・中学年も、いっしょに演舞を見せてもらったり、笛や太鼓を使わせてもらったりした後、体験したことを絵に描いた。				



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々へ授業に参画してもらうことで、授業内容が豊かになり関連する教科学習にも深まりができた。 ・授業についての打合せは、昨年までの「ふるさと学習」の取組での繋がりがベースにあるのでとてもスムーズに行うことができた。 ・地域の方々が多く集う「ふる里富里まつり」や、学校主催の「ふれあい学習発表会」で取組を紹介することができ、学校の様子を見ていただく良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組が、地域の活性化につながっていくよう、さらに公民館や他団体との連携を密にしながら進めていく。 ・小学生がいない地域の人々や、高齢者の方々にも小学校を身近に感じ、学校に足を向けてもらえるよう、より積極的な広報活動や、参加していただける方法を引き続き考えていく。 ・地域の方々へ教えていただき、地域の歴史的な文化遺産についての学習を深め、地域語り部につなげていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの文化や生活に興味を持って調べ、まとめたことを地域の方々へ聞いてもらうことで、ふるさとを愛する心が育ってきた。 ・地域の方々との様々な交流を通して、場に応じた言葉遣いやマナーを考えることができる児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとに対する思いを深め、積極的に地域の活動に参加していく。 ・子供たちから地域へ発信していくような、主体的な取組ができるようにしていく。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通して自分たちの住む富里地区には、すばらしい伝統文化が脈々と受け継がれていることに気づき、長い歴史を有するふるさとへの愛着と誇りが育まれた。 ・地域の方々との交流が深まり、人々の生き方、ふるさとに対する思いに触れることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動や行事に参加し、人との交流を通して、より社会性を高めていってほしい。 ・現在、地区を離れて暮らしている若者でも、秋祭り等地域の行事には必ず帰郷し、参加している方がいる。この様にふるさとを思い続ける心を持ち続けてほしい。 ・一人でも多くの子供たちが伝統文化の後継者として育っていただきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・過疎化、少子高齢化が進む地域ではあるが、人と人との繋がりが強く、子供たちのためなら協力を惜しまないという地域力が根付いており、子供たちとの交流を楽しみにしている方も多い。 ・学習活動に参画・協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。 ・ふるさとの良さ、ふるさとを大切にすることを子供たちに伝えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動支援者の高齢化・固定化は仕方のないことではあるが、一部の方々へ負担がかからないよう配慮しながら、学校への協力を続けていきたい。 ・地域の行事や公民館事業において、少しでも子供たちが参加し、活躍できる場、住民との交流の場を作っていくとあれば良いと思われるので、今後、公民館運営委員会でも協議・検討を重ねていく。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> <input type="checkbox"/> 『上野の獅子舞』の学習については、今年度から本格的に全校で取り組んだ内容であるが、児童は興味を持って意欲的に取り組むことができた。この学習に取り組むに当たって、「上野獅子舞保存会」の皆さんに協力をお願いしたところ快く受け入れていただき、年間を通して協力してもらうことができ、さまざまな角度から学習を深めることができた。保存会の皆さんにとっても、地域の伝統的な文化を次世代に継承していくことがとても大切だと考えておられたようで、双方の想いがうまく合致したことが、充実した取組ができた大きな要因であると考えている。また、子供たちにとっても、毎年の時に見ただけの「獅子舞」がとても身近なものとなり、継承していくために努力している地域の方々の思いや、苦勞を知ることができたことはとてもよかった。 <input type="checkbox"/> とみさと句会の皆さんとの「俳句教室」や、JA女性会の皆さんとの「ふるさと料理教室」については、定着した取組となっているので、担任が変わってもスムーズに取り組むことができ、年々よりよい方法を考えていくことができている。 <input type="checkbox"/> 2年生の『とみさとではたらく人』の学習では、自分の住んでいる地域の生活向上のために働いてくれている人々について考えることができたことは良かった。		
<次年度に向けての方向> <ul style="list-style-type: none"> * 来年度以降、さらに児童数が減少していくことを見越し、少人数を生かした、継続して取り組むことができる内容を考えていく必要がある。 * 引き続き、積極的に地域に出向いて行き、一緒に活動できることを考え、地域の方々との交流の機会をさらに増やしていく。 		

学社融合活動実施報告

学校・園名		三里小学校	公民館名	本宮公民館三里分館
学社融合における学校・地域の様子 本校校区は、世界遺産である熊野古道が通り、熊野川にそそぐ三越川に面した緑に囲まれた自然豊かな地域にある。しかし、少子高齢化にともない児童数は平成31年まで50名弱を推移し、複式の学級は今後も存続していくと予想される。このような小さな学校ではあるが、地域住民の学校への期待感は大きく、学校の行事等には協力的で子供たちを温かく見守ってくれている。1学期の人形劇の上演、2学期の学校開放週間や日曜参観日には来校者が多く、昨年度の学校開放週間と比較すると20名ほど増えていた。また、11月23日の恒例の三里祭り(公民館主催)には、雨天にもかかわらず多くの住民が参加し、祭りを盛り上げ、また本校育友会のバザーも盛況であった。このように本校は地域と密接に関わり合いながら、教育活動を実施している。				
活動名		日曜参観の親子もの作り教室		
学年・教科・領域等		全学年 特別活動		
目 標	学校・園	・地域に生きる学校として、地域を生かした学びを深める。 ・学校を中核とした社会教育団体との融合を模索する。 ・共育コミュニティ事業に積極的に取り組み、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実を目指す。		
	地域(公民館)	・公民館事業と学校の教育活動が一体となった学社融合の取組を行う。 ・地域人材の知識や技能を生かしたボランティア活動を推進し、参加した地域住民が児童との交流を通して教育活動への参加意欲を高める。		
支援者及び支援組織 本宮公民館三里分館 地域の方 保護者 共育コミュニティ音無本部				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) <日曜参観日の親子もの作り教室> 1)日 時 平成27年11月8日(日) 2)場 所 本校講堂・家庭科室 3)ねらい 地域の方を講師に迎え、親子で一緒にもの作り体験(凧作りまたは草木染)を行い、楽しいひと時を過ごす。 4)内 容 ①草木染教室 地域在住の草木染研究家を講師に招聘し、たまねぎの皮とくさぎの実を使った草木染を実施。材料のたまねぎの皮は給食調理員さんや児童の家庭の協力で集め、またくさぎの実は職員と、くさぎの実を採取可能な家庭に協力して頂き、約500グラム程度集めた。当日までに講師と打合わせを行い、作業手順や染め方の種類や染める材料の調達などについて確認した。当日は児童と保護者が協力し、白のハンカチを豆絞りにしたり、折ったりたたんだりして、染め模様をつけて、染色液につけ染めた。染めた後はアイロンで乾かして仕上げ、それぞれの作品を披露して、講師へのお礼の挨拶をして終了した。 ②凧作り教室 本校の校庭にある樹齢30年程度の柳の木が緑で、「日本の凧の会」会員の方が、凧作り教室の講師を引き受けてくださり、教室を開催することになった。講師との事前打合わせで、まず職員が凧の作り方や準備作業などを教えていただいた。当日は、親子で凧の骨組みを作り完成させる作業を行った。児童は事前に自分で考えた絵を凧に色マジックで描いており、出来上がったいろいろな絵柄の凧をみんなで鑑賞した。この日は雨天のため、できた凧をすぐにあげることはできなかったが、後日児童らが校庭で凧あげを楽しんでいた。また、学校の校章入りの連凧を講師よりプレゼントして頂き、児童の楽しみが、また一つ増えた。				
5)参加人数 児童47名 保護者30名 学校職員 12名 計89名 (父親の参加者8名)				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材(草木染講師)を共育コミュニティ音無本部の事務局に紹介して頂くことで、今回大変よい講師に恵まれ、親子ものづくり教室を開催することができた。 ・親子で一緒にものを作り楽しむ活動を通して三里の自然を生かした創作体験や、日本伝統玩具の一つである凧作りに興味関心を持たせるきっかけになったことはよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予想以上に好評だったため、来年度も継続して実施できるよう計画をしていきたい。また保護者だけでなく広く地域の方にも公民館を通して紹介していきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを作る活動は子供にとって興味関心が高く、また今回親子で実施したことがとても楽しかったようである。 ・草木染や凧作りの知識や技能をもった地域の方から学ぶ喜びや感動を与えられ、再挑戦したいという子が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回子供たちは、草木染と凧作りのどちらかを選択したが、両方体験してみたかったという意見が多く、今後もさらに意欲的に活動できるようにする。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の専門的な知識や技能を学ぶ中で、大人への尊敬の念を持ち、地域の自然や伝統玩具への興味関心を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方から学んだことに感謝の気持ちを持ち、また、普段の生活の中で、学んだことを生かし自分の生活を豊かなものにしていこう。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材探しを行うことで、学校と地域のつながりをつくることができた。 ・地域の方が学校で活躍する様子を学社融合の取組が分かる掲示物を展示し、地域の方に紹介することができた。(今年度の行政局ロビー展:12~1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回定期的に共育コミュニティ音無の担当者会を行政局で開催し、町内三校(本宮小・中・三里小)の学社融合に関わる学校行事の交流を今後も継続していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・地域に住む方から親子で草木染や凧作りを学ぶことで、家庭でもまた実践してみようという気持ちが出たという感想が聞かれ、大変良かった。また来年度も継続して実施していく方向で検討している。 ・地域にある自然のものを使って草木染を行い日用品を豊かなものにしたり、遊び道具(凧)を作って楽しむ術を体験したりすることで、生涯学習の一つとして有意義であった。多くの子供や保護者から「楽しかった。またやってみよう。」「できた作品を展示してほしい。」等の感想を聞くことができた。講師の方からも「初めての体験であったが、子供や保護者と共に楽しめて学校に来てよかった。」と言って頂いた。来年度に向けて、もの作り教室の講師を継続して頂けるよう交流を深めたい。 ・この取組を進めるに当たり、地域や家庭と学校がつながるために、共育コミュニティ音無本部の事務局が強いパイプ役になってくださったことがありがたかった。来年度もこのようなつながりを大切にしていきたい。 		
		
<p><草木染教室の様子></p>		<p><凧作り教室の様子></p>

学社融合活動実施報告

学校・園名		本宮小学校	公民館名	本宮公民館 (本宮分館・四村川分館・請川分館)
学社融合における学校・地域の様子 本宮地域に住む子供たちは、過疎化・少子高齢化が進み、統廃合により校区が広がったことから友達との交流がなかなか深まらない状況にある。こうした背景において、学校だけでなく家庭・地域社会の中で、将来、地域社会の一員として貢献できる子供を育てていくという考えのもと、保護者・地域・専門家による支援を受けながら学社融合の取組を進めている。保護者・地域にとって、子供たちへの関心は高く、参観日や懇親会はもとより各行事への出席率が高い。地域に住む、各サークルの方々も積極的に授業支援に参加して頂いたりしていることから、地域ぐるみで子供を育てようとする意識が高い。				
活動名			学年・教科・領域等	
学びを深める学習支援			1・2年・国語科・生活科 3～6年・社会科・総合的な学習の時間	
目	学校・園	・保護者・地域の方・専門家による学習支援を受け、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ・地域の方々から専門的な知識や技能について支援頂くことにより、本宮の産業や文化などに関する学びを深める。 ・地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。		
	地域（公民館）	・地域の持つ教育力およびそれぞれの分野で専門的な知識を持つ方々を学校教育の中に生かすとともに地域ぐるみで子育てをする意識を高め、本宮町の歴史や文化、自然に親しむ子供の育成のための手助けを行う。		
支援者及び支援組織 保護者 地域に住む方 共育コミュニティ音無本部 熊野川漁業協同組合 田辺市食生活改善推進協議会本宮支部				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 少子化が進む中、異年齢集団でのかかわりが減少している。人と関わる機会を増やし、成長に必要な人間力の育成を学校教育を通して実践していくことを大事にしている。 以下は、地域の多様な方々に支援して頂くことで、子供たちの学びを深めるプログラムである。 本年度の新たな取組として、4・5年生の1泊2日の合宿において、地域の家庭でお風呂を頂き、その後会話をし交流する機会を設けた。この活動は、学校が公民館へ協力を依頼し、公民館が学校の趣旨を受けて、実施可能な家庭を探し、依頼するという連携のもと、実施した。				
地域の支援により学びを深める学習活動				
内容		学習パートナー		
3年：音無茶学習（6月） ・地域の名産である音無茶の栽培方法や工夫、苦勞などについて、学習パートナーに話を聞く。		地域のお茶農家 宇恵さん		
4、5年：ふるさとふれあい合宿（7月） ・地域の人とのふれあいを大事にし、ふるさとについて考える。 ・地域の家庭でお風呂に入らせて頂き、交流を深める。 ・鮎のつかみどりを体験する。		請川地区の7家庭 (羽根さん、丹羽さん、小淵さん、浦さん、玉石さん、松畑さん、松葉さん) 熊野川漁業協同組合の方々		
6年：郷土料理を作ろう（10月） ・地域の方々と一緒に、「おまぜ（五目ちらし）・お吸い物」を作る。地域の伝統の味を教える。		田辺市食生活改善推進協議会本宮支部 九鬼かおるさん、西浦安子さん、岸谷和代さん、小原栄子さん		
4年：手話教室（11月） ・学習パートナーさんに手話を教えて頂き、手話で自己紹介や挨拶、日常会話をを行う。		地域の手話サークル代表 小淵静子さん		
2年：本に親しもう（11月） ・学習パートナーに自分のお薦めの本を紹介する。学習パートナーによる本紹介と読み聞かせを聞く。		放課後読み聞かせ活動の支援者 九鬼かおるさん		
全学年：地域の福祉施設訪問（11月・1月） ・歌や合奏を披露し、お年寄りと交流する。				

	成 果	課 題
学校・園	・学習パートナーの支援によって、子供たちの学習意欲を高めるとともに、学習効率も向上した。 ・子供たちが様々な地域の方々と触れ合い、交流することにより、コミュニケーション能力の向上につながった。	・本年度から複式2学級となり、学級数、教職員数が減少した。このような実態に応じて、これまでの取組を継続、充実させていくよう工夫していく。
*子供にとつて	・学習パートナーの専門的な話を聞いたり指導を受けたりすることにより、尊敬の念を持ち、地域のよさを知ることができた。 ・合宿では、環境の違う家庭で過ごすことにより、マナーや礼儀を学ぶことができた。	・本校の目指す児童像である「自分の思いを表現できる子」に迫るためにも、相手の思いを聞き取り、自分の思いを伝える活動を充実させたい。
*子供にとつて	・地域の方々に支えられていることを実感し、感謝の気持ちを持つことができた。 ・地域の方々と話をしたり、実物に触れたりすることにより、本宮に伝わる文化や自然について、学びを深めることができた。	・この学習をきっかけに、地域においても交流を深め、地域をさらに身近に感じられるようにしていく。
地域（公民館）	・本宮に伝わる文化、自然に親しむ子供の育成の一助となった。 ・子供たちと一緒に活動し、交流することにより、元気をもらい、楽しく取り組むことができた。	・「もらい風呂」の取組では、広い校区の中から学校所在の請川地区の家庭に協力していただいたが、その他の地域の皆さんとの交流も考慮したい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ＜評価＞ ・学習パートナーの専門的な知識や技能を学ぶことで、学習の効率化と充実が図られた。 ・子供たちが学習パートナーと関わることによって、本宮の文化や自然などに関する学びを深めると共に、地域の方々への尊敬の念を持ったり、マナーや礼儀を身につけたりすることにつながり、6年間かけての人間形成の基盤となっている。 ・「ふるさとふれあい合宿」の取組では、公民館と連携した学習パートナーを集めるシステムが機能した。学校としては子供の活動に時間を使うことができ、効果的であった。 ・学校、保護者、地域の温かい交流が進み、子供を共に育てる共育への意識が高まってきている。 ＜次年度に向けての取組＞ ・公民館との連携をさらに強化し、本年度の取組を来年度以降も継続できるよう充実・改善していく。 ・6年間かけての人間形成を図るため、学校・地域の交流、特に子供と地域の大人が関わる機会を意図的に仕組んでいく。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ふるさとふれあい合宿</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>手話教室</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>郷土料理づくり</p> </div> </div>		

学社融合活動実施報告

学校・園名		東陽中学校	公民館名	東部・中部・南部・ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子 公民館施設を併設した近畿唯一の中学校として、本年度も公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施することを目指してきた。地域の方々も公民館長、公民館主事の働きかけに協力的で、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができてきている。公民館の掲示版には生徒の行事への取組の様子や教科の作品、道徳で学習した教材の「町内会デビュー」や「夜のくだもの屋」等を掲示し、公民館を訪れる地域の方々に広く紹介している。昨年度から東部・南部公民館を通して学校支援ボランティアを募集し、学校の教育活動に協力をいただいている。また、地域にある田辺第一小、田辺第二小、田辺東部小との連携を深めた学社融合の取組を推進してきた。 本年度は、東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館の4館とも連携を図るために、東陽中学校の学社融合を推進するための会、「東融会」を発足し、定期的に会議をもち、効果的な取組や今後の学社融合のあり方を検討している。				
活動名		公民館・地域・小学校と連携した取組		
学年・教科・領域等		全学年 総合的な学習の時間		
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援ボランティア等を活用した学社融合の取組を推進する。 ・校区の小学校と連携を深め、児童・生徒が交流できる企画を進める。 ・学校と公民館と市立図書館「たなべる」との連携を進める。 		
	地 域 ・ 公 民 館	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く地域の方に学社融合活動に携わっていただく。 ・学社融合活動の企画段階から、地域の方に参画いただき、自主的に取組を進められるよう心がける。 ・地域活動への意識を高めていただく。 		
支援者及び支援組織				
東部公民館 中部公民館 南部公民館 ひがし公民館				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
【学校支援ボランティア】 昨年度からはじめた学校支援ボランティアの取組を充実かつ発展させるために、登録して下さった方々に、目的や意義、気をつけていただきたいことなどを説明する機会をもった。(5月26日(火)) 図書、調理実習などは引き続きお願いした。図書については、夏休みに図書委員に図書の分類についての説明をしていただき、いっしょに図書の整理作業などをしていただいた。調理実習についても、東部・南部両公民館区の婦人会に広くご協力をいただくなど、充実を図ることができた。 また、本年度の新しい試みとして、校舎と公民館に囲まれた、中庭のバラ園の整備作業を、1年生と地域の方々でおこなった。6月12日(金)19日(金)23日(火)の3日間で、のべ30人以上の方々協力して下さり、その後も手入れに来て下さっている。 また、夏休みには地域の方を講師に迎え、平和学習として戦争・平和についてお話いただいた。実際に戦争を体験された方のお話を聞くことは、生徒たちにとってたいへん貴重で有意義な体験となった。また、感想をお渡しすると喜びの返事をいただき、地域の方との交流という面でも大変よい機会となった。				
【東融会】 学校と、東部公民館・中部公民館・南部公民館・ひがし公民館との連携のために「東融会」を発足。各月に会議を行い、情報交換を行っている。スローガンは「地域へハッシン ～発信・発進・発振～」。 ここでの話し合いから、地域の花壇の草ひき・苗植えに、吹奏楽部、女子テニス部が参加し、地域の美化活動に貢献することができた。地域の方々にも喜んでいただいている。				
【講師招聘研修】 本年度から3年間、田辺市の研究指定を受け、学社融合について研究を行うことになった。そこで、兵庫教育大学の米田豊教授を講師に迎え、8月28日(金)に研修会を開いた。教員だけでなく、公民館、地域の方々にも広く参加していただいた。				
【より能動的に】 例年、夏休みに2日間連続で行っていた公民館主催のパソコン教室については、本年度は参加者の要望に応え、8月から12月まで月に1度、全5回シリーズで行った。生徒たちがサポートを務め、例年よりも一歩進んで交流を深めることができた。参加した方からは、「学んだことを忘れずに継続して教えてもらったことが良かった」との評価をいただいた。 また、昨年度の取組になるが、公民館主催のウォークラリーに、文芸部の生徒が、準備・運営に協力した。準備での地域学習や、イベントを成功させた充実感や満足感は生徒たちにとっても意義のあることとなった。今年度も2月27日(土)に、校区内の地域に変えて実施するための準備を行っている。				

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・バラ園の整備を、地域の詳しい方々に教えていただけてきたことで、校内環境の整備が進んだ。 ・戦争・平和講習は、体験された地域の方の生の声を聞くことができ、非常に貴重で有意義であった。 ・東融会の結成は、地域の様子を知ったり、地域に対して働きかける上で大変有益であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館を併設した近畿唯一の中学校であることを生かし、地域の教育力を生かした新たな取組を公民館と連携して進めていかなければならない。また、地域との連携を深めるために更なる学校の開放に取り組んでいくことが大切である。 ・そのために、単発ではなく定期的、継続的な取組を進めていく。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理、写真教室、また本年度からは図書委員が地域の方から教えていただくという機会をもてた。また、パソコン教室で生徒が教えたり、ウォークラリーの準備、運営などに文芸部員が参加したことは、生徒たちにとっても大きな充実感、達成感を感じられる、良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の限られた活動に限定されることなく、日常においても、子供と地域の方が共につれあい学べる環境を構築し、生徒たちが自主的に取り組む意欲を持たせたい。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・バラ園整備作業を通じ、学校に対する誇りや愛着を育む機会となった。 ・また、様々な学社融合活動を通じ、地域の一員であるという実感がもてた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の取組を通じて芽生えた地域とのつながりが、日頃のあいさつや会話など、生活の中でも発揮できるようにしていきたい。
地 域 ・ 公 民 館	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度から着手したバラ園整備作業では、地域の方と生徒が共同で作業を行った。地域の方は作業以降も、定期的に学校に来て下さり、自主的にバラの手入れをして下さるなど、地域からの積極的な取組が進んだ。 ・夏と冬の、草ひき・花の苗植え活動を、中学校の吹奏楽部員と女子テニス部員の協力を得て実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域も学校も、お互いに過度の負担にならないような取組を心がける。 ・地域の方々には、生徒たちと会話を交えながら楽しく作業をされていた。これからも地域の環境づくりをさらに進めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
昨年からはじめた学校支援ボランティアの取組は大きな成果となった。本年度は、その取組を推し進め、夏休みには図書委員が図書ボランティアの方といっしょに作業をしたり、図書の分類について教えていただくなど、あらたな交流も生まれた。また戦争・平和講話も本年度からの取組となる。お話を頂いた方に感想を届けて、その返事をいただくなど、双方にとって有意義な取組となった。また、公民館主催のウォークラリーは、地域、公民館だけでなく、生徒たちにとっても、達成感や充実感を感じられる、よい取組となった。また、パソコン教室のように、定期的、継続的に生徒と地域の方がふれあう機会を増やしていきたい。草ひき・花の苗植えの活動や、バラ園の整備、ウォークラリーなども、地域の方々と共に続けていきたい取組である。 今後もこのような取組を充実、発展させていきたい。特に、学校、生徒が能動的・自主的に活動する形を多く取り入れていきたい。		
		
ウォークラリー	バラ園整備	花の苗植え作業

学社融合活動実施報告

学校名		明洋中学校		公民館名		芳養・西部・中部公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
<p>学社融合においては、明融会(学社融合推進のための3公民館と明洋中学校学社融合担当との会議)を母体に取り組んだ。特に、本年度は、明洋中学校と芳養・西部・中部公民館の合同事業として教育講演会を実施するなど、今まで以上に学社融合の取組が充実したものになった。明融会が発足して数年経つが、今まで一度も中学校と3公民館が合同で取り組んだ事業がなく、今回、共同で講演会を開けたのは、大きな成果であった。本年度の明融会のスローガンは「つながりを大切にしよう」であったが、まさに中学校と公民館がつながった講演会になった。また、この講演会や学社融合の様々な取組を通して、生徒は地域の人々とコミュニケーションをとる力を養うことが出来た。また、地域の人々に中学校(生徒及び生徒の活動)を理解していただく一助となった。地域の人材により、授業の幅が広がったり、ふるさとを考えたりするよい機会ともなった。</p>							
活動名				学年・教科・領域等			
防災訓練・地産地消料理づくり・生け花作品制作				全学年 家庭科・特別活動			
目	学校・園	・地域との交流を図り、ふるさとを愛する気持ちを育てる。 ・地域での体験活動を行うことで、一体感を持たせ、貢献できることを知らせる。 ・様々な人との関わりで、コミュニケーション能力を高める。 ・地域の行事に参加し伝統を受け継いでいく気持ちを養う。					
	地域(公民館)	・学校と地域が交流し、共に学習することで、豊かな心を持った子供たちを育成する。 ・公民館、または学校を起点とし、地域間の交流も促し地域力の向上を目指す。 ・地域に学社融合事業の浸透を図り、地域の方々の子供たちの交流の機会を増やすことで、地域で子供を育てるという意識を持ってもらう。					
支援者及び支援組織							
芳養地域人材バンク登録者 各地区の方々 西部地区自主防災会連絡協議会 西部地域学社融合推進協議会							
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)							
【中学校・芳養・西部・中部公民館合同事業】 11月1日に日曜参観日を実施した。その参観授業の後、教育講演会を行い、保護者や地域の方とともに、障害者理解について学習した。保護者・地域の方々とともに考える大変貴重な時間となった。また、地域の方々に中学生の様子を見てもらう良い機会でもあった。				【明融会】 芳養・西部・中部3公民館主事と学社融合推進教員との連携を図り、二ヶ月に一度の打合わせ会を持つ。本年度スローガンは「つながりを大切にしよう」であった。			
【地域行事への参加】 ・しおさい祭り(4/25)・鯉のぼりの会(5/4) ・保育所・幼稚園演奏会(8月後半)・西部ふれあい祭り(10/18)・天神児童館祭り、ふたばミニ秋祭り(11/7)・芳養児童館作品展(10/30)・天神児童館作品展(11/8)・中部、芳養公民館作品展(11/14)・元町町内会作品展(11/28) 地域の行事へは、各部活動を中心に参加した。また、地域の行事に多くの生徒の作品を出品した。地域の方々に喜んでいただき、地域の行事に貢献することが出来た。				【幼・保・小・中交流】 ・吹奏楽部がうえのやま幼稚園、もとまち保育所、牟婁保育所、芳養保育所、はやざと保育所で夏休みに演奏会を行った。 ・校区校長、教務の会をそれぞれもつことができた。 ・芳養小学校、田辺第三小学校の児童が中学校を訪れ、体験学習を実施し、中学校の授業及び部活動を見学し、中学生生活について学習した。 ・田辺第三小学校のクラブ活動を明洋中の教諭が指導した。			
							
		10月 西部ふれあい祭り				6月 家庭科調理実習	
【授業に地域の人材を招いて】							
・芳養婦人会の皆さんにお手伝いをお願いし、家庭科の時間に、鰻の三枚おろしを学習した。地産地消の考え方に基づき、魚の豊富なこの地方で魚をさばくことができるように、という願いからである。 ・合気道の授業を行うに当たり、合気道顕彰会の太田さんに講話をいただき、合気道の精神である「和合の心」について学習した。単に、体育の授業で武道を学習するだけでなく、このように講話を通してご指導いただくことは、大変有意義なことである。また、合気会(4名)の先生に直接ご指導いただき大変良かった。 ・家庭部の活動では、生け花、浴衣の着付け、紀州手まり制作で、婦人会の方にご指導していただき素晴らしい作品を作成することが出来た。出来た作品は、本校での文化発表会や、地域の作品展に出品し披露させてもらった。							

	成 果	課 題
学校・園	・本年度、はじめて明融会(中学校・芳養公民館・西部公民館・中部公民館)が主催で教育講演会(講師 柳岡 克子氏 題名「生きる喜び」)を実施した。多くの保護者・地域の方々に参加していただき、大変良かった。地域の方々や中学生がともに学習する機会は今までほとんどなかったため、今回は本当に良い機会になった。 ・鰻を調理する学習では、地域の方々各班での作業を受け持ってくれ、効果的に学習が行えた。 ・生き方の学習は、各学年で、地域の人材から話を聞くことができ、ありがたかった。	・中学校と3つの公民館が合同で、教育講演会を実施した。日曜参観だったので、多くの保護者は参観授業に来てくれたが、その後の教育講演会には残ってくれなかった。地域行事でも、保護者世代の参加が少ない。講演会を実施しても、防災訓練を実施しても、小学生・中学生、地域のお年寄りは参加するが、保護者世代の参加が少ないのが課題である。 ・義務教育九年間を通して子供を見守っていく視点を今後も持ち続けていきたい。また、地域で子供たちを見守っていくという視点も公民館とともに考えていきたい。
*子供にとって	・地域の方々や保護者の方々と同じ内容の講演を聴き、考えることは大人にとっても子供たちにとっても良かった。 ・地域について考え、地域の方々とのコミュニケーションをとる場を様々な形でとれることは、すばらしい体験学習である。	・自分たちも地域の一員であり、地域を盛り上げるには学校が、生徒が率先垂範して地域行事に参加することである、というような自覚をどのようにして、生徒たちに促すかが課題である。
*子供にとって	・明融会が主催の教育講演会への参加や鰻の三枚おろしなど、普段の授業では得られない貴重な体験をすることができた。 ・子供たちが学校外で地域の活動に参加し、住民と触れ合う中で、自分が住む地域との関わりについて自然と考えるようになっていった。	・地域と関わるたくさんの取組を、普段の学習や生活に結び付け、子供たちのコミュニケーション能力の向上に繋げたい。
地域(公民館)	・今年度は、学校と地域が共に学習する教育講演会を設けたことで、生徒と住民の距離が縮まった。大人も子供も楽しみながら学習している姿が印象的であった。また、テーマが「生きる喜び」ということで、当初の目標どおり、子供たちの豊かな心を育むことができた。今後も現代的課題や地域課題について、生徒、保護者及び地域が共有し共感できる機会をつくっていきたい。	・地域での少子化が進む中で、事業への参加者の固定化及び高齢化が問題である。 ・地域の方々に、子供たちの成長を見守るという意識を高めてもらうため、学校生徒と地域住民が、共に学習出来る機会を継続的に設けていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
・本年度は、中学校と3公民館合同事業(教育講演会)を実施した。中学校と3公民館で組織している明融会がはじめて合同事業を行ったが、地域の方々・保護者・中学生が同じ内容の講演会を聞き、ともに考える機会をもてたことは大変良かった。また、地域の方々に中学校の様子を紹介する良い機会になった。毎年行うことは出来ないが、数年に一度は開催していきたい。 ・郷土料理授業やミシンの使い方授業、浴衣着付け教室、それに加えて、紀州手まり教室など、地域の婦人会から多くの方々講師として学校に来ていただき、充実した取組ができた。一昨年度から実施している夏休み中の補習授業では、地域の方々のお力添えにより年々充実した取組になっている。		
<次年度の取組の方向> 来年度は、新しい行事や取組を取り入れるのではなく、今まで行っている郷土料理やミシンの使い方授業や、夏休みの補習授業など、今までの取組を更に充実したものになるよう取り組んでいきたい。そのために、定期的に開いている明融会を大切にしていきたい。また、校区の校長・教頭・教務・養護・生徒指導主任の立場で、それぞれの交流を深め、基礎をしっかりとしていきたい。		明洋中・芳養・西部・中部公民館合同事業 

学社融合活動実施報告

学校・園名		高雄中学校	公民館名		秋津・万呂・稻成・東・中部公民館
学社融合における学校・地域の様子 今年度は今まで大事にしてきた防災教育も継続しながら、新たに地域の方からゲストティーチャーを招聘し、授業での学社融合を充実させることに力を入れた。それは、昨年度末の本校の課題でもあり、今年度の柱である「学力向上」に向けての取組も意識したことにより、取り組もうとしたものだ。これを実行するに当たり、ゲストティーチャーの選定については熟考した。今年度は、国語科、家庭科、体育科で実施したい取組があり、事を進めていったが、公民館の協力も今後大きな力になってくると思うので、お互いの連携を密にし、来年度も続けていきたいと思っている。					
活動名			学年・教科・領域等		
授業での学社融合で学力向上につなげる			1～3年 国語・家庭・体育		
目	学校・園	生徒たちが、授業を通じて地域の方々と触れ合うことにより、以前より地域への知識を深めたり、専門性の高い内容に興味・関心を抱くこと			
	地域（公民館）	地域と交流して活動することで、交流を深め、地域の一員としての自覚を高める。今後の活動の基盤になる、つながりや意欲を持ってもらう。			
支援者及び支援組織					
公民館 梅振興課 たなべる 農業士の方々 語り部さん いずみ保育所					
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)					
<p>・よさこい練習・・・日時 8月25日・26日 ねらい・・・よさこいの基本の動きをマスターし、体育大会での発表を成功させる。 活動内容・・・梅干しラグビーフラワーダンサーズの中村さんをお招きし、クラスごとのグループを作り、皆で高め合った。</p> <p>☆校外学習・・・5月11日～熊野古道へ～ ・ねらい・・・1、世界遺産、熊野古道を体験することで郷土の歴史に触れる 2、紀南の自然に関心をもち、環境保全について学ぶ 3、きまりや時間を守り、集団行動を身につける 活動内容・・・学年全体を8グループに分け、2つの行程で実施した。それぞれ語り部さんにつき、聞いた話をメモしながら進んでいく。後にグループごとにまとめ、文化発表会で掲示する。</p> <p>☆津波避難訓練 日時・・・11月5日 ねらい・・・地域の避難場所への経路を確認し、防災実践力を身に付ける。 中学生は守られる立場ではなく、守る立場であることを自覚する。 活動内容・・・いずみ保育所の園児たちの手を引いたり、背負ったりして避難場所まで移動する。</p>					
3年よさこい		1年梅料理		2年創作短歌	
					

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合の授業では、より高い専門性を身に付けた方々から指導して頂くことにより、友達の作品を鑑賞したり、言葉について深く考え、選ぶことができるようになった。 ・梅についての学びは、地域の地場産業への関心を惹くことにつながった。 ・津波避難訓練では、園児たちに気遣う中で自分たちがすべきことを考えるいい機会になった。 	各教科担当が考える、ゲストティーチャーを招いての授業で、その専門性を身に付けた方を探すことは難しい。
*子供にとつて	生徒たちは、専門性の高い内容を教わることができ、言葉を大事に読んだり、適切な言葉を吟味し、選ぶようになった。	授業の内容によってはみんなが経験することができないものがあった。
*子供にとつて	自分たちは、地域でどんなことができるのかを理解できた。活動を通じ、存在を知ってもらうことでつながりができた。	活動に参加するだけでなく、地域が求めている内容に近づけ、より充実した活動を展開すること。
地域（公民館）	若い世代の力が、地域には必要であることを活動を通じて改めて理解して頂けた。	地域とのつながりを深め、地域社会に参加しやすい居場所を作る。子供たちを受け入れる態勢を整えるためにも、学校、地域との連携を深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p><評価> ☆授業を通して地域の方と触れ合えた点では、身近で専門性の高い内容を学べたことが大変よかった。また、地域のことを学ぶことで地元のことを見直すきっかけになった。</p> <p><次年度に向けての取組の方向> ☆ゲストティーチャーを探すにあたっては、公民館の協力は不可欠であると考えている。公民館との連携を密にし、取り組んでいきたい。</p>		

学社融合活動実施報告

学校・園名		新庄中学校	公民館名	新庄公民館																					
学社融合における学校・地域の様子 今年で15年目を迎えた本校の学社融合の取り組みの核となる3年生の「新庄地震学」は、本年度も昨年のものに改訂を加えながら、地域の方々や小学校、中学校、高等学校と連携を深めて取り組んできた。また、昨年度に引き続き、全国の防災に関する交流会に生徒が参加する機会もいただいた。本年度は、「ぼうさい甲子園」で奨励賞を受賞した。 1年生の「地域学習」では、市指定無形文化財「新庄杜氏唄」でも保存会の方々から杜氏唄の歴史や唄を教えていただくことができた。また、昨年度に引き続き、県指定天然記念物「奥山の甌穴」へ現地調査に行き、他にも「鳥の巣泥岩」、「地域の漁業」、「祇園祭り」、「神島の自然」、「新庄地質学」について学習した。漁業では、田辺市まちづくり学び合い講座を受講した。また、本年度、新たに「新庄地質学」が加わり、ゲストティーチャーとして、南紀熊野ジオパークガイドの浜田千佐子先生を招き、新庄地域の断層や岩石、化石など、地質に関することについて教えていただいた。また、教育委員会の許可を得て神島に上陸し、神島の自然や生物等に触れられたことは画期的であった。2年生では、6月に神戸市「人と防災未来センター」を訪れ、阪神淡路大震災のお話を聞いたり、施設の見学を行った。学習したことを生かして防災をテーマにした劇(Message)に取り組み、文化祭で発表した。																									
活動名		地震学・地域学習・各教科の取り組み 学年・教科・領域等 全学年 各教科・道徳・総合的な学習の時間																							
目 標	学校・園	【3年生地震学】9教科10テーマから地震・津波を中心とした防災学習を行い、報道機関と連携し後輩、保護者、地域に向けて発信する。【1年生地域学習】自然・産業・歴史・文化の学習を行い、発表する。【2年生劇の上演】地域の方をゲストティーチャーとして招聘、劇の取り組みを行う。【各教科の取り組み】各教科の授業に合わせて、ゲストティーチャーを招いた授業を実施する。																							
	地域（公民館）	・地域住民の参加を促し、生徒との交流を深め、地域との連携を大切にするとともに、子供たちや地域の方々の防災意識の向上に努める。																							
支援者及び支援組織 保護者 幼稚園 保育所 小学校 高等学校 新庄公民館 新庄町防災対策委員会 地域住民 生涯学習課 新庄漁協 大湊神社 個人事業所 各関係機関																									
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 新庄地震学																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 技術</td> <td>新庄中学校のホームページを作成して、新庄地震学の取り組みを多くの方々知ってもらおうと共に、防災の輪をより大きく広げていく。</td> </tr> <tr> <td>2 美術</td> <td>地震学カレンダーを作成し、本校の地震学や防災学習の取り組みをまとめ、地震や津波に必要な情報を紹介する。</td> </tr> <tr> <td>3 家庭</td> <td>太陽光を利用したソーラークッキングや、かまどベンチを利用した調理実習など、災害時の非常食について学ぶ。</td> </tr> <tr> <td>4 数学</td> <td>昨年に続き、三平方の定理を利用して扇を製作する。今年度は作った扇で、小学生と交流して防災の意識を高める。</td> </tr> <tr> <td>5 社会</td> <td>新庄の過去の津波被害の写真と現在の写真を比べることにより、過去の津波被害を知り、これから必要な防災を考える。昭和南海地震・津波の体験の聞き取りを行う。</td> </tr> <tr> <td>6 保体</td> <td>避難所運営について、教室の配置、かまどベンチを利用した非常食などを考える。また、小中学生のための災害クロスロードゲームを作成して交流する。</td> </tr> <tr> <td>7 英語</td> <td>英語でカルタを制作して、楽しみながら防災に関連した英語を学び、小学校へ出前授業に行く。</td> </tr> <tr> <td>8 理科</td> <td>地震、津波、断層、液状化、火山など、自然災害のメカニズムを実験を通して探求していく。</td> </tr> <tr> <td>9 国語</td> <td>「防災標語」を募集、審査し、優秀作品を表彰する。また、過去の防災標語の看板をつくり、未来に伝えていく。</td> </tr> <tr> <td>10 音楽</td> <td>歌やダンスを通して、多くの人に防災の啓発活動を行う。出前授業で小学生にも覚えてもらうことで、地域の防災意識の向上にもつなげる。</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	内容	1 技術	新庄中学校のホームページを作成して、新庄地震学の取り組みを多くの方々知ってもらおうと共に、防災の輪をより大きく広げていく。	2 美術	地震学カレンダーを作成し、本校の地震学や防災学習の取り組みをまとめ、地震や津波に必要な情報を紹介する。	3 家庭	太陽光を利用したソーラークッキングや、かまどベンチを利用した調理実習など、災害時の非常食について学ぶ。	4 数学	昨年に続き、三平方の定理を利用して扇を製作する。今年度は作った扇で、小学生と交流して防災の意識を高める。	5 社会	新庄の過去の津波被害の写真と現在の写真を比べることにより、過去の津波被害を知り、これから必要な防災を考える。昭和南海地震・津波の体験の聞き取りを行う。	6 保体	避難所運営について、教室の配置、かまどベンチを利用した非常食などを考える。また、小中学生のための災害クロスロードゲームを作成して交流する。	7 英語	英語でカルタを制作して、楽しみながら防災に関連した英語を学び、小学校へ出前授業に行く。	8 理科	地震、津波、断層、液状化、火山など、自然災害のメカニズムを実験を通して探求していく。	9 国語	「防災標語」を募集、審査し、優秀作品を表彰する。また、過去の防災標語の看板をつくり、未来に伝えていく。	10 音楽	歌やダンスを通して、多くの人に防災の啓発活動を行う。出前授業で小学生にも覚えてもらうことで、地域の防災意識の向上にもつなげる。	  
テーマ	内容																								
1 技術	新庄中学校のホームページを作成して、新庄地震学の取り組みを多くの方々知ってもらおうと共に、防災の輪をより大きく広げていく。																								
2 美術	地震学カレンダーを作成し、本校の地震学や防災学習の取り組みをまとめ、地震や津波に必要な情報を紹介する。																								
3 家庭	太陽光を利用したソーラークッキングや、かまどベンチを利用した調理実習など、災害時の非常食について学ぶ。																								
4 数学	昨年に続き、三平方の定理を利用して扇を製作する。今年度は作った扇で、小学生と交流して防災の意識を高める。																								
5 社会	新庄の過去の津波被害の写真と現在の写真を比べることにより、過去の津波被害を知り、これから必要な防災を考える。昭和南海地震・津波の体験の聞き取りを行う。																								
6 保体	避難所運営について、教室の配置、かまどベンチを利用した非常食などを考える。また、小中学生のための災害クロスロードゲームを作成して交流する。																								
7 英語	英語でカルタを制作して、楽しみながら防災に関連した英語を学び、小学校へ出前授業に行く。																								
8 理科	地震、津波、断層、液状化、火山など、自然災害のメカニズムを実験を通して探求していく。																								
9 国語	「防災標語」を募集、審査し、優秀作品を表彰する。また、過去の防災標語の看板をつくり、未来に伝えていく。																								
10 音楽	歌やダンスを通して、多くの人に防災の啓発活動を行う。出前授業で小学生にも覚えてもらうことで、地域の防災意識の向上にもつなげる。																								
【1年生地域学習】7グループ(奥山の甌穴 新庄の漁業 祇園さん 鳥の巣泥岩と平和公園 神島の自然 杜氏唄 新庄地質学)で実施。「新庄の漁業」で、「田辺市まちづくり学び合い講座」を生徒が受講し、市の水産課の方のお話を聞いた。「新庄地質学」ではゲストティーチャーの南紀熊野ジオパークガイドの浜田千佐子先生に、新庄地域の断層や岩石、化石など、地質に関することについて教えていただいた。「祇園祭り」では、大湊神社の森本洋一先生に、祇園祭と大湊神社の歴史等について教えていただいた。 【2年生劇の上演】本年度、2年生は文化祭の劇に向けての事前学習で、6月に神戸市「人と防災未来センター」を訪れ、阪神淡路大震災のお話を聞いたり、施設の見学をし、防災をテーマにした劇(Message)に向けて劇のあらすじを作り、外部の方から、劇の細かいセリフ等についてアドバイスをいただいた。劇の出演者や、舞台制作担当等、学年で生徒の役割を決定し、本番の文化祭で上演、大成功させた。 【新庄地震学】齊藤幸男先生による「災間を生きる君たちへ」という防災講演会を実施した。(新庄公民館共催・新庄町防災対策委員会後援) ・夏休みに有志でシーカヤックを製作し、塗装、防水加工を施し、内之浦湾に漕ぎ出した。 																									

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・例年のように、ゲストティーチャー招聘授業を実施し、学校外の指導者を通して様々な視点から交流を深めることができた。 美術・1年生「写生会」益山洋画研究所 道徳・各学年「健康教室」 家庭・2年生「お魚ママさん」湊浦漁協 ・夏休みの校内整備作業や、体育大会、文化祭など、学校行事には多くの地域住民が参加協力してくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館等と連携しながら、できるだけ多くの教科でゲストティーチャーを招聘し、授業を実施していきたいと考える。1年生の地域学習や2年生の劇、3年生の地震学は今後も継続、内容の精選が、さらなる進展につながっていくものと考え、実践していく。 ・学校行事の中心となる体育大会や文化祭等で、地域の人々が参加しやすいような催しや企画を立案していくことが重要である。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学校外の指導者をゲストティーチャーとして招き、学習したことは、新たな視点から生徒にとって新鮮な学習となった。 ・3年生が地震学に取り組むことで、小学校、高等学校、地域との交流・絆を深めることができ、また、報道機関と連携することで取組を広く紹介することができた。 ・1年生の地域学習や3年生の地震学でパワーポイントを使うことでプレゼンテーション能力を高めることができた。 ・地域学習や劇、地震学を通して、生徒一人一人が新庄中学校の生徒であり、新庄地域に暮らす一員である自覚もできていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間で系統立てた取り組みになるようにしたい。 ・授業時間等にも工夫が必要である。 ・継続的に取り組み、生徒が成長して地域住民となった時に、地域について学習した成果や、地震学で身に着けた知識等が非常時の時に生かされる実践力をつけていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・新庄地震学に取り組むことにより多くの方々とお会いした。 ・防災甲子園での受賞により、子供たちの励みになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員であることに自覚をもち、地域の活性化につなげてもらいたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの学習を通じて、新庄地震学を知らない保護者の方々にも防災意識を高めてもらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、学校、公民館の連携をさらに深め、より一層防災意識の向上に努めたい。

評価及び次年度に向けての取組の方向

<評価>15年目を迎えた「新庄地震学」も、本年度はさらに全国的に注目され、「ぼうさい甲子園」で奨励賞を受賞することができた。また1月には神戸市での「全国防災ジュニアリーダー育成合宿」に生徒6名が参加、本校の取組を発表し、全国の中学生と交流を深めた。

ネパールでの地震を受け、自分たちができることとしてグルメシティーやオーシティー前で募金活動を行った。校内での活動に加え、街頭活動には生徒会役員が市内の中学校に参加を募り、2日間に渡り取り組んだ。生徒会役員の呼びかけに応じて集まった生徒約30人が街頭で活動した。手作りのポスターを手に、買い物客らに協力を呼びかけた。集まった募金は紀伊民報を通して、日本赤十字社に送られ、ネパールに届けられた。大変有意義なボランティア活動となった。

本年度より始まった新庄公民館主催の「第1回新庄夏祭り」に本校の文化部が琴の演奏で参加、「千本桜」「崖の上のポニョ」「涙そうそう」を琴で演奏、日頃の練習の成果を発揮し、夏祭りを盛り上げた。

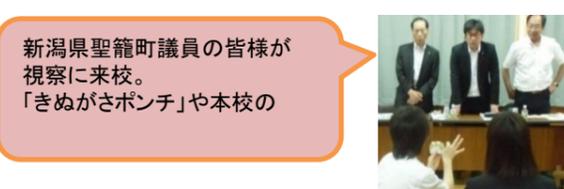
<次年度に向けての取組>

本校の学社融合の核である新庄地震学を継続、さらなる中身の充実を目指し、報道機関を通して広く外部へ紹介していく。学社融合の取組は、公民館や地域の協力があるからこそ実施できるものであるため今までに築き上げてきた絆をさらに深めていくことが大切である。そのために、学校、公民館、地域との連携を今後さらに充実させていきたい。公民館や地域と連携しながら、可能な限り、多くの教科でゲストティーチャーを招聘し、授業を実施していきたいと考える。1年生の地域学習や2年生の劇、3年生の地震学は今後も継続、内容の精選がさらなる進展につながると考え、実践していく。

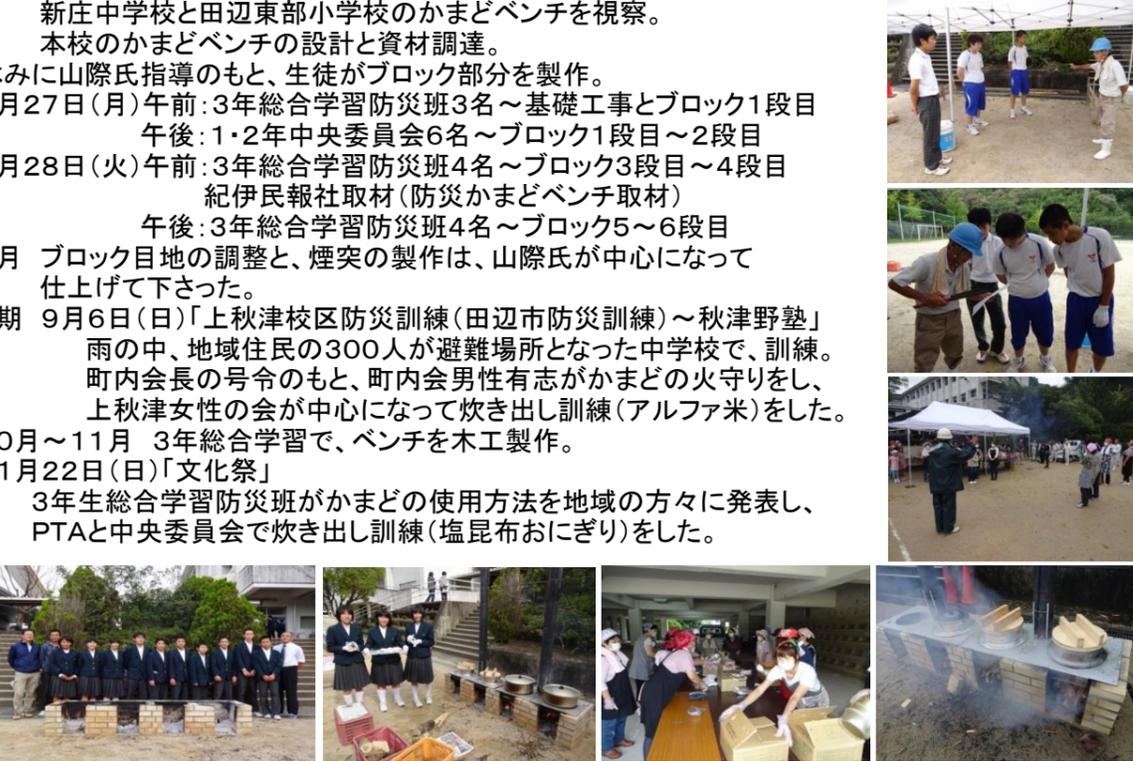


学社融合活動実施報告

学校・園名	衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子 この地域には、学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に投げかけることにより、課題を共有化し、学校と地域が共に子育てに関わっていきこうとする地盤が確立されている。また、「生まれ育った地域について学び、地域への愛着の気持ちや地域に貢献したいという気持ちを育てる」という目標実現に向け、地域・公民館との連携が密であり、協力できる体制も整っている。お互いに、生徒にとって有効な活動に発展する企画・運営を心がけている。さらに生徒と関わってくれる多くの人たちとの交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている。地域の人たちとの体験活動やコラボ実践を通して、生徒は好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる豊かな人間性を身に付け、地域に貢献しようとする意識が芽生えている。			
活動名		学年・教科・領域等	
みんなが輝こう みんなで輝こう		全学年 総合的な学習の時間・英語・美術等	
目 標	学校・園	・自然や地域の人々とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、地域に貢献する態度を育成する。 ・今年度、本校の校区が長野・伏菟野地区まで拡張されたことも踏まえ、地域を知りたくさんの人やものとの出会いから、心を育て、生き方を学ばせる。	
	地域（公民館）	・子供たちが、地域を知り、誇りや愛着を持つとともに、地域の現状や課題も把握していく。また、そこから自分たちなりの取組を考えていく。 ・教育活動、学社融合への関心を高め、地域ぐるみで取り組んでいく体制を作る。 ・子供たちの地域貢献の取組を、地域で生かし、伸ばしていく。	
支援者及び支援組織 三栖幼稚園 三栖・長野小学校 田辺市梅振興室 JA三栖等地域団体企業 保護者・育友会 地域住民 公民館			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">地域とともに輝こう ～郷土に誇りを 衣笠中学校地域盛り上げ隊◎</p> <p style="text-align: center;">郷土の世界遺産を知り味わい、素晴らしさを表現！ 未来につなぐ意識を！</p> <p>★ 熊野古道語り部Jrの取組み 潮見峠越えの古道の世界遺産追加登録を願って ・三栖小・長野小と合同で、三栖地区の熊野古道(近世・中世の道)を伝える。 ・衣笠中は英語で三栖王子と潮見峠越えの絵木にまつわる安珍清姫伝説を紹介。 ・公民館主事、地域の有識者の方の助言を経て、合同リハーサルを実施。</p> <p>★ ご当地スイーツ「熊野古道ロール」「きぬがさポンチ」の取組み 美術科・粘土で制作 《三栖幼稚園、小学校との協働授業 H24年～》 ↓ 幼・小・中・地域住民による人気投票 公民館で ↓ トップ当選の作品決定 地元洋菓子店の協力によりスイーツ製品化 (館報等で協力店を公募) 地元産を使い地域振興 6月から販売</p> <p>★ 『梅ずきんちゃん 熊野古道を往くVer.』NEWキャラ完成、広報活動へ 地域の基幹産業について知り味わう！ 梅・地域の良さを発信！</p> <p>★ 梅農業体験(1年生) 地域産業の学習・発信 ・世界農業遺産登録応援(田辺の梅システム)『みつばちのみっちゃん』キャラ制作(2年) ・梅の良さを広める企画案づくり(1年+市長+地域の方)</p> <p>★ 『南紀応援キャラクター 梅ずきんちゃん』を通じた取組み ・修学旅行(東京)にて広報活動 5月 3年生 ・広報用シール制作 田辺市梅振興室・JA三栖支所の援助 ・地元企業や障がい者就労支援事業所とのコラボ展開 3年生の企画案を基に製品化、9月販売開始「パン」梅ずきん生菓子→ ・生涯学習フェス、JA総合展示会、弁慶祭りでコラボ商品販売</p> </div>			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との関わりを体感する様々な取組を通して、郷土愛が生まれ、自分たちがこの地域で生きているということを実感させることができた。 ・地域の方から、学校内や教師との関わりとは違ったアプローチを受けることで、人の温かさ等を感じるとともに、コミュニケーション力を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わり・交流を通して、生徒の相手を思いやる心、規範意識をさらに高めていきたい。 ・今後とも積極的に地域、講師とのつながりを深め、より一層生徒や学校に関心をもってくれる人を増やしたい。 ・ニーズに応じた教育講演会・共育ミニ集会の実施など、様々なアプローチを試み、地域との関わりを増やしていきたい。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの大人との関わりを持つことにより、多様な価値観を知り、社会性を身につける機会となり、子供たちの成長に大きなプラスとなった。 ・活動を通して多くの方に認めてもらうことで、自己肯定感を持ち、地域に愛着を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から地域に発信したり、働きかけたりするような活動をさらに進展させていく。 ・地域の一員として自覚し、継続して地域に貢献できるようになる。
* 子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・熊野古道や梅農業など、世界へ誇る地域資源があることを知り、地域への誇りや愛着がより高まった。 ・様々な取組を通じ、考える力が身につき、自発的な行動が見られるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習や取組をその場限りのものにせず、なんのためにやった(やっている)のか考える機会を持ち、これからの活動に生かしていく。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・転入者(世帯)の多い地域であるが、地域のことを知ってもらうきっかけとなっている。 ・新たな企業とのコラボなどにより商品化されるアイデア作品が増え、できあがった商品が地域住民が活動に利用するなど、活動の幅、可能性が広がってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で教育活動への関心を高め、中学校の取組を地域へ広げ、地域の発展や課題の解決へとつなげていく。また、将来の展望を見据え、持続可能な取組となるようこれからの方針を考えていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 熊野古道語り部Jrの取組では、近隣の小学校と連携しながら、学習した地元の古道のことを発表して魅力を伝えた。長野地区にある「潮見峠越えの古道」の世界遺産追加登録を共に訴え、願う良い取組となった。三栖幼稚園児との共同制作「きぬがさポンチ」(1年)をさらに深化させた「熊野古道スイーツ」(2年)も誕生した。異校種と協力して創り上げる制作活動は、互いを認め合い自己肯定感を育む取組となっている。平成20年度から梅や地域の良さをイメージしたキャラクターを制作している美術科では、今回熊野古道やミツバチの梅農業システムを意識した新しいキャラクターが登場した。「地域を盛り上げていきたい！」という主旨に賛同した地域の方々により、NEWキャラのTシャツ・シールや各種スイーツの製品化につなげることができた。全23製品を並べ、中学生の店を2日間開催できた生涯学習フェスティバルは郷土のことを思い、地域活性化を考える貴重な機会となった。 また、新たに伏菟野地区が校区になり、平成23年の台風12号の被害を風化させないよう、当時の被害の様子や復興への前向きな努力を教わるなど防災教育にも力を入れた。3年生は防災と福祉についてさらに理解を深め、この2つをコラボさせた劇を発表し、地域の一員としての意識を高めた。 今後も、これらの取組を発展させるために、学社融合活動の必要性を全職員が感じ、地域や公民館と協議・検討しながら、様々な取組をしていきたい。また保護者・地域住民にも積極的に学社融合活動への関わりを強めてもらい、有意義な活動としたい。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>防災と福祉のコラボ劇(3年文化発表会にて)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>新潟県聖籠町議員の皆様が視察に来校。「きぬがさポンチ」や本校の</p>  </div> </div>		

学社融合活動実施報告

学校・園名		上秋津中学校	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 「上秋津の文化財と施設の学習」、「職場体験」、「農事体験学習」、「文化祭への公民館芸術サークルの作品展示」、「郷土料理の調理実習」、「保育実習」、「通学路の草刈り」など、本校教育活動に協力して下さる方々が多い上秋津である。1994年9月に、上秋津のすべての団体が一つになって立ち上げた「秋津野塾」も22年目を迎え、素晴らしい郷土がつけられている。夏の公民館を舞台にした「夏まつり」では、子供たちの歓声と人々の笑顔が輪になり、地域の一体感が感じられる。冬には「高尾山登山」など、地域イベントも多く、住みやすく、子育てして楽しい地域である。今年度は「その時」に備えて中山間地域にある校区の未来のために、「防災かまどベンチづくり(ふだんはベンチとして使用、災害時にかまどとして利用)」と「炊き出し訓練」をしている。				
活動名		防災かまどベンチづくりと炊き出し訓練 学年・教科・領域等 3年 総合的な学習の時間 1～2年 特別活動(中央委員会)		
目	学校・園	①「その時」に生き残り、活動できる生徒の育成をめざす。 ②学校と地域社会が一つになって教育に取り組み、郷土に誇りを持ち、自立した次世代の育成をする。		
	地域(公民館)	防災訓練等の行事を利用して、学校と地域住民が普段から交流する機会をつくり、災害が起こった時に地域全体で協力して防災活動に努められる体制をつくる。		
支援者及び支援組織 上秋津町内会 上秋津愛郷会 上秋津公民館 上秋津女性の会 PTA				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ★1学期 6月 上秋津町内会長、上秋津愛郷会会長、上秋津公民館長、中学校長の連携会議で、「防災かまどベンチ」づくりと活用について提案、その場で協力を快諾。 7月 町内会長から地域で左官業をされている山際勝幸氏を紹介される。新庄中学校と田辺東部小学校のかまどベンチを視察。本校のかまどベンチの設計と資材調達。 ★夏休みに山際氏指導のもと、生徒がブロック部分を製作。 7月27日(月)午前:3年総合学習防災班3名～基礎工事とブロック1段目 午後:1・2年中央委員会6名～ブロック1段目～2段目 7月28日(火)午前:3年総合学習防災班4名～ブロック3段目～4段目 紀伊民報取材(防災かまどベンチ取材) 午後:3年総合学習防災班4名～ブロック5～6段目 8月 ブロック目地の調整と、煙突の製作は、山際氏が中心になって仕上げた。				
★2学期 9月6日(日)「上秋津校区防災訓練(田辺市防災訓練)～秋津野塾」 雨の中、地域住民の300人が避難場所となった中学校で、訓練。町内会長の号令のもと、町内会男性有志がかまどの火守りをし、上秋津女性の会が中心になって炊き出し訓練(アルファ米)をした。 10月～11月 3年総合学習で、ベンチを木工製作。 11月22日(日)「文化祭」 3年生総合学習防災班がかまどの使用方法を地域の方々に発表し、PTAと中央委員会で炊き出し訓練(塩昆布おにぎり)をした。				
				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・かまどベンチ製作を通じて、生徒の防災意識を高めることで地域の未来に貢献できた。 ・愛郷会、町内会、公民館と連携し、地域の大人も参加する「上秋津校区防災訓練」や「文化祭」を通じて、校区の防災意識を高めることができた。また、学校の取組を地域に公開することができた。 ・防災かまどベンチの製作とセッティング方法を教職員に伝達できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災かまどのベンチ部分の防腐剤の寿命は3～5年のため、後の中央委員会にメンテナンスを引き継ぐ必要がある。 ・防災かまどが将来傷んだときに備えて、ブロックをつなぐセメントに砂を少し多めに入れ、ブロックの修繕をしやすくしている。後の防災担当者と学社融合担当に引き継いでいく必要がある。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大人と支えあうことで、上秋津の一員として、自己の有用感と、存在感を認識できた。 ・災害時には、中学生がかまどベンチをセッティングし、大人と一緒に運用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、生徒で防災かまどをセッティングできるのは、中央委員だけなので、全生徒ができるようにしたい。 ・生徒を通じて、地域に「防災かまどベンチ」の活用を訴えたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチの製作を通じて、防災活動に対する意識を向上させることができた。炊き出し訓練を避難訓練でも行い、その後の文化祭でもかまどベンチを使用した催しをして、地域住民に「教える」喜びを感じる事ができる良い機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ多くの生徒が、防災かまどベンチの使用方法を習得できるようにしたい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と中学校の生徒が共同で防災訓練をする事で、お互いに防災意識を高めることができた。 ・かまどベンチ製作により、今まで以上に防災活動に対して、興味を持っていただいた方が増えた。 ・大人だけで地域を支えていくのではなく、子供たちと一緒に支えていく地域社会に貢献できる活動となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災かまどがあっても、使用方法などが分からない方が多いと思うので、使用方法など地域住民に伝えていきたい。 ・予算的に可能であれば、公民館の敷地内にも防災かまどを作成し、地域と連携した防災活動をこれからも行っていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <継続したい取組> ★幼中交流 ①保育実習 ★小中交流 ①授業交流(1学期～小学校の先生方が中学校へ、3学期～中学校が小学校へ) ②特別支援学級の交流 ★公民館、町内会、愛郷会との交流 ①秋津野塾への参加 ②校区協議会への参加 ③上秋津公民館…春祭り、高尾山登山(生徒会は役員として参加)、夏祭りへの参加 ④上秋津校区防災訓練～防災かまどベンチの活用 ⑤職場体験…5月に地域の職場で2年生が体験活動 ⑥農事体験…11月実施(ゲストティーチャー来校・体験授業) ⑦中学校文化祭…地域の文化サークル(写真、絵画、書道)が展示協力 かまどベンチで炊き出しをし、地域の防災意識向上のための啓発活動 ⑧ふれあい音楽祭…11月末:幼、小、中、地域が一体となって音楽祭開催 ⑨老人会との交流…3月:グランドゴルフ ⑩郷土料理の調理実習		
<評価> ★生徒の力を活用、地域の大人の力を結集、災害に強い郷土づくりに貢献できた。 ★本年度の本校取組により、田辺市の紀伊水道側に「防災かまどライン(新庄に2箇所、田辺東部小学校、上秋津中学校、秋津川炭琴公園)」が完成した。「その時」の「その瞬間」を、みんなで生き残り、「防災かまどライン」を、災害時の復興の足がかりの一つとしていきたい。そのために尽力いただいた地域の方々の願いを受け止めて、学校として地域に貢献していきたい。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子 秋津川中学校は、秋津川小学校と同じ敷地内に隣接して廊下でつながり、運動場や体育館、プール等を共用しながら学校生活を送っている。児童・生徒間でも教職員間でも交流が行われ、小中連携が進んでいる。ほとんどの生徒は、保育所から小、中学校と一緒に生活しているため、生徒同士の人間関係もよい。また、保護者も長い年月と一緒に活動しているため連帯意識が強く、地域では「秋津川の子供は秋津川の大人が守る」の合い言葉にあるよう、人々も子供たちを見守り育てていこうとする意識が強い。学社融合の取組から、子供たちが地域の方々と触れ合うことで、視野を自分のみから地域へと広げて考えられるようになるとともに、備長炭等の優れた地域の文化を学び、炭琴の演奏を披露することで、地域に誇りをもち、地域の方々も学校行事や子供たちとの活動を仲介として、地域内の交流が活発に行われている。また、コミュニティーとしてのまとまりが保持され、各種お祭り行事等、秋津川地域としての文化の形成・継承が行われている。				
活動名			学年・教科・領域等	
秋津川ふるさとまつり			全学年 全教科 総合的な学習の時間	
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちとのふれあいを深め、地域を知るとともに地域の良さを発見し、地域を愛し、地域を誇りに思い、大切にすることを育てる。 ・炭琴演奏を全員で行うことで、生徒各々が責任を自覚し、発表力を高める。 ・授業を公開することで、秋津川中学校を地域の方々にとってもらい、開かれた学校づくりを進める。 		
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民と子供たちが交流を深めることで、郷土愛を育み、地域としての連帯感を高める。 ・地域住民、各種団体、学校が協力して一つの行事に取り組み、来場の方々に秋津川の産業や伝統文化、教育活動の一端を知っていただくことで地域の活性化を図る。 ・地域住民に学校の取り組みに目を向けてもらい、子供たちの健全育成に関心を持っていただく。 		
支援者及び支援組織				
秋津川小中学校育友会 秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 JA紀南上秋津支所秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
○ 5月26日(火) 平成27年度第1回 公民館協力委員会 平成27年度秋津川公民館事業計画の提案・承認、役員を選出 第31回ふるさとまつり 11月15日(日)開催 決定				
○ 7月28日(火) 平成27年度第2回 公民館協力委員会 盆行事について				
○ 8月25日(火) 平成27年度第3回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 開催日時の確認(11月15日(日)) 農林産物品評会へ出展の呼びかけ・お願い				
○10月27日(火) 平成27年度第4回 公民館協力委員会 ふるさとまつり 運営について協議 準備・片付けの分担や、当日の役割、当日のイベント日程等を決定				
○11月13日(金) 生徒の作品等の飾りつけ、炭琴演奏等の準備				
○11月14日(土) 地域の方々による会場設営並びに農林産物品評会等				
○11月15日(日) ふるさとまつり当日 1、2限は公開授業(地域の方々自由に授業を参観してもらう) 3、4限はふるさとまつりに参加。炭琴演奏・南中ソーランを披露 演奏曲目「ふるさと」「アメイジンググレース」「栄光の架け橋」 5限も公開授業				
※昼食は、婦人会の方々を作ってくれた「炊き込みご飯」をいただきました。				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの方々「ふるさとまつり」に来校し、秋津川小・中学校を身近に感じ、児童生徒の様子を知ってもらうよい機会となった。さらに、炭琴演奏や南中ソーランを披露することで、秋津川中学校の地域に根ざした教育活動の一端を知ってもらうよい機会となった。 ・授業参観をしてくださった方は少なかったが、本校が実施している少人数を生かした丁寧な授業の良さを認識していただけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく多くの来校者がいたにもかかわらず、そのほとんどは催し物会場の運動場や体育館へ行ってしまう、授業を参観して下さる方が少なかった。もう少し、当日の広報に力を入れる必要がある。 ・11月には本校の文化祭も日曜日に開催された。少人数ながら素晴らしい発表内容であるが、来場者が少ない。ふるさとまつりとの兼ね合いも今後検討していきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学校生活は少人数で過ごしているため、大勢の人を前に発表するという貴重な体験を積む機会であった。 ・地域の催しへ参加することで、地域の一員としての連帯感や自覚を促すきっかけとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が少ないということもあって、地域からは大切にされ過ぎるところがあり、自立心の芽生えが遅れがちになりやすい。それぞれに役割分担をし、責任感を高めるようにしたい。 ・地域に対して、自分たちは何ができ、何をすべきかを考える主体的な態度を育てたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・炭琴の演奏など、秋津川にしかないものをアピールすることにより、秋津川の良さをアピールする良い活動となった。 ・地域住民が取り組んでいる行事を通して、ふるさと秋津川の良さを再確認することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の人数が年々減少しているが、これからも地域の行事や活動に積極的に関わって、多くの方々と交流し、人間性や社会性を高めていただきたい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が少ない秋津川であるが、少ないからこそ市街地ではできない地域と学校が密接に協力して行える行事をこれからも続けていきたい。 ・多くの来場者に秋津川の産業や文化、そして、学校や子供たちの取り組みを知っていただく良い機会となった。 ・少人数ながらも、子供たちがひたむきに行事に参加・協力してくれていることで、地域住民も元氣と活力をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋津川地区は、少子高齢、過疎の進む地域であるが、だからこそこういった交流行事が益々重要になってくると思われる。今後も継続して開催していけるよう、学校ほか各種団体とも連携しながら取り組んでいきたい。 ・人口減の影響を受けて、毎年使用できる予算も年々減少してきているが、継続して行事ができるようこれからも努めていく
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとまつりへは多くの来訪者があつたにもかかわらず、授業参観をして下さる方が少なかったのは残念だった。授業参観をしてくださった方からは「少人数の授業がとても良かったです。」「先生が丁寧に指導している。」等、少人数故、一人一人に目の行き届いた授業の良さを褒めていただいた。 ・7月から練習をつんできた炭琴の演奏は、「ふるさと」「アメイジンググレース」「栄光の架け橋」3曲共大変良いできばえで炭琴サークルの方々から褒めていただいた。また、元氣のある「南中ソーラン」は地域の方々からもお褒めの言葉をいただいた。そのことは、生徒たちにとって自分を肯定的に見る材料となり、自信につながったものと思われる。また炭琴演奏は一人一人が責任をもってよい演奏をしなければ全体としてまとまらないものであるため、各自の責任感を高める役割も果たしていると思われる。 ・大勢の人前で発表できる数少ない機会であり、普段、少人数の仲間内だけでしか生活していない生徒たちにとっては、たいへん貴重な体験の場となった。今後も小規模校の本校においては、大勢の場で発表する機会は大切にする必要がある。 ・生徒たちは、今は、地域の方々から与えられた受身の参加意識しか持っていないように思われる。今後は、企画のマンネリ化を避ける意味からも、生徒たちから主体的にこのまつりを盛り上げようとする機会が設けられないものかと思う。それを考えさせることは、生徒たちに秋津川地域の将来を考えさせることにつながり、郷土を思う気持ちをより一層強くすることにつながると思う。 		

学社融合活動実施報告

学校・園名		上芳養中学校	公民館名	上芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校は田辺市の中心地より約10km離れたところに位置し、芳養川の上流を校区とする山間地の学校である。周囲は緑に包まれ、梅・みかん等の果樹栽培を主とした農村地帯である。上芳養地域は、小学校1校と中学校1校であり、また、地域の多くの方が本校の卒業生である状況などから、地域の学校教育に対する関心が高く、協力的で育友会活動や公民館活動への参加は大変積極的である。校内の行事だけでなく、マラソン大会や農事体験など地域で行われる行事にも、保護者に限らず地域の方や敬老会の方、卒業生が多数集い、応援をいただき、盛り上がりを見せている。 地域の中に、学校を地域で支える、子供を地域で育てるという意識が根付いている。				
活動名		農事体験		
		学年・教科・領域等 1年 総合的な学習の時間		
目	学校・園	・上芳養地域の主産業である梅について学習し、農家で体験することを通して、先人たちが培ってきた産業や地域への思いを知り、郷土愛を育む。		
	地域（公民館）	・地域の子供たちに、上芳養の基幹産業である梅産業についての理解を深め、郷土を愛する心を育み、将来地域の産業の担い手となる若者の育成を図る。 ・中学生に対する理解を深め、子供たちを地域で鍛えるという機運を高める。		
支援者及び支援組織 上芳養中学校 JA紀南上芳養支所・女性部 梅生産者 上芳養公民館				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 職場での体験活動は、1・2年生で行っている。1年生では、上芳養地域内の梅農家で2日間の農事体験学習を行っている。2年生では、上芳養地域と田辺市内にある様々な職場で3日間の職場体験を行っている。 1年生の農事体験では、毎年受け入れ先の梅農家の斡旋や事前学習をJA上芳養支所にご協力を頂いた。今年度も保護者と地域の3軒の農家に協力を頂き、14名の生徒が分かれて体験させて頂いた。学んだことは文化発表会で保護者、地域の方の前で発表した。その後、地域の女性部の方にご指導を頂き、梅を使った調理実習を行った。				
1学期 5月 事前学習(総合的な学習の時間、道徳) 働くことの意義、農事体験での心構え等 6月 梅講座・・・JAの方の出前授業 上芳養の梅の生産量、梅の品種、梅被害、広報活動など 6月 農事体験 2日間 農家で梅採りや選果の体験を行う				
2学期 11月 文化発表会で学習発表				
3学期 2月 梅を使った料理づくり 「梅だれ大学芋」調理				
農事体験(梅採り)		農事体験(梅の選果)		文化発表会

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・梅講座授業により、学校だけでは教えることのできない内容について深く学ぶことができた。 ・梅産業を守り育ててきた地域の思いを知らせ、上芳養地域への思いを深めさせることができた。 ・梅の木が1年全生徒の家に入り、改めて自分の家の仕事や両親への感謝、地域の一員としての自覚を育むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校でも梅についての学習に取り組んでおり、小学校の学習内容を踏まえた上での指導が必要である。 ・取り組みの期間が今年は長期であったため、生徒の気持ちが間延びしてしまった。 ・生徒がより課題意識をもち、主体的に取り組めるよう事前事後学習の充実を図る。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・農事体験を通して、農家の梅に対する思いや働くことの大変さを感じることができた。 ・地域の将来や自分の進路について考える機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受動的な活動にならないよう、生徒が、目的意識を明確にもち主体的な体験活動を行う。 ・自分と地域との関わりについてより具体的に考えられるようにする。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを通して、梅産業の奥深さや魅力について学ぶことができた。また、その過程で様々な人達と交流を深めることができた。 ・農事体験によって、郷土への愛着を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とも積極的に交流し、地域とのつながりを深めていく。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・事前事後学習や体験を通して、梅産業や地域についての理解を深めさせることができた。 ・地域の方々は中学生と交流する機会となり、楽しく作業することができ、その後も挨拶しあう等つながりができた。 ・後継者の育成につながる取組の一つとして期待したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事を通して、学校と地域が連携を深め、一体となって子供を育てる雰囲気を継続発展させていきたい。 ・学校や関係機関、地域との連携を密にして支援の方法や広報活動を充実させる。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> ・生徒の多くが梅に関わりをもったことがある。そのため梅採りなどの経験がある生徒も多い。それら生徒たちにとっても、梅について知らないことが多く、質問も多く出されており、農事体験の事前学習、特に梅講座は有意義であった。 体験の中から、生徒たちの主体的な考え(課題意識)を引き出し、生かせるようじっくり取り組んでいく必要がある。 ・農事体験にかかわらず、学社融合の様々な取組を例年通り行うことができた。学校に対する地域の方々の関心は高く、様々な形で多くの方に応援を頂くことができた。その声援のおかげで、少人数の生徒たちも頑張ることができている。		
<次年度に向けて> ・例年通り、公民館、小学校、保育所、第2のぞみ園、ころころ山さん、地域の団体と連携した取り組みを行っていく。 ・農事体験では小学校の梅学習との系統性を図り、更に深まりのある活動にしていきたい。 ・公民館と今後も連携し、地域の方々をゲストティーチャーとして招き、子供たちの学びを更に深めさせたい。また、生徒たちにとって、地域にとって有意義な活動を模索していきたい。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		中芳養中学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 本校では、「梅勤労体験」「中芳養夏祭り」「芳養の里交流」など、地域との交流を通して、「豊かな心」「生きる力」の育成を目指している。保護者や地域、関係団体の方々はこうした学校の取組に対して協力的で、異世代との交流や地域の自然や産業、文化・芸術との触れ合いの機会をより多く設けることができています。今年度は共育コミュニティ事業の一つとして開催している「中芳養合同作品展」に中学生や老人会(芳寿会)、保護者の方の作品を昨年度に引き続き出品するとともに、新たに地域の文化をテーマとしたモザイクアート作品に取組、会場に展示することができた。				
活動名		文化や芸術を通して地域とつながる		
		学年・教科・領域等 全学年 総合的な学習の時間		
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々やさまざまな世代の方との交流によって、心を育て、コミュニケーション能力を高める。 ・地域をテーマにした作品に取り組むことで、「ふるさと」の良さを実感させる。 		
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生に対する理解を深め、子供たちを地域で育てるという意識を高める。 ・様々な事業を通じて交流を深め、お互いが顔見知りであるという関係を作る。 ・地域の伝統や文化を子供たちに伝えるだけでなく、地域住民自身も地域に対する愛着をもち、理解を深めていく。 		
支援者及び支援組織 中芳養公民館、中芳養地区老人会「芳寿会」				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【中芳養合同作品展に向けての取組】				
陶芸教室 10月2日(金)		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の文化祭「中芳養祭」に向けて、芳寿会の方に参加していただいて陶芸教室を実施した。陶芸教室は陶芸家の亀田先生の指導のもと、芳寿会の方に各学年の班へ1人ずつ入っていただいて、生徒と話をしながら和気藹々と作品づくりを行うことができた。 		
PTA陶芸教室 10月4日(日)		<ul style="list-style-type: none"> ・PTA教養部の呼びかけにより陶芸教室を実施。今年は例年以上に参加者が多く、18名が参加して、亀田先生の指導のもと作品づくりを行った。 		
共育コミュニティ事務局会 10月15日(木)		<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中の学社融合担当と公民館主事による事務局会で、本年度の合同作品展の作品の公募や会場設営等について話し合った。 		
芳養八幡神社祭 11月3日(火)		<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合担当者が本年度のモザイクアートのテーマとなる芳養八幡神社祭の写真撮影を行った。 		
モザイクアート作品づくり 11月12日 ～21日		<ul style="list-style-type: none"> ・11月12日の総合学習の時間にモザイクアートの作業内容・日程についての説明を行い、必要な色紙を持ち分けた。各個人が家庭でA4の台紙への貼り付けを行い、19日から生徒会本部役員と文化委員が貼り合わせ作業を行った。 		
中芳養祭 11月22日(日)		<ul style="list-style-type: none"> ・中芳養祭で、他の絵画や家庭科の作品などともに、陶芸やモザイクアートの作品を展示。 		
中芳養合同作品展 12月12日(土) 12月13日(日)		<ul style="list-style-type: none"> ・中芳養合同作品展で陶芸や地域の祭りをテーマとしたモザイクアートの作品を展示。 		



	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域をテーマとした作品を出品することで、学校の取組をより身近に感じていただくことができた。 ・郷土の伝統・文化への理解を深め、中学生の郷土への愛着を育むことができた。 ・作品展の準備・運営・片付けなどを通して、地域の方々との交流することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組を充実させていくために、教職員の地域の伝統や文化に対する知識を深めていきたい。 ・体験学習も含め、郷土学習が幼・小・中の一貫したものになるよう、取組の系統性を図っていききたい。 ・交流を通して本校教育への理解を深め、地域の教育力を生かした取組となるようにしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・芳寿会の方と共同で作品づくりを行うことで、コミュニケーション能力を高めることができた。 ・地域の伝統や文化についての興味・関心を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が行う地域との交流行事を通して、日々の生活の中で挨拶や地域行事への参加ができるようにしていきたい。 ・地域の良さを知ることで愛着を育み、地域の将来について考えられるようにしていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の伝統や文化について考えることで、地域に対する愛着をもつことができた。 ・郷土のことを学びながら、生まれ育った地域に関わる作品づくりに取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事に参加することで、生まれ育った地域に対する愛着がさらに強まってほしい。 ・地域について学んだことを周りの人々にも共有しながら、地域に対する理解をより深めてほしい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生との関わりがなかった人も、作品展を通じて中学生の取組を知ることができた。 ・地域の魅力を伝えるために、地域について考え、意識することによって、地域に対する考えや想いを再認識することができた。 ・地域の人々が学校の様子を知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している行事が今後も継続して行うことができるように、各種団体が協力しながら、取り組んでいきたい。 ・地域行事や学校行事に対しての協力者を発掘していきたい。 ・公民館報を通じて、幅広い年代の方が地域・学校行事に関心をもってもらえるよう広報活動を行っていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ・本校では体験学習等で学んだことを文化祭の中で発表してきたが、昨年度から始まった「中芳養合同作品展」は保護者や芳寿会の方だけでなく、地域の方々に広く学校の取組を発信する大変いい機会となっている。 ・芳寿会の方との陶芸づくりは今年で2年目となるが、作品の構想を持って参加してくれる方もいて、陶芸づくりが中学生にとっての地域との交流というだけでなく、芳寿会の方にとっても楽しみな行事の一つとなってきているように感じた。 ・陶芸教室、梅勤労体験学習などの体験学習や作品展を通して、地域に根ざした学校となるよう取組を進めていくことで、「学校・保護者・地域が一体となって子供を育てる」という意識を更に高めていきたい。 ・作品展に出品された地域の方々との交流を持つことで、学校教育に協力していただける地域の人材を発掘し、取組を充実させていきたい。 		



学社融合活動実施報告

学校・園名		龍神中学校	公民館名	龍神公民館
学社融合における学校・地域の様子 地域の人と接することで、地域を知り、地域に学ぶという「ふるさと学習」を基本として、「自然・環境」「歴史・文化」「産業」「福祉」の4つの分野において、それぞれの発達段階に応じて特色ある実践活動を展開している。具体的な取組は ①「学校だより(夢抱き)」の校区全戸(約1700戸)への配布 ②体育大会、文化祭等の学校行事への参加の推進 ③ボランティア活動の推進 ④地域行事への中学生の積極的な参加 ⑤職業体験活動の実施 ⑥外部講師(ゲストティーチャー)の活用等を行っている。				
活動名			学年・教科・領域等	
地域ふれあい活動			全学年、各学年 総合的な学習の時間、特別活動、学校行事	
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会の中で、子どもたちの豊かな人間性、社会性を養う。 ・活動を通して地域の方々との交流を図り、地域の文化や、地域を愛する心情を養う。さらに、地域の教育力を生かした様々な活動に発展させていく。 ・ボランティア活動やリサイクル活動を通して、地域の環境美化・保全の意識を高める。 		
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を担う人材を育成する。 ・地域の人材からふるさとを学ぶ機会を提供する。 ・生徒との交流を通して、地域団体の活性化を図り、生きがいを見出す。 		
支援者及び支援組織				
龍神地域各地区 龍神公民館 龍神中学校PTA 学校評議員 社会福祉協議会 西牟婁振興局 市・環境課 龍神行政局 等				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
5/18	1年 交通安全教室(講師:田辺警察署職員)			
5/29	田植え体験事業(西牟婁振興局)			
6/1	第1回古紙古着回収活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施)			
6/23	1年「食」に関する指導(本校栄養士)			
6/26	減災教育(和歌山県危機管理局 消防課)			
7/4	保護司啓発活動			
7/4	草引き体験事業			
8/18	地域清掃ボランティア活動			
9/20	小学校運動会への参加(全校 出身小学校へ)			
10/6	稲刈り体験事業(西牟婁振興局)			
10/25	第2回古紙古着回収活動(旧龍神村3中学校を拠点に実施)			
10/29	全校 薬物乱用予防学習(青少年センター・保健所)			
11/1	丹生神社祭礼			
11/3	荒島神社、皆瀬神社、祭礼			
11/5	全校 福祉学習(講師:田辺市社会福祉協議会職員他)			
11/21~24	村民文化祭 美術作品展示(全校)			
11/23	村民文化祭 舞台発表 全校生徒で参加			
11/26	2年「食」に関する指導(本校栄養士)			
12/3	校区内の高齢者(65歳以上一人暮らし)の方にお手紙を書く。 (田辺市社会福祉協議会、龍神行政局)			
12/21	3年 保育実習(柳瀬保育園)			
12/24	全校 虎ヶ峰清掃作業(田辺警察署)			
1/14	1年 餅つき大会			
1/27	1年 郷土料理体験(講師:坂井 順)			
1/21	3年「食」に関する指導、調理実習(本校栄養士)			
2/21	第3回古紙古着回収(旧龍神村3中学校を拠点に実施)			
4月~3月	学校だよりの配布活動			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に学校の様子や活動をより多く知ってもらうことができ、地域の学校としての意識をより高めることができた。 ・活動に対して大勢の方に協力していただくことができ、学校と地域の関係を密にすることができた。 ・講師(ゲストティーチャー)招聘により幅広い分野の学習をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取組) ・地域の方々の協力により、自分たちの教育活動が成り立っていることを生徒に自覚させるとともに、地域の方々への感謝の気持ちを育成する。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の大勢の方々の協力により、さまざまな活動ができ、より大きな達成感を味わうことができた。 ・環境美化・保全への意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に感謝する心や、これらの取組が貴重な体験であるということを感じてもらいたい。 ・地域の行事や活動に積極的に関わって、より多くの方と交流し社会性を高める。 ・地域の方への挨拶や交通ルールやマナーを守る態度を向上させる。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある組織や団体がゲストティーチャーとして学校に入ることにより、地域で活躍している方から直接話を聞くことにより子供達にとっても意義深い学習になっている。 ・地域の方と活動を通して交流を深められた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が学社融合活動で学んだことや経験を地域や今後の人生の中で生かしていけるよう大切にしてほしい。 ・地域で活躍できる生徒の育成。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が学校に出向くことにより、学校活動に対する関心が高まり、保護者以外の地域の皆さんにも「地域の学校」として、学校活動に協力いただいている。「学校だより」を手渡しで配布することにより、校区の住民がより中学校の取組に関心を持つようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学社融合活動をスムーズに行うために、地域と学校をつなぐ人材の育成。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p><評価></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりの校区(約1700戸)への配布を、年間を通じて行うことができ、学校での活動を地域に発信することができた。 ・体育祭や文化祭に、保護者だけではなく大勢の地域の方々に参加していただくことができた。 ・今年から村民文化祭の午前中に本校の文化発表会を開催し、多くの方々に鑑賞していただくことが出来た。 ・村民文化祭の舞台発表や美術作品の出品において、大勢の地域の方に鑑賞していただくことができた。 ・祭礼の和太鼓や笛の演奏などに、積極的に参加することができた。 ・リサイクル活動には、保護者や地域の方共到大変協力的で、たくさんの古紙、古着などの回収をしていただくことができた。 ・清掃活動では、地域の方々にいろいろ教えていただきながら作業をするなど、異世代の方との交流を深めることができた。 ・虎ヶ峰清掃作業の活動を通して、環境を守ることの大切さを体験を通して学ぶことができた。 ・外部講師(ゲストティーチャー)の招聘により、幅広い分野の体験や学習をすることができた。 ・米作り体験事業では、田んぼアート作業にも関わるとともに、農作業の体験を通して、働くことの意義を理解することができた。 <p><取組の方向></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、公民館、各関係団体による組織作りを行う。 ・学校と地域の関係をより密にし、地域の教育力をより生かした活動計画を立てていく。(幅広い分野にわたった取組。) ・環境美化・保全活動に対する住民意識を高めていくために、広報活動の工夫をする。 ・年3回のリサイクル活動の継続(普段から古紙、古着をためておいてもらえるような活動としていく。) 		

学社融合活動実施報告

学校・園名		中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館
学社融合における学校・地域の様子 自然豊かな熊野古道が校区内にある本校は、生徒数48名という少人数ながら、保護者や地域の方々に大切に温かく見守られながら学校生活を送っている。本校では、毎年数多くの取組を行っており、それらを継続的に行うことで、年々活動に協力して下さる方が増えてきている。また、生徒たちも年を追うごとに取組に対する理解を深めてきており、主体的に活動できる取組も増えてきた。女性会や老人会といった地域の中にある組織の方々との交流も積極的に行っている。比較的地域全体に、学校に対して関心を持って協力して下さる雰囲気があり、地域の方が取組を提案して下さることもある。				
活動名 地域から受け継ぐ、地域に学ぶ、地域にかえす 地域との交流、地域のためにできること			学年・教科・領域等 全学年 総合的な学習の時間・特別活動・学校行事	
目 標	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていこうとする生徒を育成する。 		
	地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域への理解を深める。 ・学校と地域の連携を密にして子供たちの健全育成を図る。 		
支援者及び支援組織 田辺市女性会連絡協議会中辺路支部 清姫音頭保存会 花ボランティア(9名) 熊野の森ネットワークいちいがしの会 等				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ●地域から受け継ぐ 「清姫音頭を教わる」 全校… 9/8 「清姫音頭保存会」の方々に来ていただき、全校生徒に踊りを教えていただいた。それを校内の体育祭で、保護者や地域の方々にも参加していただき、披露した。 「女性会との交流で調理実習」 3年…10/9 地域の食材を使って、調理法などを田辺市女性会連絡協議会中辺路支部の方々から教えていただいた。 ●地域に学ぶ 「森林ボランティア①」 全校… 10/28 遠足で熊野古道を歩いた。地域の「いちいがしの会」の方にご参加いただき、歩きながら山の木々についての説明などを受け、自然環境保護について学んだ。また、植樹用のドングリも拾った。 ●地域にかえす 「校内で育てた花の苗を配布」 生徒会活動の一つとして、町内の事業所や地域の方々に苗を植えたポットを配り、育ててもらっている。 「森林ボランティア②」 全校… 1/23 ・JA紀南の「照葉樹の森づくり運動」に参加し、遠足で拾ったドングリの苗を地域の山に植樹した。 ●地域との交流 「子育てサークルとふれあい体験」 1年…6/11、3年…6/25 中辺路保健センターにて、地域の子育てサークルに協力していただき、乳幼児とのふれあい体験を行った。 「グランドゴルフ」 1年で実施予定 地域の老人会の方々や本校グランドにて、グランドゴルフを行う。 ●地域のために出来ること 「サマーボランティア」 夏休みに地域の施設にご協力いただき、全校生徒が自主的に参加した。				

	成 果	課 題
学校・園	様々な取組を通して、学校と地域とのつながりを構築していくことにより、地域の方々の学校の取組や生徒に対する関心が高まり、理解を深めていただくことができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組をする中で、時間の確保が大変になる。しっかりと計画的に時間を確保していく必要がある。 ・今後も継続させることによって、地域の方々や学校との協力関係をより深めていきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々との関わりによって、社会性やコミュニケーション能力の向上につながっている。 ・地域の伝統をはじめ、様々なことを学ぶことができ、生徒が地域に向けてより一層の関心を持つことができた。 	どの活動も、生徒が主体的に取組、地域に対してより愛着を持てるように指導していきたい。
*子供にとって	中学生が行っている花作り・花配布の地道な活動が子供たちの自信になり、中辺路地域の住民の誇りや自慢につながっていることもある。	花ボランティア活動以外にも女性会や老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。
地域（公民館）	・中学校の生徒が花ボランティア活動で育てた花の苗配りは、地域の住民に好評であり、こうした地域と中学生の交流が地域の環境美化意識を高めることにもつながっている。	・学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持っていただくとともに積極的に参加してもらえるよう公民館としても応援していくこととしたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化を知ることや地域の方々から認められ、生徒たちの自尊感情を育むことにつながられた。 ・「花ボランティア」は毎年募集し、継続的に行うことができている。生徒と同じ作業を行っていただき、生徒と地域の方々の交流を深めることが出来た。 ・花の苗を全校生徒で育て配ることで、直接地域の方々から声を聞くことが出来、達成感や地域に貢献している意識を感じられている。 ・子育てサークルやグランドゴルフは、生徒とは他世代の方々との交流する良い機会となり、社会を知る上で大きな役割を果たしている。 ・今年度も全校生徒がサマーボランティアに参加した。地域のために役立とうと、主体的に活動する感情を育むのに効果があった。 		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		近野中学校	公民館名	中辺路公民館近野分館
学社融合における学校・地域の様子 伝統的に学校と地域の連携が密であり、協力的である。 地域が一体となって取り組む行事として、近野区民体育祭(9月)近露まるかじり体験(11月)近野フェスティバル・文化祭(11月)近野山間マラソン(3月)などがある。中学校も、地域の一翼を担って、生徒・職員ともに主体的に参加している。 総合的な学習の時間に年間を通して行っている米作りは、多くの地域の方々の協力のもと行っている。また、収穫したお米は、地域の方々にも活用してもらっている。				
活動名		米作り 近露まるかじり体験イベント参加		学年・教科・領域等 全学年 総合的な学習の時間
目 標	学校・園	・地域での活動を通して地域を知る。 ・共同作業をすることにより、助け合いや協調性を養うとともに、地域との作業を通して地域の方々に対する尊敬の気持ちを育てる。 ・地域の方々への感謝のしるしとして地域のイベントに参加し、達成感を味わうとともに郷土愛を培う。		
	地域(公民館)	・生徒と地域住民との交流を深めることにより、生徒が地域への理解を深める。 ・学校と地域の連携を密にして生徒の健全育成を図る。		
支援者及び支援組織 九乗氏 前氏 久保氏 岡上氏 前田氏 尾中氏 三栖氏 山本氏 森田氏 多禰氏 まるかじり体験実行委員会 NPO古道の里に花と愛 JA女性会 近野振興会 公民館近野分館 山形屋 等				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 4月30日(木) 九乗さんの自宅で地域の方の指導のもと、2年生が箱苗作り・糶まきを体験した。 5月26日(火) 地域の方の指導のもと、全校でもち米とうるち米の田植えを体験した。 8月16日(木) 全校で、田の雑草とりをした。 9月29日(火) 地域の方の指導のもと、全校で稲刈り体験を行った。 10月19日(金) 地域の方の指導のもと、全校で脱穀体験を行った。 11月13日(火) 近露まるかじり体験イベントに全校で参加。高田民宿さんに場所をお借りし、地域の方々の指導のもと、餅つき・販売の体験をした。 11月22日(日) 近野フェスティバル・文化祭において、総合的な学習の取組や音楽、ダンスの発表と各教科の作品展示を行う。 12月24日(木) 近野クリーン作戦と称して、日頃お世話になっている地域に感謝の気持ちで清掃活動を行った。				
				

	成 果	課 題
学校・園	・米作りを箱苗から取組、収穫までを行い勤労の尊さを学ばせることができた。 ・収穫祭として餅つきを行い、日本の食文化の学習をさせることができた。 ・地域の方との交流が深まり、感謝の気持ちや先人を敬う気持ちが育った。 ・多くの共同作業を取り組む中で、協調心や思いやりの気持ちが育った。 ・集団としてのまとまりが育ち、学校行事等でもその力が発揮された。	・総合的な学習の時間が少なくなるなかで、米作りの時間を確保するのが難しくなっている。 ・天候に左右されることが多く、予定通りに実施できない。 ・来年度以降生徒数・職員数とも減少するなか、今のままでの実施は難しくなってくる。 ・行事の精選や中身の検討が必要になっている。
*子供にとつて	・米作りを一通り体験することができた。 ・地域の方々を人生の先輩として敬うようになり、あいさつ等にあらわれてきた。 ・地域のイベントや学校行事に主体的に参加できる生徒が増えてきた。	・生徒同士の中で、先輩から後輩へと取組が伝授できていけるようなくみにしたい。 ・他の行事との関係で、スケジュール的に忙しかったため、もう少しゆとりを持ってできるようにしたい。
*子供にとつて	地域が抱える様々な課題に気づくとともに、地域の活性化のために自分たちも参加していくことで学ぶことができた。	地域の伝統に学び、地域の活動に今後とも継続して関わってほしい。
地域(公民館)	地域住民の皆さんの協力により、校区内の休耕田を借用して、米作り体験を行った。また、区民体育祭、近野フェスティバル、まるかじり体験イベントなどを、地域の方々と一緒に取り組んでいる。こうした取組により、地域の方々や生徒たちが交流を深めることができていく。	生徒数が少なくなっているなか、学校と地域住民が連携した体験学習を行って、地域全体で子どもを育てる学習を進めていくことが重要となっている。
評価及び次年度に向けての取組の方向 ・米作りを箱苗作り・もみまき・代掻き・田植え・雑草取り・稲刈り・脱穀までの農作業を体験し、日本の米作りの一連の作業を体験する事ができた。餅つき体験をすることで、生産活動の大切さを学び、収穫の喜びを味わうことができた。 ・地域の方々の協力なくして米作り体験はできない。今後とも地域の中で育つ近野中生という位置づけとして、地域から多くの事を学び、また地域に感謝の気持ちを伝える学社融合を目指したい。 ・昔ながらの杵と臼で餅つき体験をし、日本の食文化の継承がはかれた。また、近露まるかじり体験での餅の販売や近野フェスティバル・文化祭の育友会主催のパパマランチの食材として提供できたことは、地域への恩返しとなり良かった。これも学社融合の成果であるといえる。来年度もできる範囲で、これらの取組を継続する方向で計画していきたい。		
		

学社融合活動実施報告

学校・園名		大塔中学校	公民館名	大塔公民館
学社融合における学校・地域の様子 大塔地域では、昨年度より3年間の田辺市指定研究を受け、地域共育コミュニティ事業を立ち上げ、研究実践を進めている。これまでのATOM学の流れを引き継ぎつつ、それぞれの活動を見直している。 1年生は、ふるさと学習と、小学生とともに、小学7年生として指導的役割も担いつつ地域の方に学ぶ選択交流学習、2年生は地域での職場体験学習、3年生は、小中学生と地域の方にも参加していただき地域の清掃をするリフレッシュ大作戦を企画、運営していくことを、中心的な活動としている。 他にも、保育園との交流や合同避難訓練、消防署の方に来ていただいた防災訓練などを行っている。				
活動名			学年・教科・領域等	
ATOM学習(生き方・選択交流学習)			全校生徒 総合的な学習の時間	
目 標	学校・園	・地域学習を通して、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する心を育む。 ・保育園や小学校、地域の方々との交流を通して、地域の方の願いや自分たちへの期待を知り、地域のために貢献できる自分について考えさせる。 ・大塔地区の小学1年生から中学3年生までの9年間を見通し、地域の子供たちのリーダーとしての役割を担える生徒を育成する。		
	地域（公民館）	・大塔地域共育コミュニティ事業の趣旨にもあるように、地域をあげて子供たちの健全育成に関わり、ひいては地域の活性化に繋げていく。 ・地域住民等が自分たちの持つ知識や経験などを伝え、心身豊かで、ふるさとを大切に育てる子供たちを育む。 ・地域住民と学校・子供たちとの結びつき、交流を深める。		
支援者及び支援組織 大塔公民館 大塔地域共育コミュニティ本部会議 大塔自治連絡協議会 地域ボランティアの方々 大塔夏まつり実行委員会 大塔行政局				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) 【1年生:選択交流学習】 第1回選択交流学習(6/10) 第1.5回選択交流学習(10/3) 第2回選択交流学習(10/14) 地域の方を講師に、グラウンドゴルフ、生け花、郷土の食、音楽、地域探訪、おもしろ科学、囲碁、茶道、昔あそびの9つの講座に分かれて、小学5、6年生、中学1年生(小学7年生)が交流しながら学習をした。中学生がリーダーとして学習や講師の方をサポートできるよう、1.5回目として中学生と講師の方で事前学習を行い、2回目は小学生を気遣いつつ、リーダー性を発揮できた。 【2年生:職場体験学習】 電話依頼(7/23) 事前学習(JCの方より、仕事の心構え、お話)(7/29) 事前訪問(7/27~29) 職場体験学習(8/4~6) 卒業後の進路や将来の職業について展望し、地域の公共施設や事業所等から各自が行きたい職場を選択し、実施した。地域の人の働く姿を間近で見て、自分も体験することで、仕事の大変さややりがいを実感し、将来について考えることができた。 【3年生:リフレッシュ大作戦】(11/11) 大塔地区の最高学年である小学9年生として、1年生からの学習の集大成として、自然豊かなふるさと大塔の良さをこれからも守り続けていくために、地域をきれいにする清掃活動を企画、運営した。 小学1年生から中学3年生までを縦割りで居住地を中心に各地区に振り分け、地域の方にも参加を呼びかけ、ゴミを拾った。小学1年生から毎年続けてきた活動ではあるが、3年生にとっては、初めてリーダーとして実施するという点で、よりいっそう意義を実感することができ、さらに、きれいな大塔を守り続けたいという気持ちもこれまで以上に感じているようである。 各地区で3年生から活動の趣旨説明の紙芝居を行い、目標を立て、実施後振り返ることで、小学生も1、2年生も、年齢段階に応じて活動の意義や将来への思いを感じることができている。				
				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・共育コミュニティ事業は、地域との連携の仕方について、見直していく好機となり、より連携も深まった。 ・これまでの活動を見直し、改善出来るところは改善を行った。 ・ふるさと学習では地域の史跡を探訪することができた。選択交流学習は、全ての講座で地域の方を指導者に招くことができ、生徒もリーダーとしての役割を担えた。リフレッシュ大作戦は、効率や地域の方との関わり方について改善できた。地域の大きなイベントである大塔夏まつりにはボランティアとして参加し、地域の行事への協力が出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とともにを行う行事等については、年度初めに日程を確定し、地域でも予定として入れておいてもらい、よりスムーズな連携を図れるようにしていきたい。 ・小学校がなくなった三川地区との交流をどうしていくか。 ・地域の方や団体との打合せや反省などができる時間の確保が必要である。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの文化や伝統を地域の中で体験する貴重な機会となっている。地域への関心や地域をよりよくしようという思いが高まり、ふるさとの良さを守り続けたいという思いを育むことができた。 ・地域の方々の苦労や自分たちへの期待、願いについて知ることができ、地域の担い手としての自覚が芽生えた。 ・地域の子供たちのリーダーとしての自覚を持ち、役割を担うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を離れても、地域の行事に積極的に参加したり、自分たちから何か地域に発信していけるような、積極的に地域に参画していける生徒の育成が課題。また、地域の担い手としての自覚を持った生徒が将来も大塔で暮らしたいと願った時、それが実現できる条件が整備されているか。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学習を通して、ふるさと大塔の良さ、地域の人々の考え方、温かさを感じることができた。 ・職場体験を通して、働くことの意味や大変さに気付き、人々の生き方に触れることができた。 ・小学生や地域住民と共にリフレッシュ大作戦(地域清掃活動)を行えた事は、大塔の住民としての自覚や一体感を促し、ふるさとの環境美化に関心を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から地域・町内会等の行事にも関わっていただきたい。 ・希望として、1人でも多くの子供が将来、この大塔に住み、地域を担い、活躍できる人材となしてほしい。
地域（公民館）	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動を通して、学校や子供たちの様子を知ることができた。 ・自分たちの持つ知識・経験を子供たちに伝えることで、喜びや生き甲斐を感じている方もいる。 ・活動の前に、講師・住民と教師や子供たちとの打合せ会があったので、地域として、これまでより、学校の取組を理解することができたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動日が学校のある平日なので、地域の協力者が少なく、退職者、高齢者や専業主婦の方などに限られてしまう。何か一つでも土日等に開催できる取組がないものかと思われる。 ・各地区の行事と学校の活動(取組)日が重なった場合、多くの方から協力を得るのが難しくなることもある。公民館がコーディネートするなどして、早い段階からの打合せが必要である。 ・地域や公民館行事においても中学生が参画し、活躍できる場を作っていくとあげればと思われる。 ・共育コミュニティ事業の取組を、より多くの住民に関心を持ってもらい、協力を繋げていけるよう広報していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> それぞれの活動に於いて、これまでの取組を見直し、改善に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・選択交流学習では、地域の方を指導者として、中学1年生が小学7年生として小学生のリーダー的な役割を果たすことができ、自己評価、地域の方からの評価ともに高まった。 ・ふるさと学習では、計画通り現地学習ができた。地域の歴史や文化を学習し、知ること、ふるさとの良さを再発見し、誇りを持つことができた。 ・職場体験学習ではJCの方を招いて、仕事の苦労や意義、心構え、将来に向けて今しておくべき事等についての話を聞いた。地域の方が働く姿を見ながら地域の職場で体験することで、将来への展望を持つことができた。 ・リフレッシュ大作戦は、1、2年生でふるさと学習に取り組んできた土台のもとに、これからはふるさとの良さを守りたい続けたいという思いを持って実施することができた。又、地域の最上級生である小学9年生として、リーダーとしての立場で取り組むことができ、地域の方々にも、中学生の様子を知ってもらう機会となった。 ・大塔夏まつりにボランティアとして参加する生徒が出てきたことは収穫である。 <来年度に向けて> ・ふるさと学習について今年度の実践を整理した上で、来年度に向けて系統立てて計画を見直し、年度当初から日程も含めて教育活動、並びに地域の行事にも組み込んで、円滑に実施していけるようにしていきたい。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		本宮中学校	公民館名		本宮公民館・本宮分館・四村川分館・請川分館・三里分館
学社融合における学校・地域の様子 本校では「学校教育の様々な場面で、地域と連携することにより、地域と共に歩む開かれた学校づくり」を目的とし、様々な活動に取り組んでいる。また本地域は、昨年度から全町一体となった学びで結ぶ地域社会づくりを目指した「共育コミュニティ 音無」として活動をしている。「共育コミュニティ 音無」では「子供たちが地域の多くの方々と交流し、多様な体験や経験を積み重ねることで、規範意識やコミュニケーション能力、ひいては確かな学力の向上を図ると共に、地域の活性化にも貢献できるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の充実」を目指している。具体的には学校での活動を「学習支援」「ふるさとづくり」「保育園・小学校・中学校連携」の3つの柱にわけ、学校支援ボランティア等の協力を得ながら、地域と一体となった活動を進めている。 地域の方や保護者は学校教育に協力的であり、学校や育友会の行事等に多くの方が参加、協力して下さっている。					
活動名			学年・教科・領域等		
ミシンボランティア			第3学年 家庭科		
目 標	学校・園	・地域と連携、協力し、開かれた学校づくりを進める。 ・郷土を愛し、地域に貢献できる生徒を育成する。			
	地域（公民館）	・地域人材を活かした活動を推進し、学校や子供達の様子を知り、交流を深めると共に、地域を愛する子供を育む。			
支援者及び支援組織					
学校支援ボランティア・保護者・地域の方					
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)					
○日時 平成27年 5月22日(金)、25日(月) 第2限・第3限(9:35～11:25) 6月17日(水)、19日(金) 第2限・第3限(9:35～11:25)					
○目的 地域の方に支援して頂くことにより、実習内容の充実を図り、地域の方と生徒との交流を深める。					
○活動内容 ・共育コミュニティを通じての家庭科ミシンボランティアの募集 ・ボランティアと教科担当による事前の打ち合わせ、下準備 ・授業(5月 巾着作り、6月 クッション作り) 班毎にボランティアの方から、レベルに応じた作業の進め方やミシンの使い方等を教えてもらい制作を行う。					
					
					

	成 果	課 題
学校・園	共育コミュニティを通じてボランティアの呼びかけができたので、活動に必要な人数(5月6名、6月7名)が集まった。また、事前の連絡や打合せ等を通して、地域の方とのコミュニケーションができ、信頼関係を深めることができた。今回の実習では、複数の地域の方に作業の仕方を指導して頂いたことにより、生徒の活動がスムーズに進み、全員が時間内に作品を完成させることができた。	今後も、必要に応じて色々な技能や知識をもった地域の方に協力して頂けるように、共育コミュニティを中心に地域との連携を深める。
*子供にとって	班毎に地域の方がついてくれたので、生徒たちは分からないところをすぐに質問でき、トラブルにもその場で対処してもらえた。作業がはかどり作品を時間内に上手く仕上げることができたことにより、達成感や満足感を得ることができた。	子供たちが主体的に考え、行動できる態度を育てていく。
*子供にとって	地域の方から色々なことを学びながら、地域の方との関わりを深めることができた。	今後も様々な活動を通して、地域の人との関わりを深め、地域の一員であることの自覚を促していきたい。
地域（公民館）	1回限りでなく、実習の回数を重ねることで、生徒たちとのつながりもでき、スムーズに作業ができた。ボランティアの方も、生徒たちとの時間を楽しく活動することができた。	今後も地域と学校が一緒になって子供を育てるという共通認識のもと、具体的な方策を進めていく。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<評価> 今年度も、地域の「共育コミュニティ 音無」の活動を通し、地域や公民館、町内の小学校や保育園と連携し、毎年行っているいろいろな活動を進めることができた。 ミシンボランティアの募集は毎年行っているが、ここ数年は参加してくれる人数が減少していたため、十分な活動ができないことがあった。そこで今年度は、「共育コミュニティ 音無」の定例会(毎月1回)で提案し、本校だけでなく公民館や小学校を通じて募集したところ、活動に十分な人数が集まった。このため、実習では班ごとにボランティアの方を配置できたので、個々の生徒のレベルに応じた活動をさせることができた。どの生徒も時間内に作品を仕上げることができたことが、生徒の満足感や達成感につながった。また、ボランティアの方からも「楽しく充実した時間を過ごせた」との感想を頂いた。このように、双方にとってメリットのある活動ができた。		
<次年度に向けての取組の方向> 今後も、今年度のように共育コミュニティを通じて呼びかける範囲を広げるなど、色々な方に参加、協力して頂ける体制を継続していきたい。 現在行っている活動を継続しながら、これからも学校教育に関心をもってもらえるよう、地域とのつながりを深め、積極的な働きかけをしていく。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子 新庄地域はいろいろな団体がしっかりと活動され、教育への関心は高く協力的であり、新庄公民館はサークル活動が充実している。園では公民館と連携し、地域の方と園児がふれあう機会を意図的、計画的に設け、数年前より茶道、コーラスの方が園に講師として来てくださり、その交流活動は充実している。また地域のグランドゴルフチームの方々も園を訪れ交流を続けている。 交流することにより、園児は人とかかわる楽しさを味わい顔見知りが増え、地域に出かけた時は地域の方もよく声をかけてくださる。また園児との交流は地域の方の憩いの時間になっている様子が伺える。 公民館報や園便りで園の活動や子供たちの様子を知らせ、地域の多くの方に園のことを知り、関心をもってもらえるような広報を心がけている。				
活動名		「第1回新庄夏まつり大会」への参加 (地域の人々と共に楽しむ)		
学年・教科・領域等		全園児と家庭		
目 標	学校・園	・地域のいろいろな人とふれあい、楽しい時間を一緒に過ごす喜びを感じる。 ・保護者が地域の行事に参加する楽しさを味わうことで、家庭の地域への関心を高めていく。		
	地域(公民館)	・多くの方々に参加していただき、園児や保護者と地域の方々との交流を深めてもらう。		
支援者及び支援組織 新庄公民館 新庄町内会 民謡舞踊 新庄漁協女性部 新庄子どもクラブ 新庄第二子どもクラブ ふたば作業所 新庄幼稚園 歌謡愛好会 新庄漁協 JA紀南新庄支所 新庄消防分団 交通指導委員 ボランティア				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等) ☆新庄夏祭り大会にむけて ◇5月21日新庄公民館運営委員会で、本年度「第1回 新庄夏まつり大会」を開催する案が承認される。 ◇6月22日「第1回 新庄夏まつり大会実行委員会」(内容:日程・予算・催し等について) ◇7月1日「第2回 新庄夏まつり大会実行委員会」(内容:宣伝、夜店、係等について) ◇7月10日「第3回 新庄夏まつり大会実行委員会」(内容:盆踊り、夜店、催し等について) ◇7月22日「第4回 新庄夏まつり大会実行委員会」(内容:盆踊り、行程、準備物の確認等について) ●8月1日(土)「第1回 新庄夏まつり大会」開催 午後7時～ 新庄公民館前広場 ◇8月19日「第5回 新庄夏まつり実行委員会」(内容:反省会) ☆幼稚園内での取り組み ◇6月～ … PTA会長、園長が新庄夏まつり大会実行委員となり協議に参加する。PTAが協力して行う園行事の「夏のおたのしみ会」や「夏まつり」の協議をPTAと重ねる。 ◇7月初旬 … 幼稚園のお楽しみ会や「第1回新庄夏まつり」に向けて、みんなで盆踊り(「もったいない音頭」「みんなで音頭」)を踊って楽しむ。 ◇7月19日… 園とPTAが共同で行う「夏のおたのしみ会」終了後、PTA役員会。その評価反省の上に立ち、新庄夏まつり大会への出店を決定。8月1日「新庄夏まつり大会」に向けての話し合いを行う。園が運営する夜店は「ヨーヨー釣り屋さん」「くじ引き屋さん」と決定。 ◇7月27日… 公民館で盆踊り練習に職員も参加。園の盆踊り「もったいない音頭」「みんなで音頭」の2曲を職員が地域の方に教え、いろいろな盆踊りを楽しむ(7月30日も)。 ◇7月29日… 夏季保育に地域の方2名が来てくださり、園児や保護者と一緒に盆踊り5曲を楽しむ。 ●8月1日(土)「第1回新庄夏まつり大会」殆どの家族が参加して楽しむ。「ヨーヨー屋さん」「くじ引き屋さん」を出店。役員以外の保護者の手伝いもあり予想以上の盛況で準備した物を全て売り切る。 ◇8月27日… 掲示板で報告とお礼を伝えると「楽しかった」「地域のいろいろな人と出会えた」「あんなに盛り上がったお祭りは初めて！心から楽しめた」と感想が届く。				
 				

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や園児が地域のいろいろな方とつながる良い機会となった。 ・園児も幅広い年齢層の方と一緒に夏まつりという楽しい雰囲気共有することができた。 ・園児減少が著しい中、地域の大きなイベントに新庄幼稚園が積極的に参画することで、地域の中での存在感を示すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の取組は、年間計画にないものだったので園と保護者、園児がそれぞれに力を出してという事にはならなかった。職員がこの夏まつりを子供たちが経験する中で、どういふねらいをもち、どういふ活動を展開していくかをしっかりと検討し、計画の中に位置づけて取り組む必要がある。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・園からも出店するという、また日程が8月1日ということで、殆どの園児が家族と一緒に第1回新庄夏まつりに参加できた。 ・大勢の友だちや顔見知りの地域の方と盆踊りを楽しんだり、夜店や餅まき、お菓子拾いをして喜んだりする姿が見られ、お家の方と一緒に夏の楽しい思い出の1つになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが楽しい時間を過ごせるのは、たくさんのお世話をしてくださる地域の方がいることに気づき、感謝の気持ちがもてるように進めていきたい。 ・子供たちがしてもらっただけでなく、自分たちも何かできることを…という気持ちを持てる取組にしたい。
*子供にとつて	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々と一緒に参加することで、地域住民との関わりが持て、幅広い年代の方との交流ができたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単なる祭りへの参加ではなく、新庄夏まつり大会が地域の方々と交流の場であり、地域の一員であることに自覚していただきたい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会を立ち上げ、協議を重ねることにより、地域間のつながりになった。保護者の方々に参加、協力していただくことにより、保護者と地域の方々との交流にもなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の内容を踏まえ、次回に繋げていきたい。 ・準備や進行の過程に不備は無かったかなど、参加者の意見を聞きとり、今後の参考にし、より一層盛り上げていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向 <評価> (公民館より) ・「第1回新庄夏まつり大会」の来場者は約669人。大勢の幅広い年齢層の方が集い、みんなで夏まつり大会を賑わい楽しむことができた。公民館が主体となり、地域の活性化を願い、人の集まりの減少が著しかった「町内盆踊り大会」を見直し、「新庄夏まつり大会」に変更し、地域の各種団体、公民館運営委員、ボランティアの方の協力を得、実行委員会を組織して、祭りを盛り上げようと何度も協議することで協力体制が整い、思った以上の人が集う会となった。来年度は今年度の反省の上に立ち、より一層盛り上げていきたい。 ★幼稚園として 今まで幼稚園は、地域のいろいろな活動に参加することは続けていたが、地域を挙げて一つの行事を立ち上げていく・進めていくということに参画することが少なかった。 新庄という地域はいろいろな団体がしっかりと活動されているが、園児の家庭が、地域に関心を持つ・地域との関係を大切にするという点において、意識の低さを感じていた。また、園児減少の現実も、地域の中での「新庄幼稚園」の影が薄くなりつつあるのも事実だった。公民館から「第1回新庄夏まつり大会」の話を聞いた時に、PTAの役員さん方を巻き込み、『新庄幼稚園』を地域にしっかりとアピールし、園児や家庭と地域をつなぐ機会としたいと取り組むことにした。いざ取り掛かってみると、幼稚園での「おたのしみ会」の経験から保護者からいろいろなアイデアが出て、協力体制もスムーズにとることが出来た。 昨年までの「盆踊り大会」には半数にも満たない園児家庭の参加率だったが、「新庄夏まつり大会」には、ほとんど全員が参加し楽しむ様子が見られた。自分たちが園で楽しんだ盆踊りでは大張り切りの様子が見られ、保護者も地域の方との会話やふれあいを楽しむ姿が見られていた。 今回第1回目ということもあり、園のねらいとして「地域のいろいろな人とふれあい、楽しい時間を一緒に過ごす喜びを感じる」「保護者が地域の行事に参加する楽しさを味わうことで、家庭の地域への関心を高めていく」としたが、来年度は園児が「人の役に立つ喜びを味わい、地域の人と共に過ごす充実感を感じる」というねらいの活動を夏まつりで展開できるよう計画的に進めていきたい。		

学社融合活動実施報告

学校・園名	三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館
学社融合における学校・地域の様子 本園では、「人とのかかわり育ちあう」を研究テーマに、園内における友だちとのかかわり合いを深める努力をしてきたことで、お互いが思いやり、認め合える子供たちに育ってきている。また、衣笠中学校を始め、地域の様々な年齢層の方たちとのかかわりの機会や内容を工夫することで、人が来てくれることを非常に喜び、人とかかわりが大好きな子供たちに育ってきている。公民館などの協力を得ながら、さらに地域の人や自然・文化に触れ、親しむことで地域とのつながりを広め、深めていきたい。地域の皆さんのご協力を得ながら、地域の方々に愛され、この三栖地域のことが大好きな子供たちに育てていきたいと願い、日々取り組んでいるところである。			
活動名		学年・教科・領域等	
公民館・地域と共に ～衣笠山に登ろう～		全園児	
目 標	学校・園	・地域の自然、文化遺産に触れ、興味を持ち、地域を好きな子供たちを育てる。 ・地域の方々と触れ合い、人の優しさや温かさを感じ、人とかかわる喜びや楽しさを味わう。	
	地域（公民館）	・子供たちが人とふれあいを好きになる。また、人との関わり方を自分なりに考えられるようになる。 ・地域の中で暮らしているという意識を醸成し、その意識を育てていく。 ・地域の人たちが子供たちの様子を知り、幼稚園の保育・教育への関心を生み、高める。	
支援者及び支援組織 公民館 地域の文化委員 PTA保護者 小学校			
日常的な連携の中で、お互いの課題や目的などを共有			
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>『衣笠山に登ろう』～園児・地域の方・保護者と～</p> <p>○4月30日 学社融合会議において『衣笠山登山』について提案</p> <p>○6月 秋頃実現に向けて検討</p> <p>○9月14日 日程の調整 保護者への協力依頼</p> <p>○10月19日 登山道の下見 打ち合わせ</p> <p>○10月29日 『衣笠山に登ろう』 ・三栖小学校に集合(行き道は険しいが、距離的に短くなる小学校側登山道を選択。) ・公民館館長さん、主事さん、文化委員さん、保護者、小学校学社融合担当の先生も参加。子供と手をつないで登る。 途中、お地蔵さんのところに仕掛けをしておく。「～みすようちえんのみんなへ～」(衣笠山で修行をしている者からの励ましのメッセージとパワーが満タンになる贈り物。) ・頂上目指して登る。 ・衣笠城跡地(山頂)の碑の前で、語り部の宇井さんから伝説を聞かせてもらう。 ・みんなで弁当を食べる。 ・景色を見ながら園歌を歌ったり、木の実や落ち葉拾い、虫探しなどで遊ぶ。 ・下山は距離的に遠いが、なだらかな別ルートを下る。途中、豚を飼育しているところや、馬小屋にも寄り、見せてもらいながら幼稚園に帰る。</p> <p>○10月30日 学社融合会議の中で反省会</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>三栖公民館との連携</p> <p>三栖王子跡見学 梅の収穫体験 衣笠山登山</p> <p>行事などの 参加・支援</p> <p>園内研修 一緒に保育を勉強。 子供の育ちをつなげる。</p> <p>公民館</p> <p>花苗・土の購入、 運搬などの手伝い</p> <p>学社融合会議 (月1回開催)</p> <p>高齢者学級との 交流</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">     </div>			

	成 果	課 題
学校・園	・幼稚園だけでは実現が難しかったこの『衣笠山登山』であるが、公民館主事さんのおかげで、文化委員さんや保護者の方などいろいろな方のご理解・ご協力を得ることができ、課題が解決できての実現であった。 ・園児・文化委員さん・保護者と3者合同の活動になり、お互いにいい交流となった。保護者の方も地域の文化委員さん方がこんなに幼稚園のために協力してくれ、また園児たちに非常に優しくしてくれ、園児たちも慕っている様子を見て、安心と頼もしさを感じたようであった。衣笠城にまつわる伝説なども教えてもらうことができ、本当にありがたかった。	・普段接することのない文化委員さんとの交流であり、幼稚園とつながりをもってもらういい機会であった。今後も継続していけるように、連携を図っていきたい。 ・三栖に住み、いつも眺めている衣笠山だが、登るのは初めてという保護者がほとんどであった。小学生のお兄ちゃん・お姉ちゃんも登らせてやりたいとの声も聞かれた。幼稚園はもとより、地域全体で衣笠山に目を向け、親しめるような方向につなげていければと思う。
*子供にとって	・山登りが初めての子も多く、いつも眺めている山に登り切った達成感や頂上からの景色、衣笠山で修行をしている方からの贈り物、優しい文化委員さんとの触れ合い、豚や馬の見学など楽しくて仕方がない経験となった。 ・園歌に出てくる『衣笠山』に登ることができ、より園歌への思いが深まった。さらに、外(地域)に目を向けるきっかけのひとつとなった。	・地域の人の優しさ・温かさに触れながら、地域の自然との楽しいかかわりが持てたことにより、ますます三栖の人や地域に愛着を感じることに繋がった。 このような経験を積み重ね、その思いを蓄えていくことで、三栖のことが大好きな子供たちの育ちへとつながっていくのだと思われる。そのような経験・活動の内容・継続の方法などについて、地域の方の協力を得ながら、考えていきたい。
*子供にとって	・地域のシンボル『衣笠山』の魅力を目一杯感じ、楽しむことができた。 ・文化委員さんとのふれあいから地域の人の温かさを感じることができた。多くの地域の人から見守られ、地域の一員としての意識が身についてきている。	・ただ人とのふれあいを楽しむのではなく、より相手への思いやりや敬意を持った心豊かな子どもに育つよう、地域ぐるみで取り組んでいきたい。
地域（公民館）	・日常的な連携の中で生まれた取組であり、日頃からお互いの課題や考えを共有していたため、双方の思いに応じた有意義な取組となった。 ・保護者の方にも、地域の温かさや地域の自然・文化、公民館や文化委員会の取組を知ってもらうことができた。 ・参加した地域の人が、園児の様子から幼稚園の保育・教育の充実を感じ、関心が生まれた。	・より多くの人の子供たちの育ちに目を向ける機会をつくり、幼稚園の保育・教育の充実を知ってもらうとともに、関心を高めていきたい。また、取組を継続、発展できるように地域での支援体制を構築していきたい。 ・園児たちが成長していく中で、幼稚園で育んだものを今後(小・中学校などで)どのように伸ばし、生かしていくかを考えていきたい。また、そのために小・中学校との連携もより深めていきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
・『衣笠山に登らせてやりたい』という数年来のこの思いを、ついに実現することができたのは、公民館主事さんをはじめ、地域の方々のおかげで課題を克服できたからである。《歩きなれていない子供たちが増え、ましてや山登りなどできるのか》、《園からふもとまでの距離も遠い》、《例年、頂上の草刈りは12月に行われる》など、衣笠山登山実施に向けては、課題が幾つもあった。折に触れ、主事さんと話をする中で、実現に向けて、解決への方法を探ってきたが、双方の思いが相まっての実現となった。当日までには、打ち合わせを重ねたり、草刈りの時期を調整して整備してもらったり等の準備を地域の方に快くして頂けたこと、本当にありがたいことであった。 ・文化委員さんの中には高齢者学級で顔なじみの方もいるが、初めての方もいて「子供たちは人なつっこいし、雰囲気の良い幼稚園やなあ。」との感想があったと、主事さんより伺った。 また、公民館館長さんからは、「課題であった衣笠山登山道の整備にも弾みがついた。」や「頂上付近の笹を今度登るときまでに取り除けるよう、いろいろやってみている。次回は広場として使えるよ。」など、子供たちのためにとの思いを向けてくださっていること、大変ありがたく、心強く感じている。 ・小学校・中学校の校歌にも歌われている衣笠山。幼稚園はもとより小・中学校、地域をあげて衣笠山に目を向け登ったり、衣笠山登山道の整備なども含め、親しみ、守っていけるような意識の広がりにつなげていければと思っている。 ・園児、保護者、文化委員さんの3者が一緒に登れたことも大きな意味を持つと思われる。園歌に出てくる『衣笠山』をより身近に感じることで、愛着が増した子供たち。「一年間の中で一番の思い出は？」と尋ねると、『衣笠山に登ったこと！』と答える子も多く、心に残る体験となった。このように心に残る体験を子供たちにたくさん積み重ねてやれるよう今後もいろいろな方々のご協力を得ながら、進めていきたい。		

学社融合活動実施報告

学校・園名		上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子 旧田辺市の北東部、市街地より数キロ離れ、標高606メートルの高尾山のふもとに位置し、静かな環境の中に所在している。上秋津地区は年間を通して色々な柑橘類の生産が主であったが、近年は専業農家の家庭は減少して、今年度当園における専業農家はとうとう0人となり、草刈り機を使える人が誰もいないなど今までになかった問題もでてきた。しかし、今年度は地区内に住む農作業の経験のある祖父母が保護者に代わって協力してくださっている。また、若い年代の世帯数も増えてきて、本園では核家族16世帯、同居家族4世帯である。昔から教育熱心な地域であるので、幼稚園教育にも理解があり物心両面に協力的で、温かい支援を頂いている。地域には町内会はじめ、あらゆる組織・団体を網羅する「秋津野塾」という地域作り団体が結成されていて、様々な活動を行っている。				
活動名			学年・教科・領域等	
上秋津地区あんしんネットワークの発展				
目	学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・上秋津地区の一人暮らしの高齢者(要援護者)を対象にした安否確認を兼ねた配布活動に、幼児なりの方法で参加する。 ・心をこめて作品や手紙を作ることを通して、高齢者の方に対して思いやりの気持ちを持つ ・高齢者に手渡すことで、喜んでもらえることを実感する。 		
	地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしで不安に過ごしている高齢者の方が、幼児との交流により、生きがいを見つけられるような地域づくりを目指していく。 		
支援者及び支援組織				
上秋津地区民生児童委員 上秋津地区福祉委員会 社会福祉協議会 絵本タイム支援者				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
7月22日	幼稚園評議員会において、絵本タイムの読み聞かせ支援者であり、民生委員でもある評議員の原進一氏から、上秋津地区安心ネットワークの昨年の成果を報告していただく。安否確認のための年末の訪問に、地区内の幼児の作品や手紙を添えたことで、受け取った高齢者が大変喜んでくれたこと、また、手渡すときに、幼稚園児が実際に手渡す形の方が良いので、何とか負担少なく渡せる試みを実現したいとの意向を伺う。			
7月16日	職員会議。趣旨に賛同して取り組む気持ちは昨年と同じだが、時間のやりくりや思いやりにつながる取組方の難しさなどの昨年の課題をクリアしていくことを目標とする。また原氏の意向が実現可能かどうかは2学期に持ち越し、園の状況を見ながら判断する。			
10月中旬	社会福祉協議会地域福祉課より書面及び電話等で依頼を受ける。今年度の作品はプレゼントする喜びにねらいの、園児に負担のない取組方にする。			
11月20日	社会福祉協議会地域福祉課より、名簿が届く。			
11月24日	12月の行事活動を検討し、終業式前日に行ける日を設定する。PTA役員会に報告。			
12月10日	上秋津地区民生福祉委員会議に参加して、地区の民生委員さんたちと顔合わせしながら、具体的な訪問のタイムテーブルを作る。			
12月11日	年長児が相手に思いを馳せながら絵手紙を仕上げる。全園児が小物入れ製作をする。「おじいちゃんおばあちゃん、一人で暮らしてるんやで」「ええっ」と驚きの声が出る。幼児なりに心を込めて作品づくりをする。			
12月15日	職員がラッピングして仕上げた作品を社会福祉協議会に渡す。			
12月21日	年長児を2グループに分けて、それぞれの地区担当の民生委員さん、福祉委員さん方にバトンタッチしながら、訪問していく。上がってもらいたがる方や、寝ていたり歩きにくい方など様々な高齢者の姿に出会う。高齢者の皆さん、訪問を大変喜び、プレゼントを大事に受け取ってくださる。ちょうど100歳の誕生日を迎えたおばあさんとの出会いでは、園児たちも驚き、「100歳の歌」を歌ったり総理大臣からのお祝いを見たりしながら、100歳生きるという意味を実感している様子だった。おばあさんが毎日折っている広告紙の箱を一人ずついただく。なんと、その箱一つずつにメッセージが書かれてあった。あげることでももらうことで、喜んでもらえる、言葉で教えられない「人の温もり」を感じる。			
12月25日	園に戻り、年長児が年少児に訪問の様子を報告した。			
1月12日	高齢者の方が電動車椅子を借りて、わざわざお礼の手紙を書いて園に持って来て下さる。園児たちに手紙を紹介する。			

	成 果	課 題
学校・園	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に高齢者と出会う、園外へ出ていくことで、高齢者の方はもちろんだが、各地区の担当の民生委員さんや福祉委員さんと打ち合わせも含めて共同作業をすることになり、つながりが広がった。 ・民生委員さんたちの高齢者への声掛けや気遣いなどの態度を見ることによって、園児も教師も現場の思いやりの姿を学ぶことができた。 ・保護者も高い関心をもって、賛同している。 ・地域の中での存在感につながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の経験を生かすことで、作品制作については、打ち合わせに係る手続きがスリム化し、書面や電話連絡だけで十分取り組めた。今年度の訪問に関しても、効率の良いシステムが出来上がればと考える。 ・地域の中の存在感として、地道な活動となっているが、この取組をもっと地域に広く発信できればとも、考える。公民館とのさらなる連携を望みたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・園内には味わえない安否確認の配布活動を通して、役立つ存在であると感じることができた。 ・心から喜んでくれる高齢者の姿を見て、作品を作る意味を実感でき、「思いやり」の意味を感じるきっかけとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかく芽生えているこの心情を、大切に育てていくことを園全体で共有していきたい。
*子供にとって	<ul style="list-style-type: none"> ・普段関わることのない高齢者の方々と接することで、思いやりの気持ちを知る良いきっかけになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の方との交流を重ねて、人間性豊かな思いやりのある子供に育てていきたい。
地域(公民館)	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方々にとって、上秋津に住んでいてよかったと思ってもらえるような活動であった。 ・これからもこのような交流できる活動をつづけてほしいとの声もいただきました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の活動を通じて、高齢者の方々が幼稚園や学校に対して関心を持つようになり、それぞれ開催されている事業に参加してもらえるようこれからも努めていきたい。 ・高齢者からお礼に何か園児のためにしてあげられるようなイベントを企画していきたい。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本タイムでつながりがある原氏からの依頼で昨年度始まった「上秋津地区あんしんネットワーク」高齢要援護者への配布活動の取組だが、今年度は訪問活動として発展した。昨年度の課題を踏まえつつ、検討を重ね、積み上げたつもりである。 ・昨年は「喜んでいたらよ」との報告に嬉しく思っていたが、高齢者宅に訪問したことによって、その喜びが想像以上に大きく深いものであるということを実感し、原氏の言われる園児が手渡す方が好ましいとの意図が理解できた。高齢者の中には身体が不自由でも一生懸命子供たちの近くに来てくれたり、ベッドの上でも喜んで起き上がって手を合わせてくれたりなどの姿があった。そこに民生委員さんたちの優しい心のこもった思いやりの言葉やしぐさが重なる。園児たちのいつもと違う表情から、幼い時期にこのような体験をすることで「年を重ねていく」「高齢になる」ということそのものを学び、理屈なしに高齢者を「尊敬する」「いたわる」ことができるのではと、園にとっても深く考えさせられ、学ぶ機会を与えていただけた。しかも学べた上に「ありがたい」と言っていた。学社融合ならではの関わりと思う。 ・次年度に向けては、年度初めから、この活動を教育計画に組み入れ、質の高い取組へと深化させていきたい。 		
  		

学社融合活動実施報告

学校・園名		中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子 中芳養地域は、昨年度より3年間の地域共育コミュニティ事業の指定を受け、子供の健全育成と地域交流の活性化を図るため、中芳養共育コミュニティ本部を立ち上げ、活動や取組を深めてきている。 今年は夏の恒例行事となっている『中芳養夏まつり』も盛大に開催することができ、昨年雨天中止になった分を取り戻す程の賑わいを見せた。また、『第2回中芳養合同作品展』でも昨年の反省を生かしながら、初年度より多くの地域の方が参加してくれるようになってきている。試行錯誤しながらも進めている地域での行事が、少しずつ地域に定着しつつある。 そのような行事を通して、たくさんの地域の方に幼稚園を知ってもらえることができ、園児と地域の方との距離が近くなり、『地域の中の幼稚園』という意識をもってもらえるように努めているところである。				
活動名			学年・教科・領域等	
地域の方々との触れ合い			全園児	
目 標	学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園のことを地域に発信し、より多くの人に幼稚園教育への理解を深めてもらう。 ・地域の方と一緒に活動する機会を増やしたり、地域に出かけたりすることで、子供たちもより地域を身近に感じ、愛着を深める。 ・色々な年代の方とふれ合い、人の温かさや優しさを感じ、人とかかわる喜びや楽しさを感じる。 		
	地 域 ・ 公 民 館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が子供たちの活動に目を向け、地域全体で子供たちの健全育成に取り組もうとする意識を高めていく。 ・様々な事業を通じて、地域内の各種団体における繋がりを深める。 ・子供たちの取組によって地域の人々が心豊かな気持ちになり、活力を感じる。 		
支援者及び支援組織				
芳寿会(高齢者の会) スクールサポーター(地域の方々) ゲストティーチャー(フラワーアレンジメント)				
取組の経過(日時・ねらい・活動内容等)				
◇芳寿会(高齢者の会)の方との交流 例年7月、11月、1月と年間3回の交流を定期的に行なっている。その他にも、夏祭りの盆踊りの指導に来ていただいたり、運動会に玉入れなどの競技に参加してもらったり発表会に招待するなど幼稚園に来ていただく機会を設けている。継続的な交流を通して、子供たちと芳寿会の方との距離もどんどん近づいてきているように思われる。 例年は7月の七夕飾り作りの交流が年度初めの交流となるのだが、今年度は6月に触れ合い遊びを加え、子供たちと芳寿会の方が顔合わせし仲良くなれる機会を設けた。自己紹介をしたり、手遊びを一緒にすることで、年長児はより身近に芳寿会の方を感じることができ、初めての年少児にとってはこれからの交流を楽しみにする良い機会となった。				
◇スクールサポーターの方々との出会い ・毎年地域のお寺『本願寺』へ園外保育で出かけているが、本願寺にある『カ石』のことや昔の話などを子供たちに教えてもらうことはできないかと、地域の方に呼びかけたところ、本願寺の近所に住む方が話して下さることになった。テレビやゲームがなかった時代の遊びの話をして下さったり、実際に昔に使われていたはかりを持ってきて見せて下さったりと、子供たちがより分かりやすいように話し言葉も工夫して話して下さった。				
				
<ul style="list-style-type: none"> ・園外へ出かける時に職員3人では安全面においていつも不安に感じていた。その中で、「何かあったらいつでも声をかけてね」とおっしゃって下さる地域の方に思い切ってお願ひしてみると快く引き受けて下さった。また、園内で行われる行事や日常の保育の時も時間がある時は来て下さり、子供たちのサポートをして下さっている。 				
◇フラワーアレンジメントの先生とのふれ合い 数年間続いている、フラワーアレンジメント教室。昨年度から始まった中芳養共育コミュニティの「合同作品展」にもその作品を出品し、地域の方からも好評である。 今までは、全園児が同じ花器を使ってアレンジをしていたが、今年度は花器はそれぞれが家庭から好きな形のものを持ち寄り、メインのお花だけ先生に準備をしていただいた。また、添えになるものは保護者や近所の方に分けてもらえるだけ経費を削減したが、花器が違うことでそれぞれに個性豊かな作品ができあがった。				

	成 果	課 題
学 校 ・ 園	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に幼稚園に来てもらったり、子供の様子を見てもらったりすることで、より幼稚園のことを知ってもらえる機会となっている。 ・子供たちに地域の伝統や昔の様子などを伝えていくことができ、自分たちが住んでいる地域に愛着をもつことができる。 ・職員だけでは目の届きにくい所までサポートしていただけるので、ゆとりのある保育を展開できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育では天気に左右されることがあるので、スクールサポートの方をお願いする時は、日程の調整が難しいことがある。 ・多くの方に協力してもらい、様々な活動を行なうことができ充実したが、その計画や準備などにかかなりの時間がかかり、その他の保育内容を変更したり、活動に追われてゆったりとした保育ができにくかった。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な年齢層の方とふれ合えることで温かさを感じ、地域の方を身近に感じられるようになってきている。 ・自分の思いを聞いてくれる人が増えたことで、喜びや安心感をもつことができる。 ・多くの地域の方と顔見知りになったり、地域の話や話を聞かせてもらったりすることで、『自分たちの地域』という意識が芽生えてきつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その場や雰囲気に合わせて態度や言葉遣いをきちんと定着させていく必要がある。 ・お世話をしてくださった方への感謝の気持ちを持てるように意識づけしていきたい。
* 子 供 に と っ て	<ul style="list-style-type: none"> ・園児たちが地域の人々と関わり、共同して取り組んだことによって地域への親しみを感じ、喜びを感じる事ができる。 ・地域の多くの人々と関わる中で、話す力や聞く力などが身につけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多くの人々との交流を通じて、さらに相手を思いやる力や考える力も身につけながら成長してほしい。
地 域 ・ 公 民 館	<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体で子供たちの活動を見守り、支えるという意識が高まっている。 ・様々な事業を通じて、地域内の各種団体で繋がりを深めることができた。 ・はつらつとした園児たちとの交流を通じて、地域の人々は元気や朗らかさを与えられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園児たちが地域内の人々と交流することで、心身ともに成長できるような環境を作れるようにサポートしていきたい。 ・今後も事前の協力体制をしっかりと作り上げ、組織的に事業を進めていけるように取り組む。 ・園児たちの活動が地域の人々に伝わるように、公民館報などを通じて広報していく。
評価及び次年度に向けての取組の方向		
<p>今年度は老人会などの団体以外にスクールサポートを申し出た個人の方へ声をかけさせてもらった。皆さん快く引き受けて下さり、「幼稚園に行くの楽しいよ」と言ってくださっている。こんな風に幼稚園のことを少しでも気にかけて下さっている方が地域にいてくれることにとっても心強さを感じている。</p> <p>活動内容を以前よりもふれ合い遊びを多く取り入れることによって、芳寿会の方にも園児を身近に感じてもらえ、顔を覚えてくれている様子もあった。スクールサポーターとして幼稚園に来て下さる方には、職員が見られなかった子供の一面や言葉を伝えていただくことができたり、色々な角度で保育を見ていただけることで、新しいことを提案していただくなど、職員も刺激を受けていることが多い。</p> <p>子供たちにとって、地域の方が幼稚園に足を運んで下さることが増え、子供たちの成長を見守って下さる方が多いことで、落ち着いて活動に取り組んだり、自分の思いを伝える機会が増え、個々の成長へもつながっているように感じる。また、保護者も地域の方が温かく見守って下さっていることで安心感を感じているようである。</p> <p>楽しんで生き生きと活動する子供たちの姿を見たり、一緒に活動したりすることで地域の方も「子供たちから元気をもらえる」「幼稚園に来ると楽しく過ごせて嬉しい」という言葉もいただいている。地域の方にとっても幼稚園の手助けをすることで、地域へ貢献する良い機会となっているように思われる。</p> <p>今年度の活動や地域の方とのふれ合いを次年度へも継続していき、次年度は保護者の方ももっと巻き込んだ形で活動できるように内容を考えていけるようにしていきたい。また、地域で幼稚園を支えてもらっていることへの感謝を忘れず、より関係を深めていけるように意識していこうと思う。また、幼稚園のことをより多くの方に知っていただける機会をつくったり、それを広げていけるように公民館報を上手く活用し、現在協力していただいている方々にもこまめに声をかけるなどし、より地域に根付いた幼稚園となるように進めていきたい。</p>		

講評

和歌山県田辺市における学社融合の変遷

学社融合研究所
代表 越田幸洋

1. はじめに

2016年2月、遙か遠く離れた田辺の地から、今年も45にも及ぶ学社融合の実践報告が手元に届けられた。ずっしりした重みを感じる実践の数々であった。

和歌山県田辺市における学社融合の推進は、今年2016年で15年目を迎える。同市教育委員会は、その教育行政基本方針や生涯学習推進計画に「学社融合を推進する」と記し、「学社連携」ではなく、「学社融合」を推進することを明確化している。また、学校教育においても、「基礎基本の徹底」と「学社融合の推進」を学校教育の2本柱として掲げ、全ての小・中学校と幼稚園において学社融合を実践することを求めている。このように、田辺市は、学社融合を中核に据えた教育実践に取り組んでいる、たぐい稀な存在なのである。しかも、その歩みは、すでに15年目になろうとしているのである。

毎年、実践報告に対する講評の執筆依頼を受けて、各学校（園）区での取り組みを詳細にレポートすることを続けてきたが、今年は、学社融合推進15年目を迎えることでもあり、この機会に、学社融合が田辺市にもたらしたものは何であったか、また、それによって田辺市にどのような変化が起きたのかを整理したいと考え、本稿を記すことにした。

2. 2005年度以前

田辺市において、学社融合を推進する動きは、2002年度から始まったとされている。

その年、教育委員会の働きかけによって、市内の小学校、中学校、幼稚園の全てに、校務分掌に位置付いた「地域連携担当者」が置かれている。小・中学校及び幼稚園に対して、組織として、地域との連携に取り組むことを求めた措置であった。

この頃すでに、滋賀県において、校務分掌に位置付いた「学校と地域を結ぶコーディネーター担当者」を全県下の小学校、中学校、高等学校に配置する動きがあったが、市単独で小・中学校と幼稚園の全てに校務分掌に位置付いた「地域連携担当者」を配置するという田辺市の実践は、全国的に見て先駆的、先導的であったと言える。

和歌山県においては、2000年代に入った頃から、学社融合に対する関心が高まった経緯があるが、その当時には、和歌山県内の市町村規模での取り組み例は、田辺市の他には見られない。したがって、田辺市はかなり早い時期に、独自の全市規模の学社融合推進システムを整えたことになる。

しかし、非常に残念なことだが、当時の実践は「学社連携」レベルに止まっていた。それは、「地域連携担当」という校務分掌の名称にも端的に表れていることであるが、2005年度以前に報告された実践事例を分析しても、学社融合の活動とは言い難い実践が多い。このことから2005年度以前の田辺市における学校と地域の協働は、「学社連携」段階にあったと言わざるを得ない。

3. 2006年度

2006年度は、田辺市が、「学社連携」から「学社融合」へと、学校と地域の協働を進化させていく転換点となった時期にあたる。

2007年1月、教育委員、社会教育委員、公民館長、公民館主事、学校長、園長、地域連携担当者等の全てを一堂に集め、初めて、全市規模の学社融合研修会が開催された。この研修会は、その後の田辺市の行方を方向付けるものとなった。研修会では、これまでに行われてきた学校

と地域の協働について振り返るワークショップが行われ、学校と地域が協働することで453もの成果が得られたことが確認された。本格的推進を前に、これほど多くの成果が早くも確認できたことは、「地域連携担当者」の配置という施策展開が、学校と地域の協働を力強く押し進めてきたことを示すものであった。

研修会では、同時に、学校と地域が協働する上での課題も洗い出された。その数は234であった。ただし、研修会参加者から出された実践上の課題のほとんどは、「学社連携」という発想に基づく活動実践であったために派生していた。そこで、研修会後半のワークショップや講義では、「学社融合」という考え方に基づいた活動実践へと変えていくことでそれらの課題解決が可能であることを、研修会参加者全員に認識してもらうことが試みられた。研修会参加者の感想に「目から鱗」の言葉が多く見られたことや、研修会後の実践にすぐさま大きな変化が現れたことを考えると、この日の研修会が田辺市の学社融合推進に大きく貢献したことは間違いないと思われる。

このように、田辺市における学社融合の推進は、その初期においては、教育委員会が施策として提示し、研修を通じて、学校、幼稚園、公民館の関係者の理解を深め、実践を促すという手法を使い、教育委員会が主導する形で推進されていったのであった。

4. 2007年度

田辺市教育委員会は、2007年度を「学社融合元年」と位置付け、全市規模で、本格的な学社融合の推進に取り組むこととなった。そのことは、同年4月、市内の全ての小・中学校長、幼稚園長、公民館長を一堂に集め、高らかに宣言された。

「学社融合元年」を宣言したことは、田辺市における学校と地域の協働を、学社連携から学社融合へと、急速に、しかも確実に変質させていく契機となった。

同年、田辺第三小学校区から「今年度、本校とボランティアグループが行った読書活動（読み聞かせ）は、これまでにない新しい取り組みであり、今までの連携活動では行えなかった質のものである。」という実践報告が寄せられた。これは学社連携から学社融合へと意図的に変えていこうとする動きが始まったことを示していた。報告には、さらに、「ボランティアグループの専門性、社会参加の意欲、奉仕の精神等々が、読み聞かせという活動を通して学校側にも十分伝わり、互いの理解の下、子どもたちに対する大人世代からのすばらしいプレゼントになった。」とも記されており、学校と地域が共に主体を持った真の協働が行われ出したととらえられた。田辺市にとって2007年は、名実ともに「学社融合元年」となったのである。

5. 2008年度

田辺市の学社融合は、「地域連携担当」が小・中学校や幼稚園に配置されたことがあって、学校や幼稚園が地域に対して学社融合することを求めていくスタイルで推進されてきた。田辺市では今もこのスタイルを基本とした学社融合が推進されているが、その方式は学校と地域が無理なく協働する上で必然的なことであると考えられる。

筆者は、学社融合を、

- ①学校教育と社会教育（家庭教育を含む）を融合させた活動で、その活動は学校教育でもあり、社会教育でもあり、両方の教育活動が同時に成り立つものである。また、その活動は、学校教育でもなく社会教育でもない新たな教育活動であるとも言える。
- ②学社融合の活動は、学校、地域・家庭の両者が、子どもを育てる方向を共有し（子どもを育てる方向の共有化）、子どもを育てる活動を協働して行うもの（子どもを育てる活動の協働化）である。
- ③学社融合の活動は主体が学校教育、社会教育の双方に存在し、それぞれが自らの教育活動を他者の活動に自ら重ね合わせることによって、自らの教育活動を効果的、効率的に

さらに高めていきたいとする、双方の意志から発現するものである。

④学社融合の活動は、学校教育、社会教育の双方にメリットをもたらすものである。

⑤学社融合の活動は教育コミュニティの形成を促進するものであり、持続可能な「ふるさと」を創造し、維持、発展させるものである。

ととらえている。

このような考えに基づいた学社融合を推進する上で、大きな課題となることが「教職員の理解不足」、「教職員の意識の低さ」、「学校の意欲のなさ」なのである。これらの声は、当時、全国各地の研修会で必ずと言ってよいほど出されており、今なお根強く残っている声でもある。これらの声は、学社融合に対し学校や教職員に主体性が欠如していることを指摘するものであった。田辺市では、おそらくこのような意見を当初から排除することを意図し、教育委員会の教育方針として学校や幼稚園に学社融合を進めることを求め、それを受けた学校や幼稚園が地域に対して学社融合することを求めていくという田辺スタイルを生み出したと考えられる。学社融合を促進することを掲げた田辺市にとっては、この田辺スタイルは必然だったのである。

このように述べてくると、田辺市の学社融合は主体が教育行政、学校（園）に大きく偏っているように思われるかもしれないが、それは初期の一時期に限って見られたことであって、今は、学社融合の実践が学校や園からの呼びかけによって開始されるというものに過ぎず、決して教育行政主導、学校（園）主導ではない。今の田辺市においては、学校と地域が共に主体性を持ちながら、協働して学社融合の活動を生み出していることは確かなことである。

学校と地域が共に主体を持って協働し始めたことが確認できたのは2008年であった。同年、上秋津公民館から報告された実践記録には「学校の取り組みを公民館及び農事体験学習運営委員会がサポートするという体制であったが、農事体験学習運営委員会という組織をより生かして、委員会を主体として活動を行えるようにしていきたい。その際、学校・公民館・地域の農家の方々に、実施の時期や内容について話し合い、より有意義な学習にしていけるようにしたい。」と記されていた。また、上芳養中学校区からは、授業でキャンドル作りを学んだ中学生が、公民館事業でキャンドル作りを小学生に指導するという実践が報告されている。この活動の目的は「中1ギャップの解消に役立てる」と記されていた。さらには、衣笠中学校区からは、公民館が学社融合の基盤となる人的資源の育成に取り組み、学校で行われる体験活動を支援するため、育った人材をそれらの活動に活かすコーディネートを行ったことが報告されている。同様のことは、秋津川中学校区からも「サークル活動や地域活動を学校に活かすことができた。」と報告されている。

このように、2008年度は、公民館が学社融合に積極性を持ったことが多く報告されている。この年、公民館は、学社融合に取り組む意義や意味を理解し、学校からの依頼を待つという受動的姿勢から、公民館の機能を活かして学社融合に主体的に取り組むという能動的姿勢へと舵を切り直したのだった。

6. 2009年度

2009年度には、田辺市における学社融合に著しい進化を確かめることができた。

同年の傾向としては、まず、学校と公民館のそれぞれの設定目標が明確化されたことがあげられる。同年、学校は教科・領域としての目標以外に、「新学習指導要領の趣旨の徹底を図るために、地域の関係団体との交流を深めるとともに、確かな学力の定着を図る。地域住民に活動の場を提供することで地域における学校の役割と責任を果たす。」「学校・家庭・地域が一体となった大きな輪の中で児童の健やかな成長を育む。」「様々な体験活動を通して、学校で学ぶことと市民として働くこととの関連を深める。」などといったことを目標に掲げている。また、公民館は、「公民館施設が地域活動の拠点施設となり、学校と地域の活性化につながるような機会を提供していく。」「大人、子ども双方に対し、まちづくりへの積極的な参画を促し、相互の交流

を通して地域社会の一員としての意識を高め、連帯感を高める。」「子どもを通して地域住民同士の交流を深めることにより、コミュニティ活動の活性化を図る。」などといったことを目標としていた。これらの目標からは、学校、公民館の双方が相手方の機能を自らの目標達成のために活かしていこうとする意識を持ち始めたことが読み取れた。

同年、12月には、田辺市教育委員会から研究指定を受けた芳養小学校と芳養公民館によって学社融合活動実践研究の成果発表が行われた。両者は、過去2年間の研究実践によって、「ダイナミックな授業展開」、「授業の質の向上」、「芳養小学校内に設置された芳養ふれあい教室（放課後子ども教室）の指導者を授業の中で活かすという、地域の教育力を授業に取り込むシステムの確立」、「芳養小学校に指導に来る地域の方に憧れ、その方の生き様を自らの将来像として描く子どもの出現」など、数多くの成果を手にすることができたとしている。

芳養小学校と芳養公民館の研究実践は、その後の田辺市の学社融合の推進に大きな影響を与えることになったが、その一つは、学社融合をすることによって学校の教育が充実することを明らかにしたことである。学校は、公民館や地域の教育力に自らの教育活動を主体的に重ね合わせることによって、学校だけでは成し得なかった教育実践を具体化できたのである。二つ目には、学社融合を実践する場を「授業」とするスタイルが確立されたことが挙げられる。田辺市においては、学校はもとより公民館も地域も「授業」にこだわって学社融合を具現化していくことが明確化されたのである。第三には、学校と公民館とを研究の推進役として同時指定するという新たな展開が、予想をはるかに超える成果を生み出すことを明らかにしたことが挙げられる。学社融合は、やはり学校と地域の両輪が歩調を合わせながら主体的に回転してこそ、その成果を生み出すものであり、そのような状態が生じれば予想を超える成果も手にすることができるということが明らかにされたのであった。また、後日談であるが、翌年度から不登校児童がゼロになったという話も学社融合を実践した成果の一つであると考えられた。

7. 2010年度

子どもの変容が、市全域に拡がりつつあることが確認できたのは2010年であった。

12月3日に学校支援地域本部事業成果発表会を開催した本宮中学校の壁には、「今解き放て！輝く笑顔！地域を想う優しい心！」という本宮中学校生徒会のスローガンが貼られていた。このスローガンは教師の指導を受けずに生徒会役員だけで考えたものであり、作成の中心となった当時の生徒会長は「いつも学校に来て私たちの面倒を看てくれている地域の方々に、今度は私たちが何かをしようと、皆に呼びかけたかった。」と語っていた。学校支援地域本部事業に取り組み出したのは2008年。生徒会スローガンが作られたのは2010年。「地域を想う優しい心」は、わずか2年の実践から生み出されたのであった。

このように短期間に子どもを変えていくことが可能だった理由は、学校支援地域本部事業成果発表会にもよく表れていた。発表会当日の日程は、午前中が本宮小学校と本宮中学校における授業公開、午後が研究発表であったが、そのメインは午前中の授業公開であった。「学校支援地域本部事業の成果は、授業を見てもらえば分かる。」ということなのであった。

本宮中学校区では3カ年にわたり学校支援地域本部事業に取り組んだが、本宮中学校で行われた授業の一つに、熊野古道について学ぶ授業があった。熊野古道の案内人である語り部さんを指導者に招き、古道を歩きながら熊野の歴史と古道の保全を学ぶというものである。古道をたどりながら生徒たちに遺跡の歴史等を解説していた語り部さんが、途中、古道近くに落ちていた大きな岩を指さし、「弱いものはこういう風にはじかれるんやで。世の中も同じやろ。」と語りかけた。その言葉を聞いた中学生は、「何か少し考えさせられた古道ハイクでした。」と感想を残しているが、田辺市で行われている学社融合は、このような授業実践へのこだわりなのである。授業へのこだわり、これこそが田辺市の学社融合の最大の特徴であり、子どもを短期間に変容させていく原動力なのである。

また、2010年には、コーディネーターの存在が必要不可欠であることも明らかにされた。学校支援地域本部事業実施に伴って地域コーディネーターが配置された本宮小学校や本宮中学校は、「地域コーディネーターをキーパーソンとし、学校と地域を結びつけながら、子どもたちを心豊かに育む取り組みを進めています。」などと、地域コーディネーターの存在によって、容易に、しかも充実した学社融合の実践が行えたことを報告している。

8. 2011年度

子どもの変容が、意識の上だけでなく、実践力を伴った変容であることが確認できたのは、2011年であった。

9月、田辺市本宮町は台風12号によって大きな被害を被った。街全体が泥水につかるなどして、しばらくの間、街の機能は全く失われてしまった。小学校も、中学校も臨時休校を強いられた。そのような状況の中、本宮中学校の生徒たちは自ら街に出たのである。台風が去った直後から、道路を埋めた泥をかき出す中学生の姿や、床上浸水した家の片づけを手伝う中学生の姿が町内各所で見受けられた。また、中学生の姿は、避難所となった本宮中学校の体育館にも見られた。避難した高齢者の方々と談笑し、こまごまと身の回りの世話をしていたのだった。本宮中学校生徒会が掲げたスローガン「今解き放て！ 輝く笑顔！ 地域を想う優しい心！」にあった「地域を想う優しい心」は具現化されたのである。

2011年には、学社融合の更なる深化を確かめることができた。

中芳養幼稚園区においては学社融合を「つながりや余韻のある交流」、「応答性のあるかわり」、「教育の幅が広がる」とする独自の理論立てが行われた。新庄小学校区では「新庄公民館・新庄幼稚園・新庄小学校・新庄第二小学校・新庄中学校の担当者が定期的集まり情報交換している。」と、学社融合が組織的、計画的に進められた。また、「年に一度当番校が公開授業を行う合同研修会を開催し、全教職員が共に研修をしている。」と、実践と研修を往復して行う取り組みも行われた。同様のことは、「明洋中学校区学社融合推進会議(明融会)を定期的に開き、学校と公民館(中部・西部・芳養)のつながりをいっそう強化することができた。」と明洋中学校区でも行われた。

田辺第二小学校区では、「校区内の教育施設(保育所・幼稚園・小学校・中学校・看護専門学校)の合同避難訓練」が行われた。新庄第二小学校区では「学校図書館サロン～ここに来れば何か生まれる～そんな期待感のある居場所」という発想のもと、学校図書館を開放し、「そこに集まる人々と、学校の学社融合担当、社会教育の地域共育コーディネーターを合わせ、コミュニティを組織する」ことが行われ、「そのコミュニティが、学校に向けては学力形成につながり」、「家庭に向けては保護者同士のつながり作りになり」、「地域に向けては生きがい作りになる。」ように、「共同で企画し、実行して行く」実践が行われた。

このような実践の深化は、衣笠中学校区から報告されたように、「学校が抱える教育課題を積極的に家庭・地域に訴え」、「課題を共有化し」、「学校と地域が共に子育てに関わっていきこうとする地盤」の上に、「交流が一時的なものにならないように取組を系統立てたものになっている。」ことによってもたらされたと考えられる。また、「『子どもと地域のために』という学校と公民館の思いのもと、時間をかけて何度も話し合えたことは、お互いの意思疎通だけでなく信頼も深めた。」、「コミュニケーションを重ねるごとに様々なアイデアが出され、新たな展望と具体的な展開を見いだせた。」、「学校と公民館が信頼関係を深め、連携することは、教育活動に広がりを生む。」という三里中学校区の報告にあるように、学校と公民館がより深くかかわったことによって実践がより深化したと考えられた。

その深化の過程は、2011年12月に発表された田辺第一小学校と中部地区公民館の3カ年に及ぶ研究実践に詳しく見ることができる。10年に及ぶ田辺市の学社融合を集大成する素晴らしい研究実践であった。

9. 2012 年度

2012 年度は学社融合の推進が住民主導へと移行しつつあることが見られた。

芳養小学校区からは「地域の教育力を生かしたさまざまな授業にも、地域の方々が S P (スクールパートナー) として参画し、担任とともに授業を作り上げている。」と報告があった。

新庄第二小学校区の「みんなでワイワイ たのしい図書館講座」は、ボランティアの方々からの図書に関する講座開設の提案から始まり、計画立案や受講生募集、講座運営等も地域住民によって行われた。また、講座参加者は、最初は新庄第二小学校保護者だけであったが、広報範囲を広げて回を重ねていくうちに、他校区からの参加も見られるようになっていった。

上山路小学校区からは、「6 年生学年 P T A 行事で丹生ヤマセミの郷 (元丹生ノ川小校舎) を訪れる。その際、保護者からこの校舎で授業を行えたらとの提案が出される。」「丹生ノ川集会所にて、区長、はてなしクラブ会長、民生児童委員、P T A、龍神公民館主事、学校とで取組の計画を立てる。」「丹生ノ川地域交流授業を実施する。」「当日の地域の人の送迎は地域の保護者で行った。」と報告されている。

上芳養中学校区では、「地域の読み聞かせサークルであるころころ山の方々に、ゲストティーチャーとして毎月集会に来て頂くことにより、本に親しみを持ち読書することを通じて思考力・表現力を育成する。」取り組みが行われ、「年度当初にころころ山サークルさんと国語科担当教員で打ち合わせを行い、取り組みを継続していくことと日程を調整した。そして月 1 回の本の読み聞かせ・ブックトークを行うこと、ころころ山文庫 (ブックトークで紹介された本の貸し出し) の設置、夏休み中の学校図書館の本の分類・整理を行う。」実践が行われた。

中芳養幼稚園区からは「平成 24 年 3 学期には、幼稚園側が予想していなかった芳寿会側からの主体的なアプローチが続いた。」とあり、上秋津幼稚園区からは「地域の方々の言葉が変わってきた～この地域の子ども達をこの地域の大人たちが守って育んでいきたいものだ。」「公民館の炭琴サークルが、『いのちのうた』を演奏しに来てくれた。最後には、子どもも保護者も、手話つきの大合唱になった。」「保護者がペンキ塗りや芝生張り、菜園の草抜きなどを申し出てくれる。」「保護者会の協力で、オリジナルの絵本棚が出来上がった。」「『幼稚園の菜園を手伝ってあげよう』と優しく植え方の指導までしてくれた。」「地域の方々に『地域の子どもも親も大切にしたい』という思いが感じられる。若い保護者に対して、挨拶したり話しかけたりして見守りたいという温かい提案もあった。」と報告された。

このように 2012 年度に顕在化した地域住民の主体性は、「地域に住む、各サークルの方々も積極的に授業支援に参加して頂いたりしていることから、地域ぐるみで子どもを育てようとする意識が高い。」という本宮小学校からの報告にあるように、授業支援への参加によって高められてきたものである。本宮小学校区では、当時、すでに「外部団体からの授業への参加依頼があるなど、地域の方の学校教育への関心が高まりつつある。」という状態にあった。同様のことは、「地域のサークル活動と国語の授業を融合させたことにより、子どもと大人が共に読書活動を楽しむことができた。」と田辺第一小学校区からも報告されている。

地域住民の主体性が育った背景には、「4 月 26 日龍神公民館福井分館第 1 回運営委員会が開かれる。年間計画を立てる中で、公民館主催の人権学習会について検討する。現在地域住民は土砂崩れなどの災害についての関心が高く『防災と人権』について学習してはどうかという意見が出され、学校においても、児童や保護者を対象に 防災に関する学習をしたいと考えていたので、保護者と地域の方が一緒に防災と人権ついでの話をしてはどうかと提案。子どもも参加すれば、親子で災害発生時の行動等について話し合う機会が持て、公民館にとっても小学生や若い保護者に話を聞いてもらえるのはありがたいという声をいただき、公民館・学校共催での防災学習会の実施を決定する。」という咲楽小学校区からの報告にみられるように、地域住民の意向を学校の教育課程に反映する学校の姿勢があったからであると思われる。また、「ゲスト

ティーチャーとしてではなく、日常の保育の場に地域の方々に入ってもらおう。」(上秋津幼稚園区)や、「学校における学社融合の取組は、子どもの教育活動や様々な行事を通じて、住民間の交流・融和を図る重要な役割」、「地域がもつ教育資源(様々な力を持つ人材)を学校教育へ導入して中芳養として特色ある学校教育を展開」(中芳養小学校区)、「学校だけでなく家庭・地域社会の中で、将来地域社会の一員として貢献できる子どもを育てていく。」(本宮小学校区)というように、幼稚園や学校に発想の転換があったからでもあると考えられる。

このような地域住民の主体的な取り組みの拡がりを受け、田辺市教育委員会は、2012年度に、校(園)務分掌の「地域連携担当者」という名称を「学社融合担当者」という名称に変更している。同時に、各学区で行われる幼稚園、学校、公民館の合同会議に担当者だけでなく教頭も加えることや、未設置の学区に対して連絡会議の組織化、定例化を促すことも行っている。学区ごとに学社融合を組織的に推進する方向は、津和野町を初めとした島根県西部の市町や滋賀県にも見られ、学社融合を推進する上で必要不可欠な要素となっている。

10. 2013年度

2013年度には、田辺東部小学校区で「今年度、新しく行ったものに、小学校の玄関ホールで行ったコンサート活動」というユニークな活動が展開された。この実践は、「体育館が耐震改修工事のため使えなくなった期間、ピアノを玄関に移したのを契機に4回のサンセットコンサートを行った。」というものである。「体育館の耐震改修工事が終了したため、サンセットコンサートを本館の玄関で行うことはできなくなった。」そうだが、玄関先に移動されたピアノを見て「サンセットコンサート」思いつかれた方に頭が下がる思いである。田辺市の学社融合の深化を象徴するような実践かと思う。これに代表されるように、2013年度は田辺市の学社融合がさらに日常化、恒常化した時期であった。

「地域の方々がS P(スクールパートナー)として参画し、担任と共に授業を作り上げており、『子どもや担任にとって地域の新しい発見』に代表されるような感動的な授業が行なっている。」(芳養小学校区)など各学校(園)区からは授業や活動の深化が報告されている。それは、「当日の授業までに、話をしてくださる地域の方に何度も学校を訪れていただき、担任と綿密な打合せを行う。」(龍神小学校区)、「地域の方々や公民館の活動の中から学校教育に役立つものを選び、公民館・地域・サークル活動等と連携した取り組み」を実践する(新庄小学校区)などの工夫によって生み出されたと考えられる。

また、同年には、三栖幼稚園区から「中学生に『園児との交流は自分自身の成長によい影響があると思うか。』というアンケートをとったところ、『あてはまる。』という答えの割合が1年生より2年生、2年生より3年生というように、学年が上がるにつれて高くなっていて、3年生では約8割強の生徒さんが『あてはまる。』と答えたといううれしい報告を受けた。これは、日頃の交流の深まりと比例しているのではないかと思われる。中学校の先生方、生徒さんの意識の表れを、保護者や地域の方々にも啓発し、今育ちつつあるこの学社融合の芽をさらに広げ、深めていけるような工夫に努めていきたい。」という報告があった。

「地域の独居老人6名を訪問し、共に防災対策について学び、避難経路や防災グッズについて話し合いを通して学習した。」(長野小学校区)という実践もあった。この学習は、「高齢者の多く住むこの地域では、防災対策が大切な課題となっている。」という発想から、「住民の安全を守るために児童もこの課題について考え学習する。」ことが必要だという想いから構想されている。見逃しがちな地域の課題に目を向け、学校の授業という手法を活かして地域の関心を喚起する素晴らしい実践であった。

これらは「関わる者同士が共に学び合う(共学)」という「共学」の学社融合活動であるが、2013年度には「共学」タイプの学社融合活動が数多く実践されている。新庄幼稚園区の「ぎおんさんの夜見世」も「共学」タイプの実践で、「子どもの作品を通して客観的に伝統行事に触れ

ていた保護者だが、今回実際に自分も子どもと一緒に制作することで主観的に考えることにつながり、視点を変えて伝統文化を見たり、伝統文化を支える一員になれたというような連帯感や充実感も味わえたと思う。」という成果を手に行っている。

珍しい共学タイプの学社融合活動も実践された。大坊小学校区の「収穫祭『サツマイモ料理を楽しもう』」の実践である。同じ部屋、同じ食材を使いながらも、子ども班と大人班に分かれて別々のメニューを調理し、その後に互いに作った料理を試食するというものであった。指導者や補助者としてではなく共学者としてお母さん方に参加してもらうために、事前に行われた授業参観後に、「リーダーのお母さんを中心に当日の参加体制等について相談する」ことを働きかけ、「学校主導ではなく、お母さんたちの意欲的な活動となる」ように導いている。報告書にはそのように働きかけた意図は書かれていないが、学校がお母さんたちの主体性を尊重したことがこの実践を実り多いものにしたと考えられる。「メニュー検討会」、「大人班役割分担」、「材料・用具等、学校で準備できないものについてはお母さんを中心として不足分の準備」、「事前準備の必要な食材については、リーダーを中心に下準備」という過程は、「保護者同士、地域、学校のつながりを深める時間」となったとある。学校の負担増を回避しながら、授業も充実し、地域の活動も同時的に活性化するという「共学」タイプの学社融合に、多くの学校（園）区が積極的に取り組んだ2013年度は、田辺市の学社融合が大きくステップアップした年となった。

これら「共学」タイプの学社融合活動の広がり背景には、学校や地域の意識の変化があったと考えられる。新庄第二小学校からは「単なる学校行事の延長としての『まつり』に終始しないような取り組みにする必要があるのではないだろうか」、「学校支援の一面でのみ捉えられることの無いような取り組みにするためにも、講師などの引き受け手(人材)の確保など裾野を広げるとともに、相互に刺激を与えあうような関係性が欲しい」という意見が出されている。また、田辺第一小学校区では「今年度は、保護者ボランティアの方が市立図書館へ出向き、専門的に新刊本の整理の仕方などについて研修を受け、学校図書に生かしてくれた」、「田辺第一小学校と中部公民館・地域との読書活動を核に据えた学社融合によって、大人側に学びが生まれ、その学びを通し活動を支える人が育ち、自主的な活動が繰り広げられている」という。それは「活動を通して交流を深める中で、互いが学び合っていることを自覚し、双方向性のあるつながりを築く」と説明されている。このように、2013年度の田辺市の学社融合の特色の一つである「相互に刺激を与えあうような関係性」や、「双方向性のあるつながり」を構築しようとする模索は、「子どもが発見した地域の課題などを地域にフィードバックする機会などを充実させれば、よりよい活動実践になるのではないか」（芳養小学校区）、「地域での発表を表現活動の場・地域への貢献の場として定着させていく」（明洋中学校区）、「地域から受け継ぐ、地域に学ぶ、地域にかえす」、「地域との交流、地域のためにできること」（中辺路中学校区）などと、多くの学（園）区でも見られた。中芳養幼稚園区では「園児が地域やみんなのためにできることを考え、人の役に立つ喜びを感じる」、「地域のために役に立つことを考えたり、地域の人たちに自分たちからはたらきかけていく」ことを5歳児にまで求めている。

2013年度の田辺市の学社融合には、もう一つ大きな変化があった。それはより大きな規模の学社融合が進められたことである。例えば、田辺第二小学校区では、「防災安全学習への取組」が行なわれたが、それは学校、東部・南部公民館、東陽中学校、紀南看護専門学校、立正幼稚園、みどり保育所、あゆみ保育所、紀南幼稚園、交通指導員など、多種多様な機関等の協働によって実践されている。このように多種多様な機関が連携、協働するダイナミックな学社融合は、田辺第二小学校が積極的に地域に働きかけ、学校が持つ教育・学習機能を存分に発揮したからこそ可能であったと考えられる。また同時に地域に学校の呼びかけに応じる機運が高まってきたからだと考えられる。学校が積極的に動けば地域が一つにまとまるということを教えてくれる素晴らしい実践であった。「防災・安全学習の深化」は、学校が中心になることで可能となり、学校と公民館が協働してこそ学習の成果を活かすことができる地域になっていくのだと

教えられた。

2013年度には、さらにもう一つ大きな変化があった。田辺第三小学校区の実践に見られたことだが、学社融合の「社」に初めて家庭（家庭教育）が加えられた。同校区で実践された「西部地域共育コミュニティ本部事業（学校支援地域本部事業）の取り組み」は、「本事業の展開は、家庭やPTAに対し子どもの健やかな成長や支援の在り方の示唆が多くあった。家庭での学年別の学習の仕方を『家庭学習の手引き』として提示し、また、基本的な生活習慣の見直しに向けた『田三小 BOOK はなまるデー（ノーゲーム、ノーテレビの日：毎月13日実施）』の取組も徐々に効果が出てきている」というものであったが、学校教育と家庭教育の融合を図ったことにより、家庭の教育力が向上されつつあることを報告するものであった。

2013年度は、以上に示したように、非常に優れた実践が数多く行われた年度であったが、その一方で大きな悩みが顕在化した年ともなった。中辺路小学校区の実践報告には、「今回、支援していただいた方々が、さらに呼びかけを広めていただき、地域全体に広がる支援者の参加体制を構築したい。」「校区の多くの地域について、各学年、各年度の学習計画と地域人材をさらに明確にする。」ことが課題であるとあったが、それは「校区に多くの集落があるが、年間授業時数の関係で学習の対象となる地域が限られるため、6年間を見通した計画が必要となる。」と、学校統合によって広がった学区を抱えた悩みであった。子どもの目線に立って「ふるさととは何か」を再検討することが必要になってきたと考えられた。この課題に市教育委員会は即座に対応し、2012年度から上山路小学校区を指定し、「統合校としての学社融合の在り方、地域を活性化するための学社融合の在り方について研究」することを依頼している。田辺市教育委員会の先見性に改めて敬意を表する次第であるが、指定を受けた上山路小学校区も課題解決に極めて意欲的で、研究実践2年目となる2013年度には、「積極的に学校から出て活動することで地域との交流を行っている。」「最も遠い丹生ノ川地区に出向き授業参観・交流を行った。」「今後も続けてほしいという地域の方々の声に応じて今年度も交流授業を計画」、「子どもたちの授業を地域の方々に参観していただく授業参観」、「丹生ノ川小で教鞭をとられていた古久保節子先生が再び教壇に立ち、地域の方が生徒になって受ける授業を子どもたちが参観するという『さかさま授業参観』」、「公民館主事や分館長が中心となって企画し、地域が主体となって学校を巻き込んだ活動を行う体制づくり」などを行っている。少子化に伴って学校の統廃合は全国的に広がっており、それに対応した新たな学校づくり・地域（家庭）づくりが求められている。上山路小学校区からそのモデルが出されることを大いに期待しているところである。

11. 2014年度

2014年度には、田辺市の学社融合の推進体制に大きな変化、変質が起きたと考えられる。

まずは、「公民館主事、分館長を中心とした学社融合の授業作りを行うことができた。」と、驚くべき報告が上山路小学校区から寄せられた。「公民館主事を中心とした取組とすることで、学校が主体でなく地域を主体とした取組にすることができた。学校にとっては、授業であるゆえに教師が主となるべきではあるが、今回学社融合推進委員会で十分話し合い、公民館が積極的に動く体制をとれたことで、負担が大いに軽減できた。地域にとっても、上山路全体が交わられる機会となり、学社融合という双方が生きる活動ができたのではないか。」という実践であった。これについて、実践の一翼を担っている龍神公民館は「地域活性のためには学校を中心とした取組が有効であるが、いかに継続していくかが課題」であり、また「広範囲に及ぶ龍神を一つの公民館で統括していかなければならないという問題」もあるが、「学校と公民館がより話し合いをもち、地域を活性化できる取組を考えていく必要がある。」と述べている。2014年度は学社融合推進の両輪である学校と公民館が共に主体性を確立した年となったと考えられる。

田辺第三小学校区からも、田辺市の学社融合が新たな段階に至っていることを感じさせる画期的な報告がなされた。「コーディネーターを増員」し、「本年度から地域コーディネーター自

らが、学校と調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており、地域主導型の学社融合事業が着実に浸透している。」というものであった。学社融合の地域側の中心的担い手である西部公民館が掲げた「本年度から地域主導型の学社融合事業に移行していく。」という目標を具現化した「地域コーディネーター自らが、学校と調整を行い、学習支援ボランティアに連絡調整を取っており」という実践は、これまでの田辺市には見られない動きであった。

田辺市の学社融合は全くの白紙の状態から始まったため、その当初、行政主導で推進することとなった。その後、学校と公民館の積極的なかわりにより、その中心的な担い手が学校と公民館へと次第に移行していったが、市民が主体となった学社融合活動はなかなか生まれてこなかった。それでも、2012年度頃からは学社融合に主体的に取り組む市民の姿がいくつか報告されるようになったが、学社融合推進の中核をなすコーディネートを担うまでには至っていなかった。しかし、2014年度、「地域の方が主体的に参画できるようサポートする」（東陽中学校区）といった意図的な働きかけもあり、田辺市の学社融合はついに市民主導へと変質し始めたのである。

その変化の本質は、田辺第三小学校区の、ある実践に見ることができる。同校区では学習支援ボランティアを「OK先生」と呼んでいる。子どもたちは「OK先生の励ましや賞賛の言葉掛けで学習する喜びを味わい、地域の方と触れ合う良さを感じることができた。」とのことであるが、「OK先生」という呼び名には、子どもをありのままに受け入れ、寄り添い、わずかな成長をも賞賛しようという田辺第三小学校区の想いを感じるのである。そこには、学社融合を子どもたちの目線、地域住民の目線で推進しようという意志があるように思う。それは、田辺市の学社融合が住民指導へと変質しつつあることを端的に物語るものなのである。

住民主導の学社融合の体制を整備するには、まずもって住民に主体性がなくてはならない。田辺市では、2014年度に住民の主体性を培うことが意図的に行われている。それは新庄第二小学校区の実践に見ることができる。「地域の方々や公民館サークルの方々が授業や行事に参加することで、児童や保護者との触れ合いの場の枠が広がり、地域の連帯感を育てる。」や、「体験活動やカレー作りなどを主体的に企画し、準備・運営をして、まつりを盛り上げようとする意識が根付いている。」「体験活動その他で、意欲的に新しいものを取り入れようとしている。」などの変化が地域に見られたとのことだが、それらの変化は「子どもたちと地域の方々が触れ合うことで」もたらされ、「学社融合の趣旨を理解、つまり、この行事が学校を含め各団体の協力によって成り立っていることを充分理解」し、保護者や地域住民が「主体的に企画し、準備・運営」したことにあると記している。この記述からは、学社融合の活動を継続することによって、新庄第二小学校区の保護者や地域住民の間に、子どもの教育の主体者としての自覚が促され、拡がり、定着していったことが読み取れる。東陽中学校区では、来年度には「保護者（育友会）と地域の人々を結ぶ活動に積極的に取り組み、より地域力や保護者力を学校として活用できるようにしていきたい。」と、保護者の主体性喚起に踏み込んでいくことを述べている。

2014年度には、今までに見られなかった種類の学社融合活動も実践されている。それは、田辺第二小学校区が行なった、「調査結果をパンフレットにまとめたり、保護者に現地学習をした場所についてアンケートしたり、学習成果を保護者やお世話になった地域の方々に紹介した現地報告会（語り部活動）を開催したりしている。」という活動である。このような活動は評価融合という種類の学社融合で、地域や保護者の方々を評価者と位置付け、子どもの活動を評価する場面で学社融合する活動である。ここで言う評価とは、子どもを励まし、学習や活動の意欲を高め、持続させ、地域での実践化を促すことを目的として行われる行為である。

評価場面における学社融合活動は、衣笠中学校区からも報告された。まずは「梅を使ったご当地スイーツ『きぬがさポンチ』の取り組み」である。その取り組みは、「梅農業体験（1年生）」、「美術科：粘土でポンチづくり（三栖幼稚園、小学校との協働授業～平成24年度から実施）」、「幼・小・中、地域住民による人気投票『地域みんなで決めるご当地ポンチ』～公民館で」、「ト

ップ当選の作品決定」、「館報で協力店を公募」、「地元洋菓子店の協力によりスイーツ製品化」、「6月から販売～地元産梅・フルーツを使って地域振興」というものであった。次には、「南紀応援キャラクター梅ずきんちゃんの取り組み」である。その概要は「生徒の企画・発案を基に梅ずきんちゃんのキャラクター」、「修学旅行（東京）にて広報～5月3年生」、「地元企業とコラボ展開～缶バッジ、ステッカー…11月全国ネット販売開始、梅ずきんちゃんクッキー…12月販売開始」と記されていた。

衣笠中学校区の実践は、別な視点からは「地域活性化への貢献」と表現することもできる。2014年度の実践報告には、「地域の活性化に向けた取組に参画している。」（伏菟野小学校区）、「児童の地域貢献についても、ご意見をいただき活動の幅を広げていきたい。」（大坊小学校区）、「地域の文化活動の発展に貢献したい。」（上秋津小学校区）などと、「地域貢献」や「地域の活性化に貢献」という文言が数多く見られた。

稲成小学校区の報告にも「コミュニティの活性化」という文言が見られた。同校区で考える「コミュニティの活性化」は、まずは「地域社会の中で、住民と子どもたちとの関わりを深める」ことに始まり、そのことが「地域全体の繋がりを深める」ことになり、その結果「コミュニティの活性化」が図られるという構図になっている。このような思考回路は、他校（園）区にも見られ、田辺市全体に共通した思考回路と考えられる。この思考回路は、地域活性化について論理的に分析したことから得られたものではなく、学社融合を進める中で学校や地域が体得した経験知であると考えられる。人口減少、少子高齢化などの課題を抱える各地域にとっては、この経験知は大きな財産となっているのではないだろうか。学社融合を通して地域住民と子どもたちが積極的にかかわることを進めていくことは、田辺市の将来にとって大きな意味を持つことだということを知ることがすでに認知しているのである。

上芳養小学校区の梅学習では「修学旅行の梅配りでは緊張もあったが、自分達の地域の自慢である梅を配ることで自分自身の自信にもつながった。」「PR活動等を行うことで地域に誇りを感じ、梅栽培の仕事についての理解が進む。このことは、後継者不足の問題解決の糸口として期待できる。」と記している。地域が抱える現代的課題をも意識した優れた実践である。田辺市では、学校が地域から支援を受けるだけでなく、学校が地域に貢献するという、双方向性を持った良好な関係が築かれており、とても素晴らしいことだと思う。その双方向性の関係を築くには、まずは、近野小学校が目標に掲げる「地域の方と触れ合うことで、地域の方々のふるさとの思いや自分たちに込められた期待を知る。」ことが必要であると考えられる。子どもたちが「自分たちに込められた期待を知る」ことは、持続できる地域社会を維持する上で極めて重要なことなのではないだろうか。

12. 2015年度

2015年度、会津小学校区は「今年度の取り組みでも、子供たちや参加者に充実した笑顔が多く見られた。この充実した笑顔は、学社融合の取組の過程で、またその結果として、学校と公民館のそれぞれの目標が達成されてきているからであると考えている。」と述べている。このような学社融合の定着ぶり、充実ぶりが、2015年度には数多くの学校（園）区から報告された。

上芳養小学校区からは「校内には書や絵画など、地域の方の作品も多く飾られ、学校が地域によって支えられているという環境が感じられる。加えて、学社融合における多くの活動を通して、地域の方が学校を大切に思う気持ちをお子自身自身が感じることができる。」という報告があった。同校区では、「毎週水曜日6年生の児童は昼休憩に生け花の指導を受けている。出来た作品は玄関ホールに飾られ、季節感を感じさせるものとなっている。」というユニークな実践が長い間継続されているとのことである。

「地域住民の自主性が高く、地区内ハイキングの際には、自ら関係者とも連携や調整等をしてくださった。」（伏菟野小学校区）や、「本年度の新しい試みとして、校舎と公民館に囲まれた、

中庭のバラ園の整備作業を、1年生と地域の方々でおこなった。地域の方は作業以降も、定期的に学校に来てくださり、自主的にバラの手入れをしてくださる。」(東陽中学校区)などという、地域住民の主体的なかかわりを報告する実践例も数多く見られた。中芳養幼稚園からは「園外に出かける時に職員3人では安全面においていつも不安に感じていた。その中で、『何かあったらいつでも声をかけてね。』とおっしゃってくださる地域の方(個人)に思い切ってお願ひしてみると快く引き受けて下さった。園内で行なわれる行事や日常の保育の時も時間がある時には来て下さり、子供たちのサポートをして下さっている。」と、学社融合活動に参加、参画する機運が個人レベルにまで高まっていることが報告されている。これらは、田辺市の学社融合が各地域に完全に定着したことを物語るものだと考えられる。

このような学社融合の進展は、学社融合を推進することを目的とした地域組織の整備が進められてきたことによるところが大きいと思われる。2015年度には、田辺市の学社融合の草創期から活動している明融会や上秋津の農業体験学習支援委員会をはじめ、西部地域学社融合推進組織、上秋津学社融合推進委員会、咲楽小学校区の学校地域連携推進会議、芳養、中芳養、稲成、大塔、本宮の地域におかれた共育コミュニティ本部によって、それぞれの地域において、学校、公民館、地域機関・団体などの連携が図られ、学社融合が着実に推進されている。ここ数年田辺市を訪れる機会が持てないでいるため、残念ながら、これらの地域組織の果たしている役割について詳細に述べることができないが、「ミシンボランティアの募集は毎年行っているが、ここ数年は参加してくれる人数が減少していたため、十分な活動ができないことがあった。そこで今年度は、『共育コミュニティ音無の里』の定例会(毎月1回)で提案し、本校だけでなく公民館や小学校を通じて募集したところ、活動に十分な人数が集まった。」という本宮中学校区の実践報告からは、これらの地域組織が十分に機能し、学社融合推進に大きな役割を果たしていることを推察することができた。田辺市の学社融合は、またまた新しいステージを切り拓きつつあると考えられた。

2015年度の田辺市の学社融合の進展を支えたものは、地域の推進組織の整備だけではない。「支援ボランティアにおいては、学習支援ボランティア、図書ボランティア、交通安全ボランティア、環境ボランティアを募り、すでに『学習支援』『図書』『交通安全』のそれぞれのボランティアは活動を始めている。」(稲成小学校区)、「昨年度からはじめた学校支援ボランティアの取組を充実かつ発展させるために、登録して下さった方々に、目的や意義、気をつけていただきたいことなどを説明する機会をもった。」(東陽中学校区)、「5月には共育ミニ集会を開き、学校に協力していただいている地域の方々を学校にお呼びして、年間の学校行事について説明したり、昨年度の反省等について協議したりする機会を設けた。」(鮎川小学校区)、「学校で考えた取組を学社融合推進委員会で検討し、それを原案にして学校地域連絡協議会で協議する。」(上山路小学校区)と、各学校(園)区において行われたきめ細かな推進の手立て、中でも保護者や住民の参加、参画を促進する手立てによっても、2015年度に、田辺市の学社融合は新たなステージへと推し上げられていったと考えられる。

2015年度に田辺市の学社融合が新たなステージに立ったと考える根拠は、もう一つある。中芳養小学校区では、「あきまつり(低学年生活科)」や「校区探検(4年社会科)」、「家庭科の学習におけるミシンでの縫製作業」に、保護者・地域住民の参加を求めている。また、田辺第二小学校区では、防災安全学習の中で、「日曜参観日(校内音楽会)の後、児童が保護者と共に、校区内の避難場所を確認」するところを行なっている。いずれも保護者の参加、参画を進めることをねらった活動であるが、中芳養小学校区では、「地域・保護者の方に授業の中に入っていたくことは、より学習効果を上げるためには大変有意義である」としている。

中山路小学校区で実践された親子人権教育学習会では、保護者の参加、参画はさらに重要度を増している。「有意義」の段階を越え、「必要」の段階さえも越え、それは「必然」の段階に達している。中山路小学校区では、「学校での事前・事後指導に加え、一つの体験が学習のスタ

ートとなって、児童と保護者が体験や学習したことをベースに各家庭で話し合える機会となり、学校では各学級での性教育の授業に生かせることができる学社融合活動」をめざし、「各学級での学習のめあて等についての事前学習と打ち合わせを行い、講師の助産婦としての長年の経験から得た専門性を生かして、児童・保護者・職員が『出産』の疑似体験や『命の誕生』『命の大切さ』について学ぶ機会とした。また、学級での事後指導や児童の感想を保護者に知らせるとともに、この共通体験から出産時の様子や親の願いなど、各家庭で親子の話し合いを持ち、親子で学びを共有する学習会を行なった。」と報告し、この実践によって「本校の学社融合教育の新しいかたちを見つけられた」と述べている。中山路小学校区が「新しいかたち」をどのようなものにとらえているかは記されていないが、中山路小学校区の実践は親の学習参加・参画による家庭の教育力の向上を図る学社融合ととらえることができ、その意味で田辺市にとっては「新しいかたち」と言えるのではないだろうか。その目指すところは、稲成小学校区が言う「保護者との信頼関係を基礎とした『家庭力』の向上」と同じところだと考えられる。2014年度の田辺第三小学校の「家庭学習の手引き」、「田三小BOOKはなまるデー（ノーゲーム、ノーテレビの日）」の実践を経て、2015年度、田辺市は学社融合により家庭の教育力の向上を図るといふ新たなステージに立ったと考えられる。

学校教育の充実に関しては、2015年度も、田辺東部小学校区では、「今年度から新たにスタートした『語り部活動』であったが、公民館主事・学校・地域が連携して取り組み、単元をデザインした結果、中心となる骨の部分は出来上がった。」と、田辺市でしか成し得ないであろうと思われる公民館や地域が参画した学校教育の計画立案が行なわれている。田辺市でこのような方式の教育計画、授業構想の立案が行なわれる背景には、地域の素材を生かした教育、授業を実践しようとする先生方の強い意志があるように思われる。中辺路中学校区では「森林ボランティア」を実践し、「10月、遠足の道々、植樹用のドングリを拾った。1月、遠足で拾ったどングりの苗を地域の山に植樹した。」、また「中辺路保健センターにて、地域の子育てサークルに協力していただき、乳幼児とのふれあい体験を行なった。」、さらには「夏休みに地域の施設にご協力いただき、全校生徒が自主的にサマーボランティアに参加した。」という実践に取り組んでいる。三里小学校区では、「本校の校庭にある樹齢30年程度の柳の木が縁で、『日本の凧の会』会員の方が、凧作り教室の講師を引き受けて下さり、教室を開催」したそうである。また、大坊小学校区では「大坊・団栗地区の特色を語るとき、みかん作りを抜きには語れない。しかし、全校児童は分担して取り組むには大変難しく感じ」、「大坊・団栗のみかんの特徴である『木成り完熟』をキーワードとして」計画立案が試みられている。さらに、新庄小学校区では「森の恵み紀州の木材～地域語り部活動～」において、「地域の産業である木材加工業について調べ、紀州材の良さや現状、地域の人々の努力を知る」ため、「現在建築中の木造校舎では紀州の木材がふんだんに使われている」ことから、「校舎建築現場を調べる」や「木の種類を調べる」授業を実施している。いずれも身近にありながらも日常生活においては見逃されがちな地域素材を教材化したものであり、子どもたちばかりでなく、保護者や地域住民にも改めて故郷を見つめ直すことを求める実践でもあった。そしてそれらを使った授業実践は、持続できる地域づくりへと先生方が機能し出したことを意味していると考えられた。また、これらの地域素材の活用は公民館や地域住民の参加、参画がなければ具体化できないことでもあり、田辺市においてそのような地域素材の活用が行なえるのは、公民館や保護者、地域住民が学校教育に参加、参画することが日常化、恒常化されているからであると考えられた。

2014年度に特徴となった学校の活動、学校の授業を通じた地域の活性化については、より多くの校（園）区で取り込まれ、活動がさらに具体化したように思う。特に、二つの幼稚園の実践に圧倒された。

まずは、上秋津幼稚園区の実践である。「上秋津地区あんしんネットワークの発展～高齢者要援護者への配布活動」について、「年長児が相手に思いを馳せながら絵手紙を仕上げる。全園児

が小物入れを製作する。『おじいちゃんおばあちゃん、一人で暮らしてるんやで』『ええっ』と驚きの声が出る。幼児なりに心を込めて作品づくりをする。年長児を2グループに分けて、それぞれの地区担当の民生委員さん福祉委員さん方などバトンタッチしながら、訪問していく。上がってもらいたがる方や、寝ていたり歩きにくい方など様々な高齢者の姿に出会う。ちょうど100歳を迎えたおばあさんとの出会いでは、園児たちも驚き、「100歳の歌」を歌ったり総理大臣からのお祝いを見たりしながら、100歳生きるという意味を実感している様子だった。」と報告している。

次に、三栖幼稚園区は、「衣笠山に登ろう」を実践し、公民館館長さん、主事さん、文化委員さん、保護者、小学校学社融合担当の先生が、園児たちと一緒に、地域のシンボルである衣笠山に登っている。衣笠山は、幼稚園の園歌、小学校、中学校の校歌にも歌われているそうだが、その『衣笠山に登らせてやりたい』というここ数年来のこの思いを、公民館主事さんをはじめ、地域の方々のおかげで課題を克服でき、ついに実現することができた。」とのことであった。圧巻は、この後に記された「幼稚園はもとより小・中学校、地域をあげて衣笠山に目を向け登ったり、衣笠山登山道の整備なども含め、親しみ、守っていけるような意識の広がりにつなげていければと思っている。」という部分であった。この意図を持って仕掛けられた学社融合は、公民館長さんから「課題であった衣笠山登山道の整備にも弾みがついた。」「頂上の笹を今度登るときまでに取り除けるよう、いろいろやってみている。次回は広場として使えるよ。」という言葉を引き出したのであった。田辺市では、学社融合が地域を変化させつつあることを明らかにした報告であった。

10. おわりに

田辺市の学社融合の歩みは、私の学社融合研究、実践の歩みでもある。したがって、田辺市の学社融合の15年を振り返ることは、私の15年を振り返ることでもあった。田辺市の実践に学び、田辺市の実践に学社融合の行く末を見据えてきた15年であった。

ようやくにして国は「支援」から「協働」へと舵を切り直すこととなったが、田辺市は10年も前にそれを行なっている。田辺市は、常に、学社融合の先駆者であり、先導者であった。毎年お送りいただいている実践記録がそれを証明している。実践記録集は田辺市の学社融合、大きく言えば田辺市の教育の歴史を綴ったものであり、田辺市の教育の未来を指し示すものである。そこには学社融合、教育へのその時々々の思いが記録され、未来への志向が記されてきた。

さて、第5ステージ、第6ステージにまで進展したと考えられる田辺市の学社融合は、今、どこに向かおうとしているのだろうか。

その未来の一つは、本年度の実践記録集に収められている「授業での学社融合で学力向上につなげる」(高雄中学校区)、「各学年共、学習ボランティアとの学習が定着し、学力向上を目標とした授業展開ができていく」(田辺第三小学校区)にあるように思う。

学校教育の本質的なねらいである学力の向上という目標と、社会教育(家庭教育も含む)の何らかの目標が合致し、子どもを育てる方向が共有化され、子どもを育てる活動が協働化された時、田辺市の学社融合はその真髄へと達するだろうと思っている。その日が来るのは、そう遠いことではないように思えてならない。

最後に、少しばかり助言したい。学社融合の考え方は田辺市の隅々まで定着し、活動も日常化、恒常化した。これは間違いないことである。その状態に至った時、何をするかであるが、神奈川県のある小学校の取り組みが参考になるかと思う。同校でも10年程度に及ぶ学社融合推進の歴史を持ち、今でも充実した実践が行なわれているが、3年に一度の割合で“初心に帰れ”研修が継続的に行なわれてきた。教職員には異動があるからである。公民館職員や、かかわる保護者、地域住民にも変化があるからである。実践は引き継がれるが、想いは引き継がれにくい。田辺市においても“初心に帰れ”研修が必要なかもしれない。(2016.03.11)